

## 4. 保護者調査結果

### (1) 保護者の就労状況

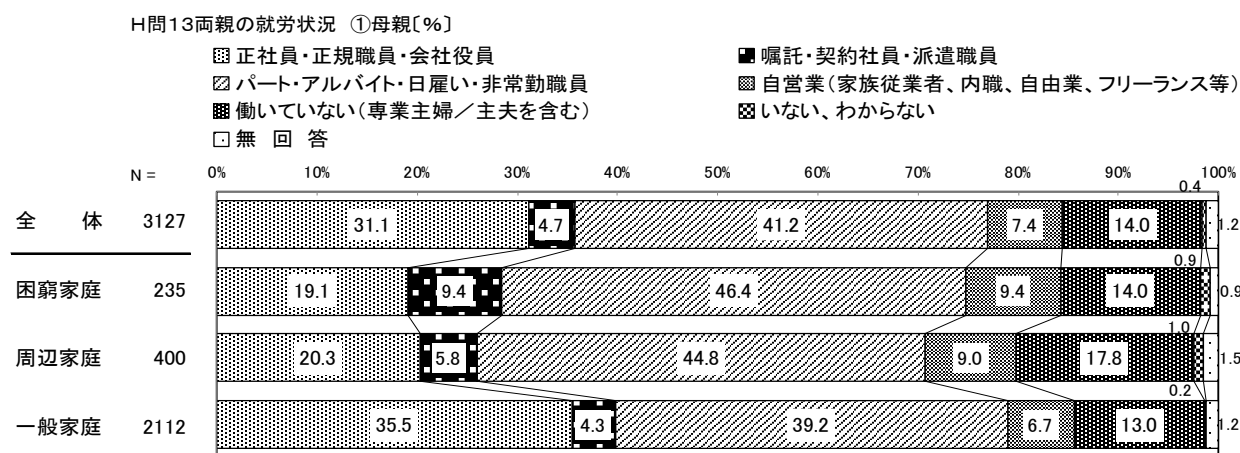
問 13 お子さんのご両親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

[母親の就労状況]

母親の就労状況については、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が 41.2%、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が 31.1%、「働いていない(専業主婦/主夫を含む)」が 14.0%となっている。

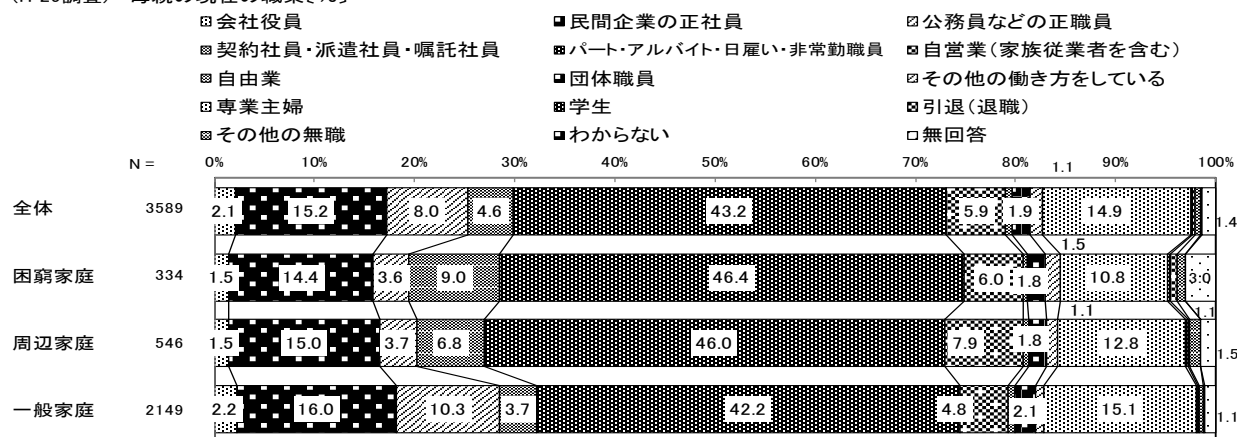
前回と一部選択肢が異なるものの、前回と比べて『正規』(今回「正社員・正規職員・会社役員」、前回「会社役員」、「民間企業の正社員」と「公務員などの正職員」の計)が増えている。

生活困窮度別では、生活困難家庭で「正社員・正規職員・会社役員」が 20%前後と一般家庭と比べて少ない。



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 母親の現在の職業[%]



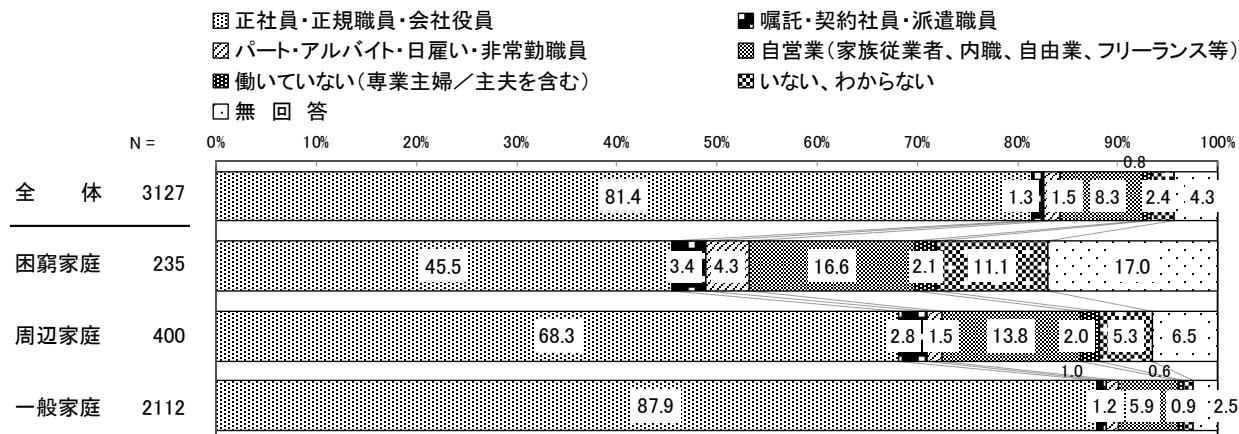
[父親の就労状況]

父親の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」が 81.4%、次いで「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランス等)」が 8.3%となっている。

前回と一部選択肢が異なるものの、前回と比べて『正規』(今回「正社員・正規職員・会社役員」、前回「会社役員」、「民間企業の正社員」と「公務員などの正職員」の計)が増えている。

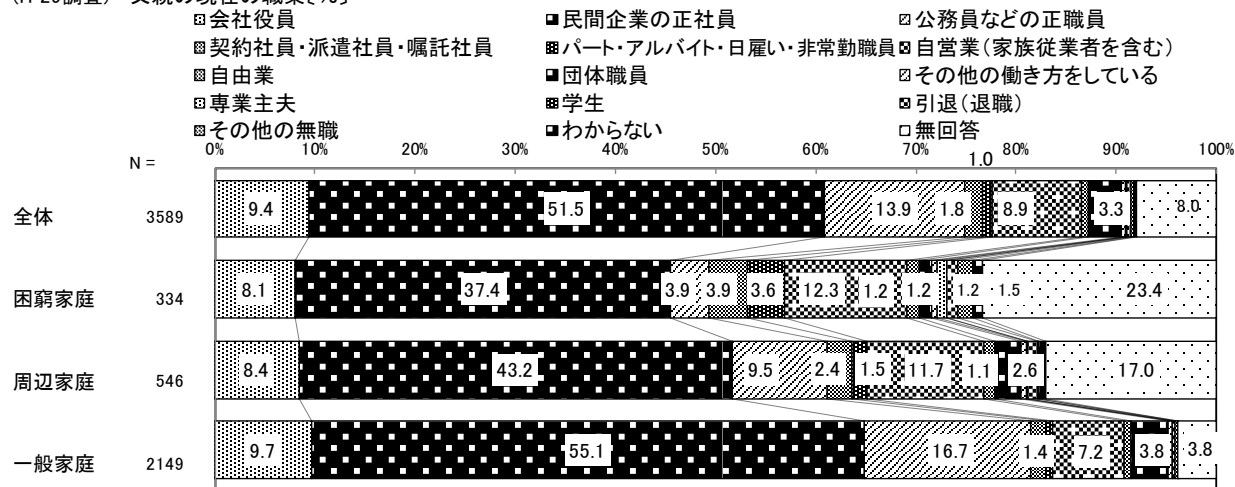
生活困窮度別では、困窮家庭で「正社員・正規職員・会社役員」が 45.5%と他の区分と比べて少なくなっている一方、「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランス等)」が 16.6%と多くなっている。

H問13両親の就労状況 ②父親[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 父親の現在の職業[%]



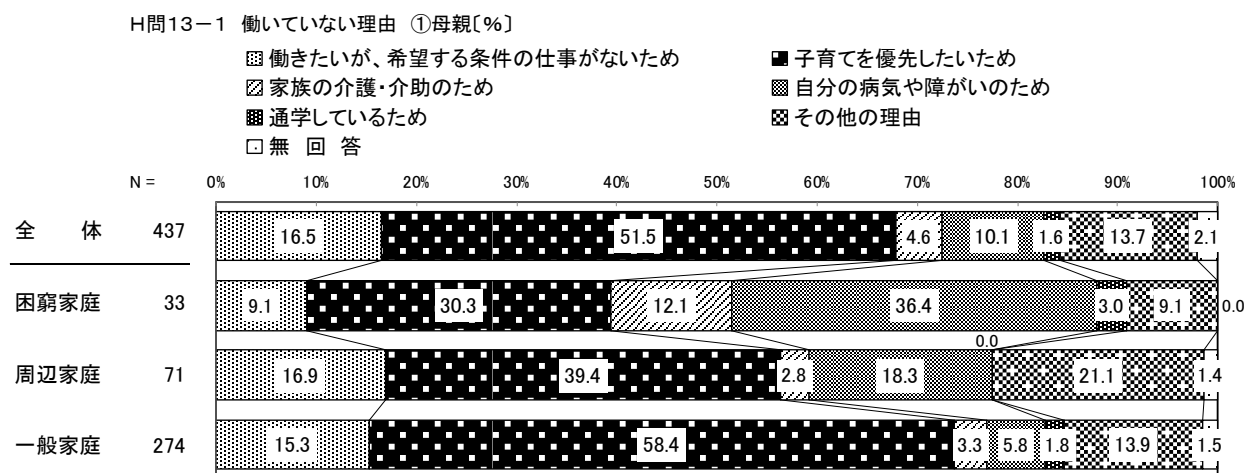
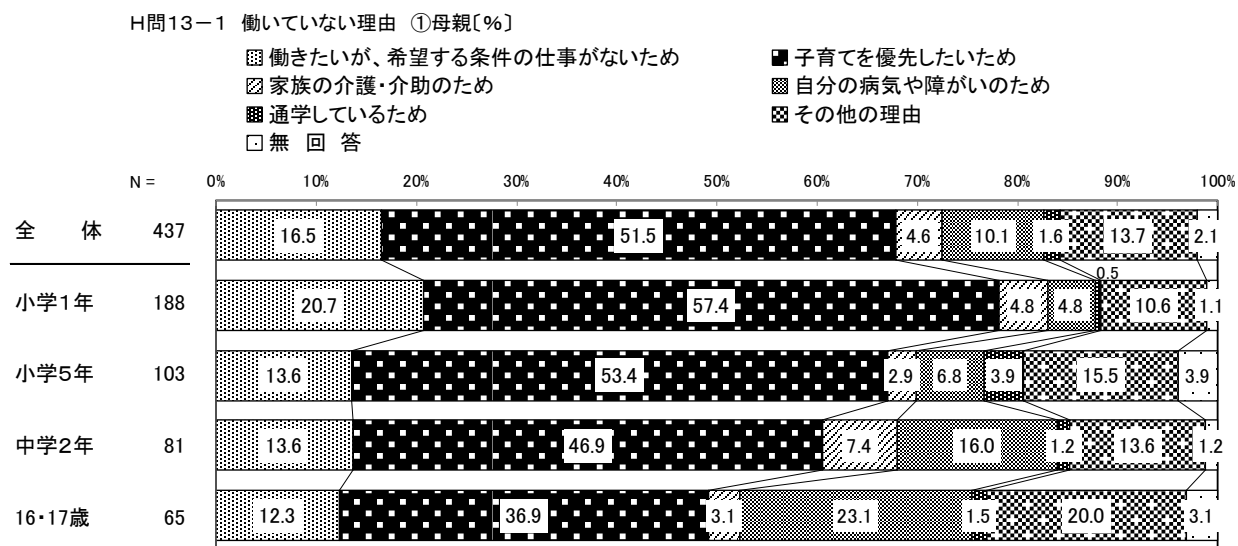
問 13-1 前問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない主な理由を教えてください。

[母親の働いていない理由]

母親の働いていない理由は、「子育てを優先したいため」が 51.5%と最も多く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が 16.5%である。

学年別では、16・17 歳で他の学年に比べて「子育てを優先したいため」が 36.9%と少なく、「自分の病気や障がいのため」が 23.1%と多い。

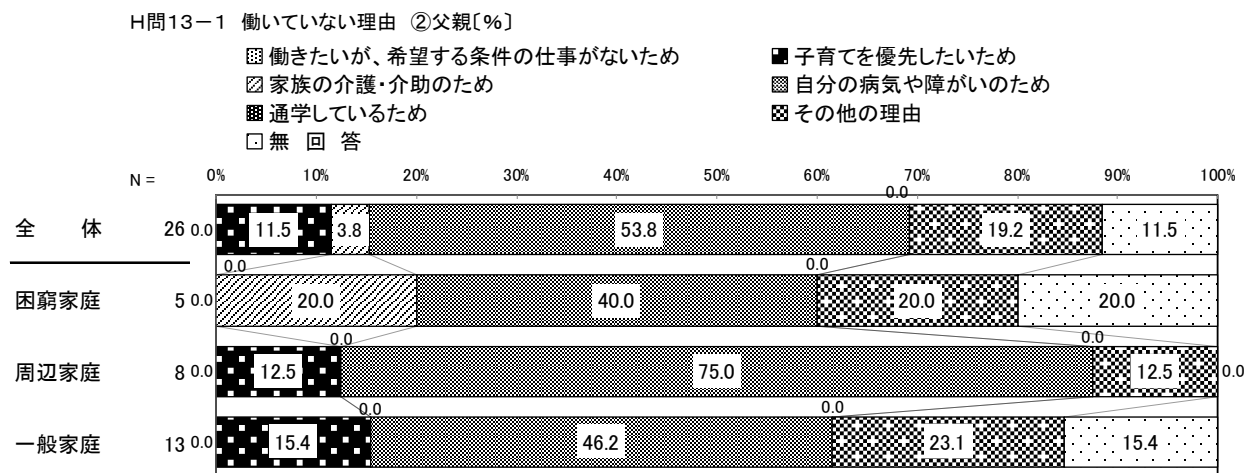
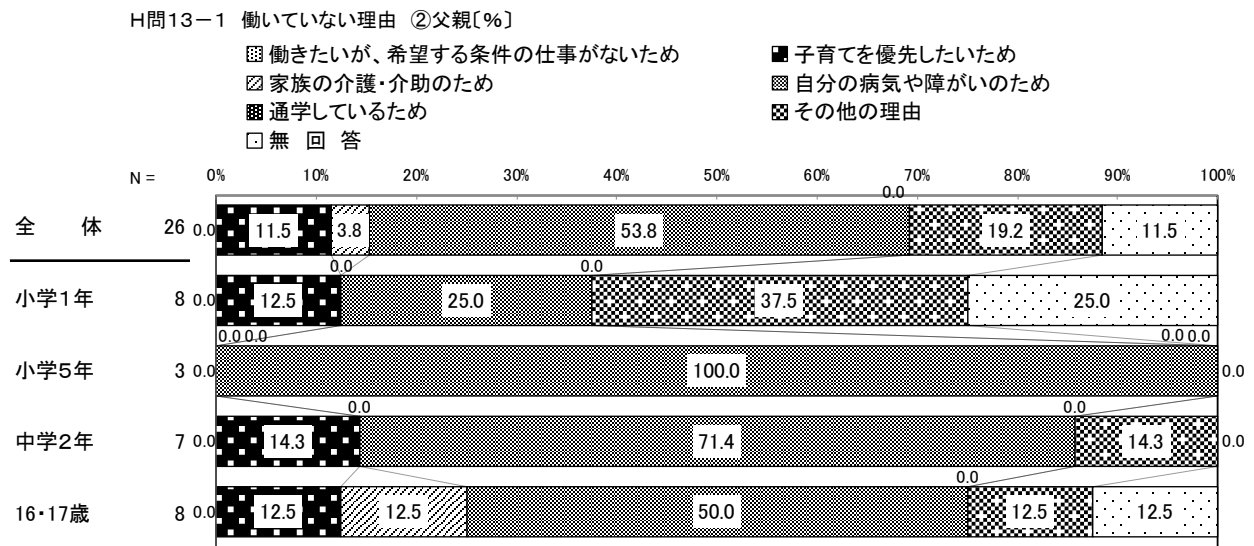
生活困窮度別では、困窮家庭で他の区分に比べて「子育てを優先したいため」が 30.3%と少なく、「自分の病気や障がいのため」が 36.4%と多い。



[父親の働いていない理由]

父親の働いていない理由は、回答数は少ない\*が、「自分の病気や障がいのため」が53.8%と最も多い。

生活困窮度別では、回答数は少ない\*が、困窮家庭で「家族の介護・介助のため」が20.0%、周辺家庭で「自分の病気や障がいのため」が75.0%となっている。



\*父親が働いていない理由に関しては、集計対象件数が少ないため解釈等が難しいが、集計結果を示した

## (2)教育に関すること

問 14 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。

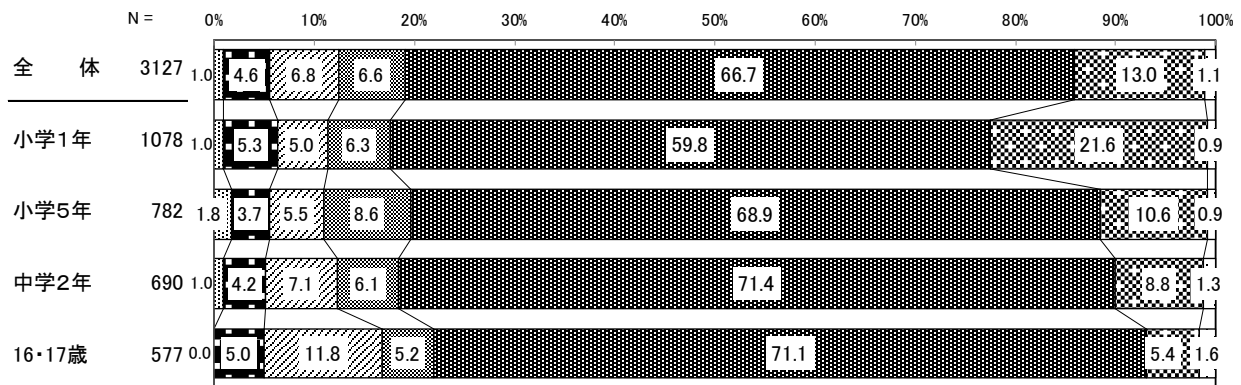
[理想的な教育段階]

理想的な教育段階は、「大学またはそれ以上」が 66.7%と多く、学年別でも、小学5年、中学2年、16・17歳で70%前後となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で他の区分に比べて「大学またはそれ以上」が 44.7%と少なく、「専門学校」が14.5%、「高校」が11.1%と多く回答されている。

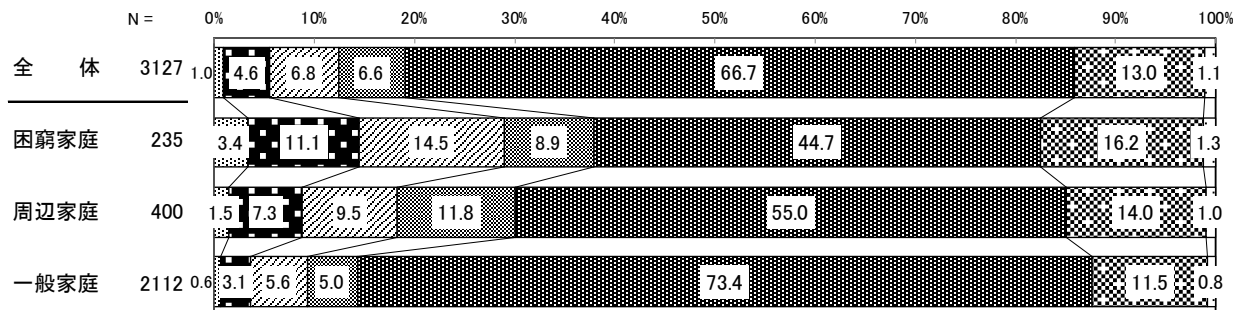
H問14 ①理想的な教育段階[%]

■ 中学 ■ 高校 ▨ 専門学校 ■ 短大・高専 ■ 大学またはそれ以上 ▨ まだわからない □ 無回答



H問14 ①理想的な教育段階[%]

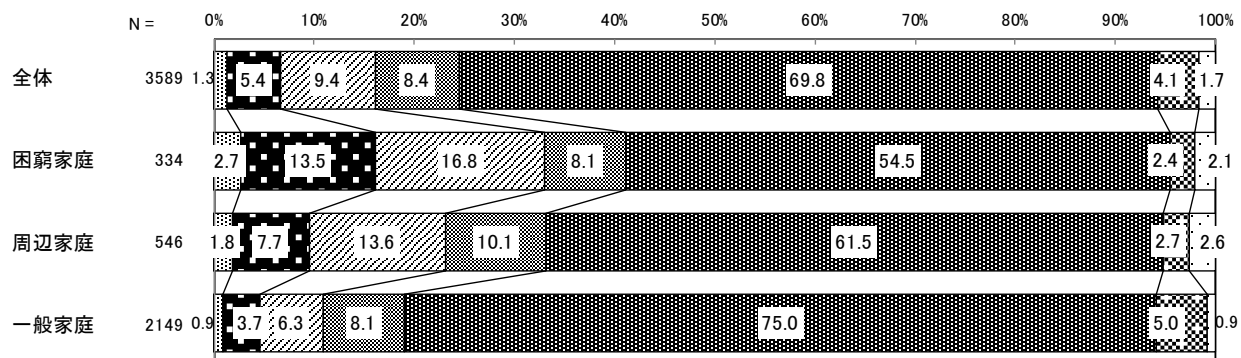
■ 中学 ■ 高校 ▨ 専門学校 ■ 短大・高専 ■ 大学またはそれ以上 ▨ まだわからない □ 無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問15 理想的な教育段階[%]

■ 中学 ■ 高校 ▨ 専門学校 ■ 短大・高専 ■ 大学 ■ 大学院 □ 無回答

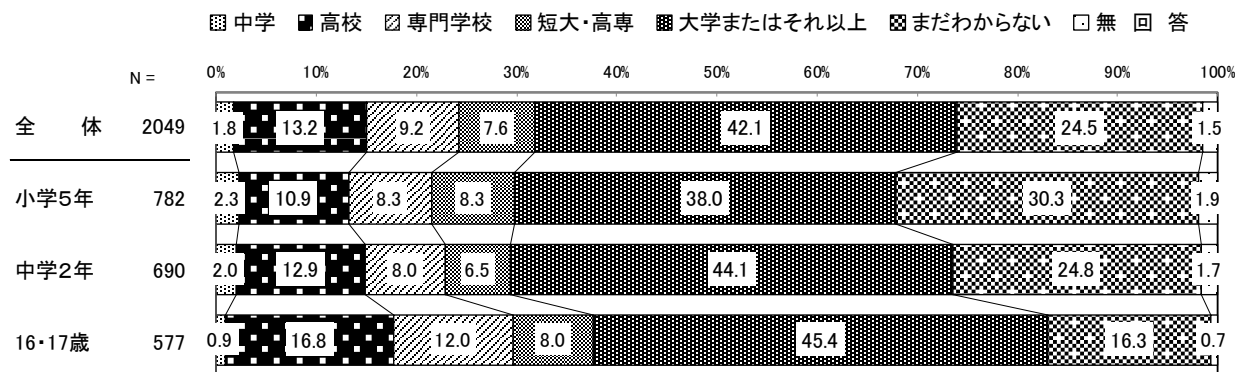


### [現実的な教育段階]

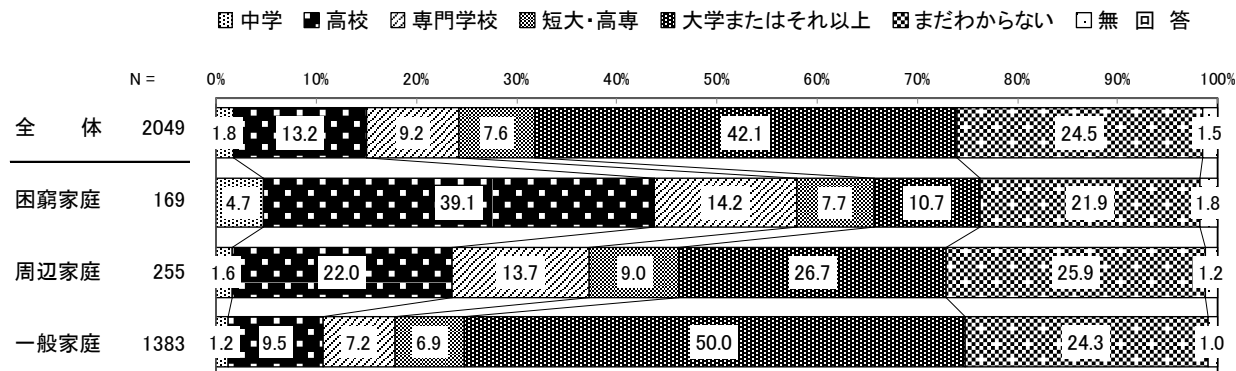
現実的な教育段階(小学1年以外)は、「大学またはそれ以上」が 42.1%と多く、学年別でも 30%台後半～40%台となっている。

生活困窮度別では、一般家庭で「大学またはそれ以上」が 50.0%となっている一方、困窮家庭で 10.7%と少なく、「高校」が 39.1%と多く回答されている。前回と一部選択肢が異なるものの、この傾向は、前回同様となっている。

H問14 ②現実的な教育段階[%]

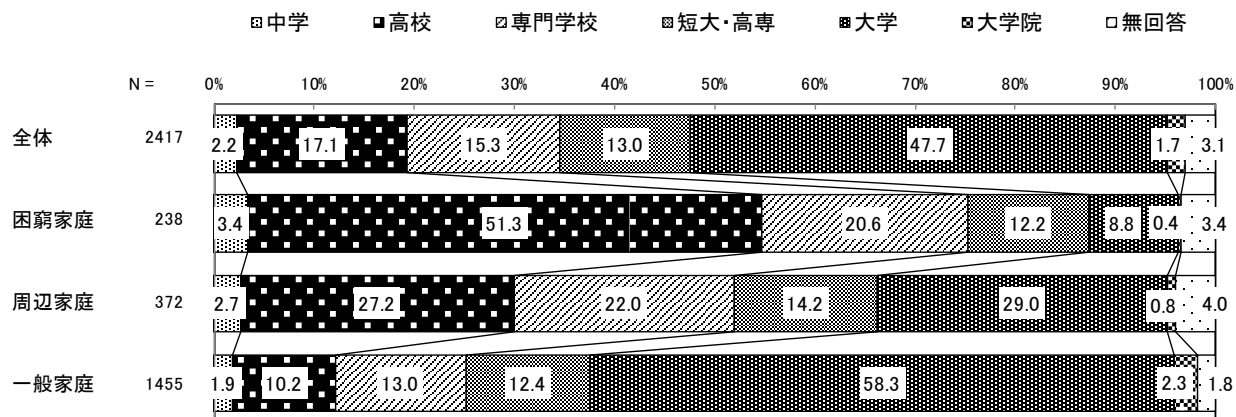


H問14 ②現実的な教育段階[%]



### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問15 現実的な教育段階[%]

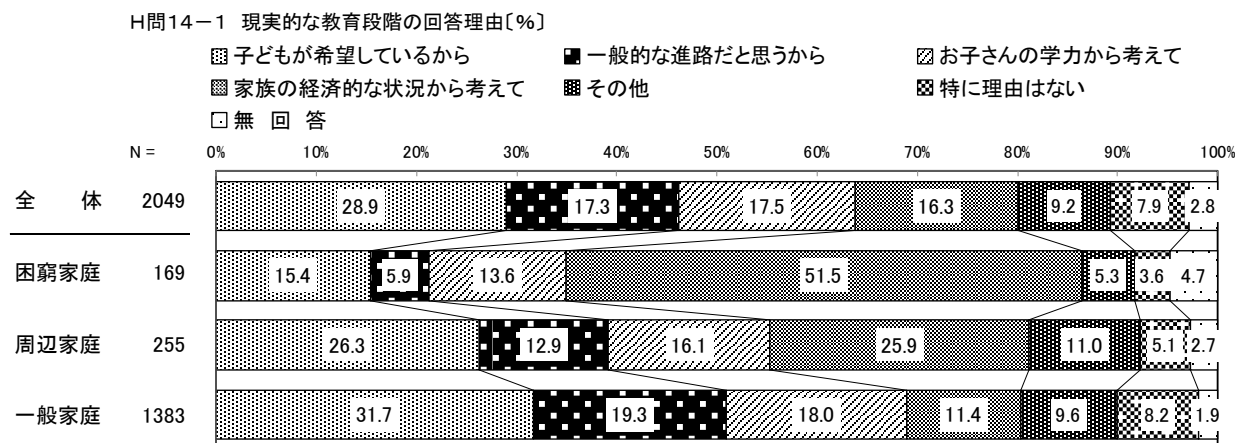
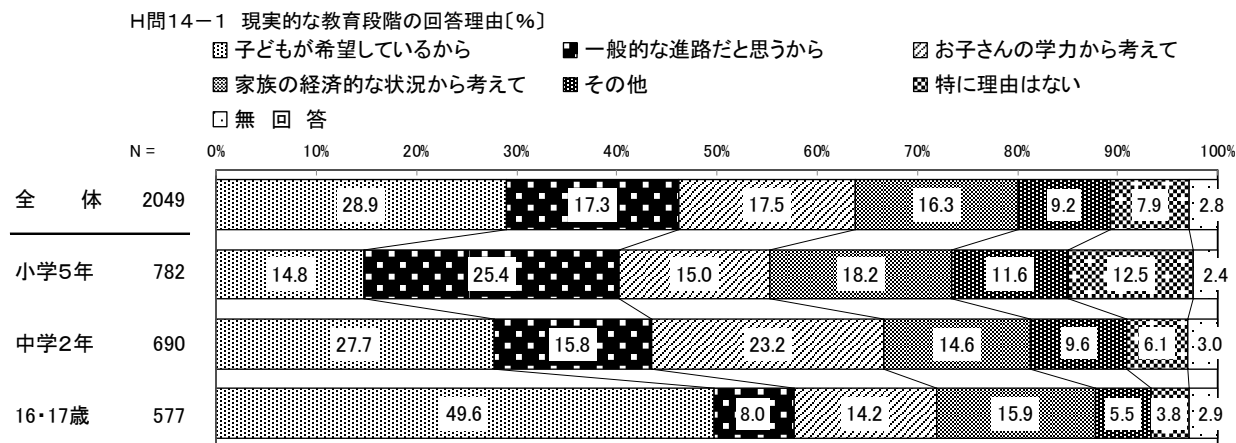


問 14-1 前問の②現実的な教育段階で、そのように答えた理由を選んでください。(小学1年以外)

現実的な教育段階について保護者がそう考える理由は、「子どもが希望しているから」が 28.9%と最も多く、学年別では、学年が上がるにつれ、その割合が高くなり、16・17 歳で 49.6%とほぼ半数が回答している。

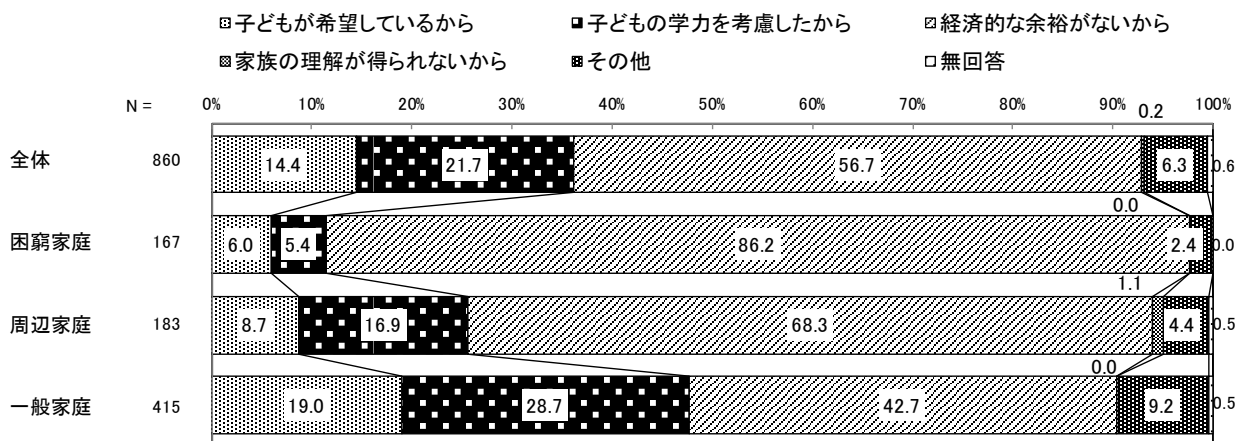
生活困窮度別では、困窮家庭では、「子どもが希望しているから」は 15.4%となっており、最も主な理由として回答されたのは「家族の経済的な状況から考えて」の 51.5%となっている。前回とは、一部選択肢が異なるものの、前回と比べて「子どもが希望しているから」と回答した割合が多くなり、「経済的な理由」を回答した割合は少なくなっている。

[現実的な段階の理由 (小学1年の保護者以外)]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問15-1受けさせたい教育の理想と現実に違いがある理由[%]



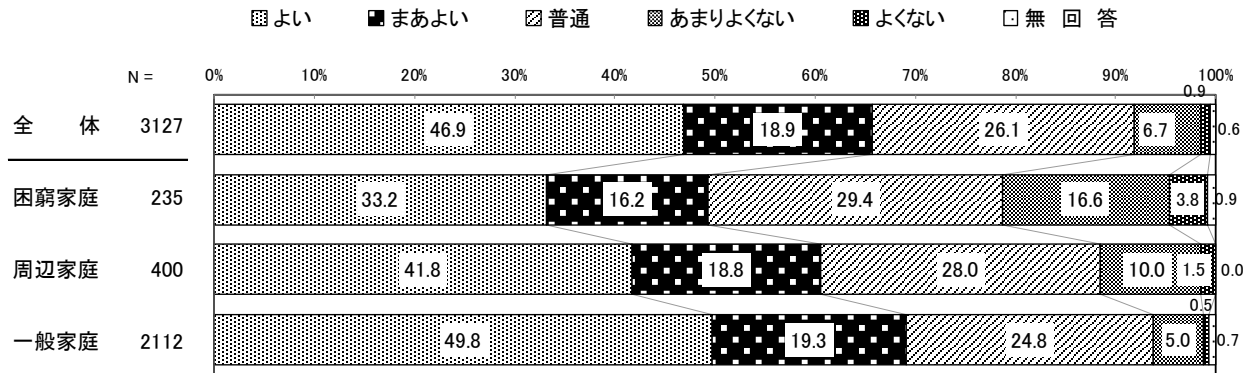
### (3)保護者と子どもの健康状態など

問 15 あなたの健康状態についてお伺いします。

[保護者自身の健康状態]

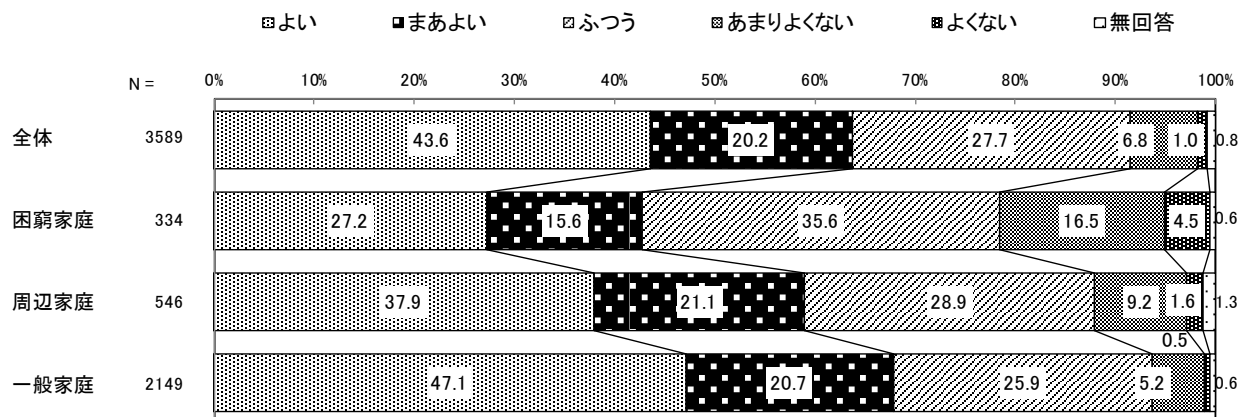
保護者自身の健康状態は、「よい」が46.9%と多く、「まあよい」と「普通」を合わせると90%を超えるが、生活困窮度別では、困窮家庭は「よい」が33.2%と少なく、「まあよい」と「普通」を合わせると78.8%である。

H問15健康状態 ①保護者[%]



[参考: 前回調査結果]

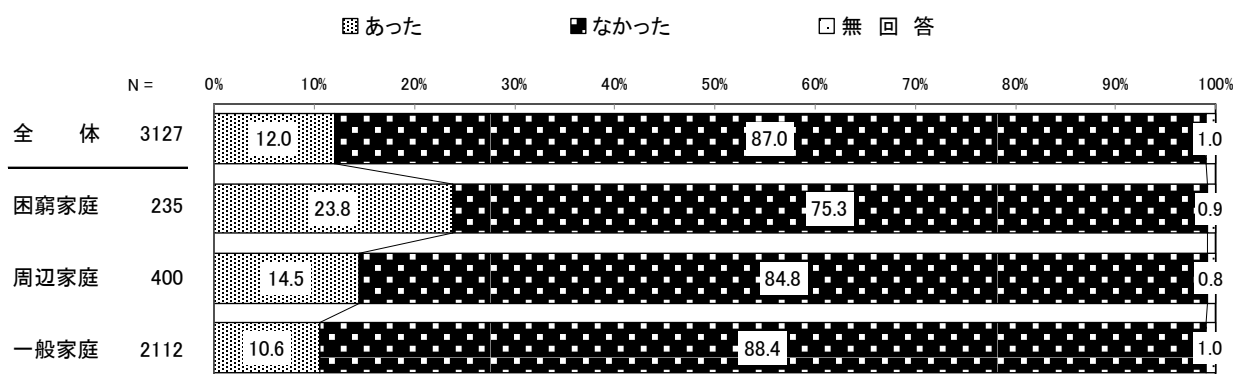
(H 29調査) H問16 健康状態(保護者)[%]



問 16 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。

全体で12.0%の保護者が、過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことが「あった」と回答しており、生活困窮度別では、困窮家庭で23.8%回答されている。前回と比べて、受診させなかったことが「あった」の回答割合は少なくなっている。

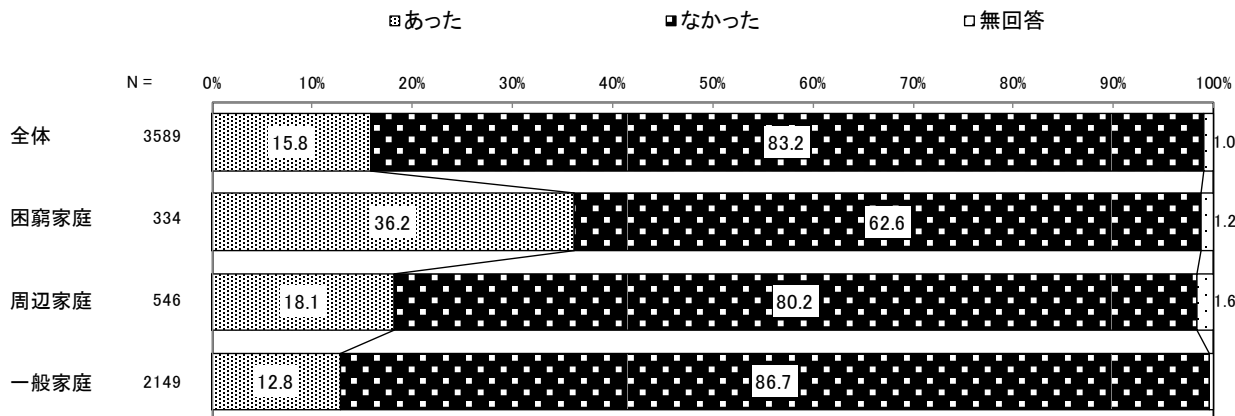
H問16 過去1年間に医療機関を受診させなかったこと[%]





[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 過去1年間に医療機関で受診させなかったこと[%]

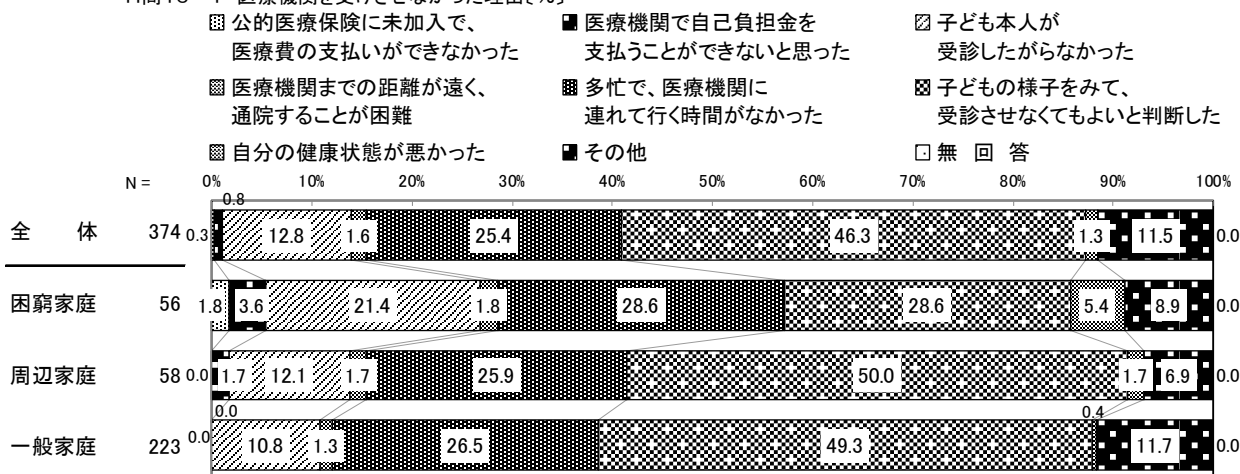


問 16-1 「1 あった」と回答した方にお伺いします。その理由は、何ですか。

受診させなかった理由は、「子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断した」が 46.3%と最も多く回答されている。

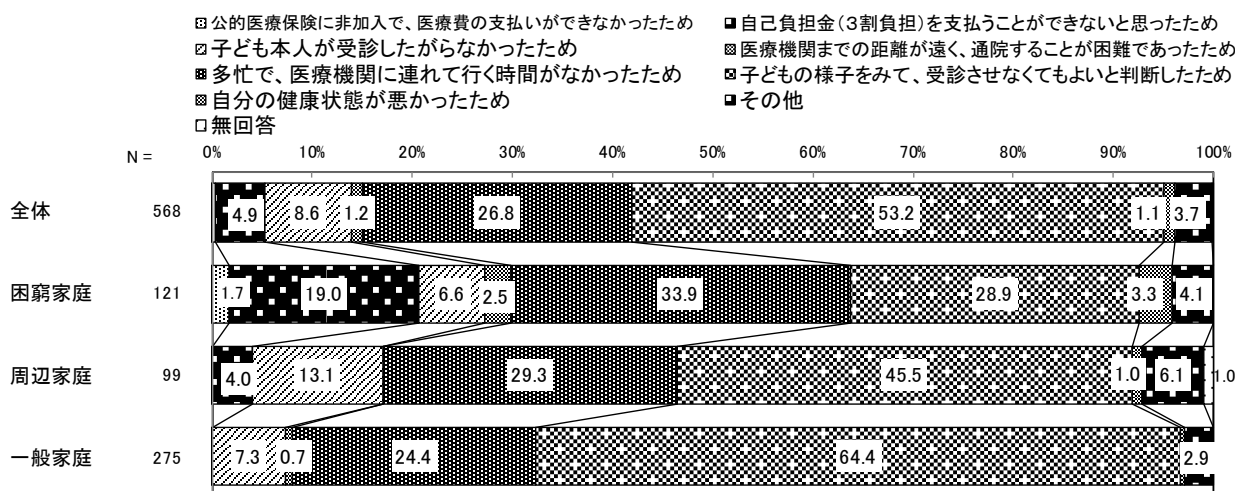
生活困窮度別では、困窮家庭について「自己負担金(3割負担)を支払うことができないと思ったため」が前回では 19.0%回答されていたが、今回調査では 3.6%と少なくなっている。

H問 16-1 医療機関を受けさせなかった理由[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 医療機関を受けさせなかった理由[%]

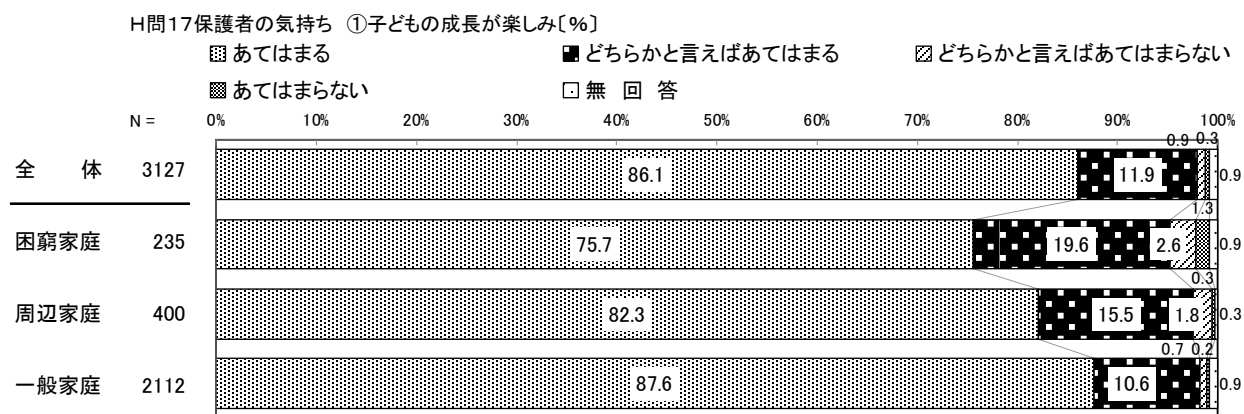
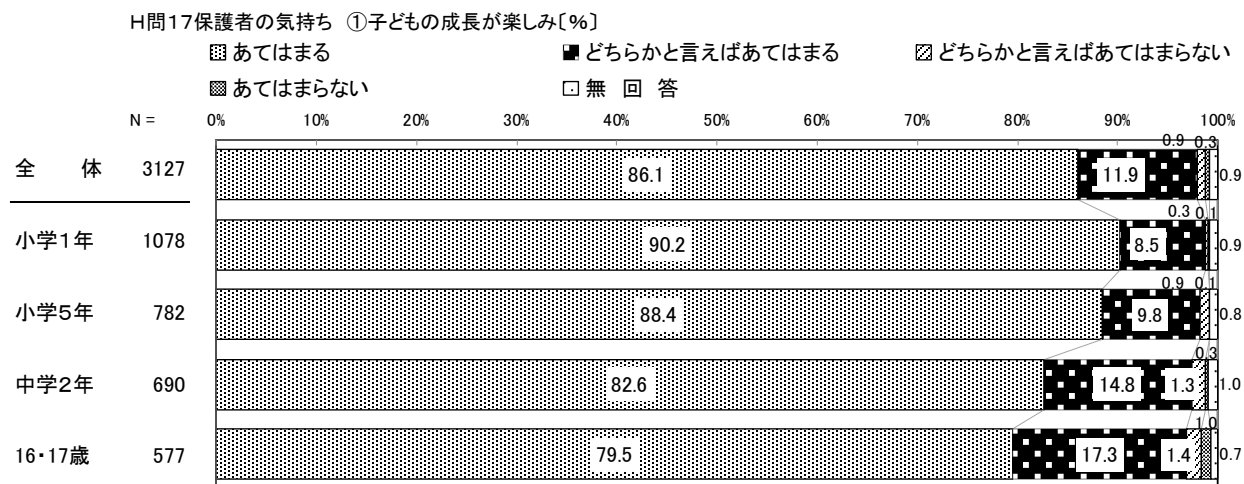


問 17 次の質問について、あなたの気持ちをお聞かせください。

[子どもの成長が楽しみだ]

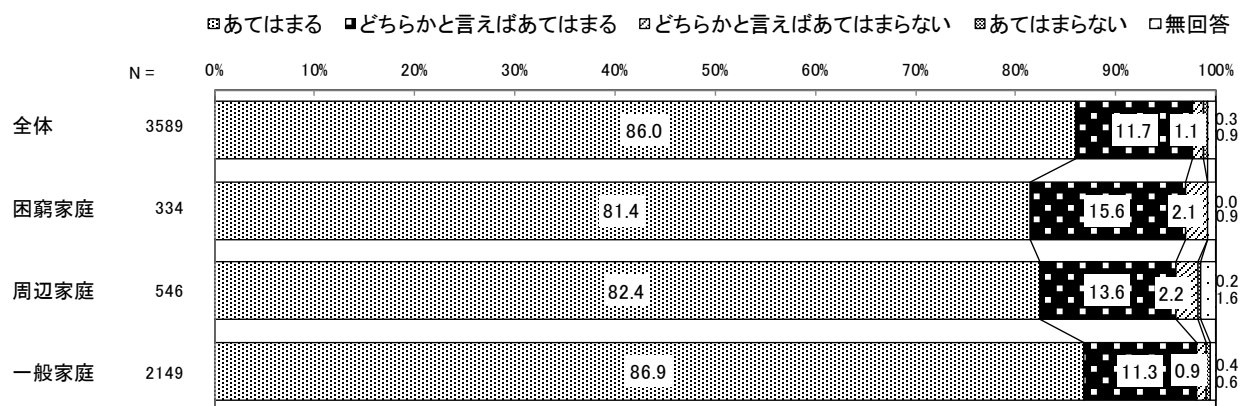
子どもの成長が楽しみという気持ちが『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」の計)という回答は98.0%と大半を占めており、前回の97.7%とほぼ同程度である。

「あてはまる」だけでみると、生活困窮度別では、一般家庭は87.6%であったが、困窮家庭は75.7%と少なく、前回の81.4%と比べても少なくなっている。



[参考:前回調査結果]

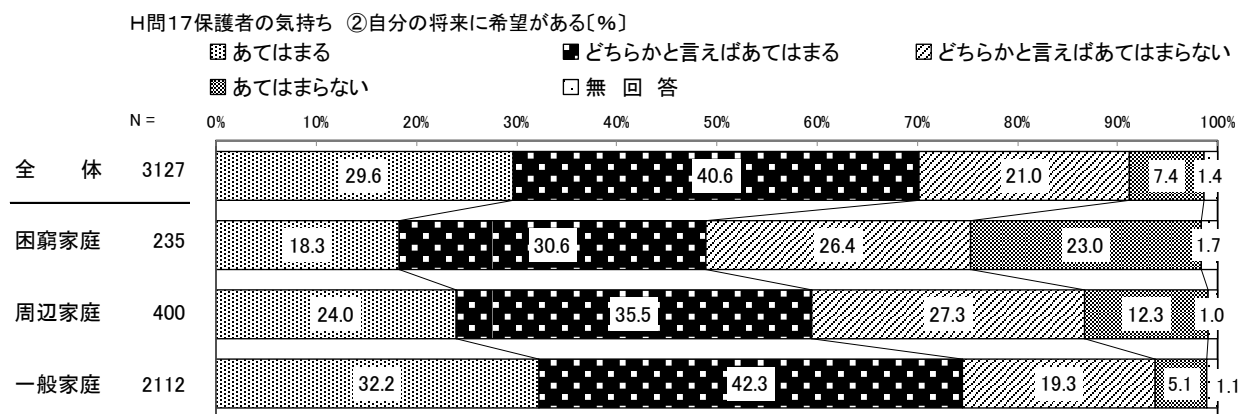
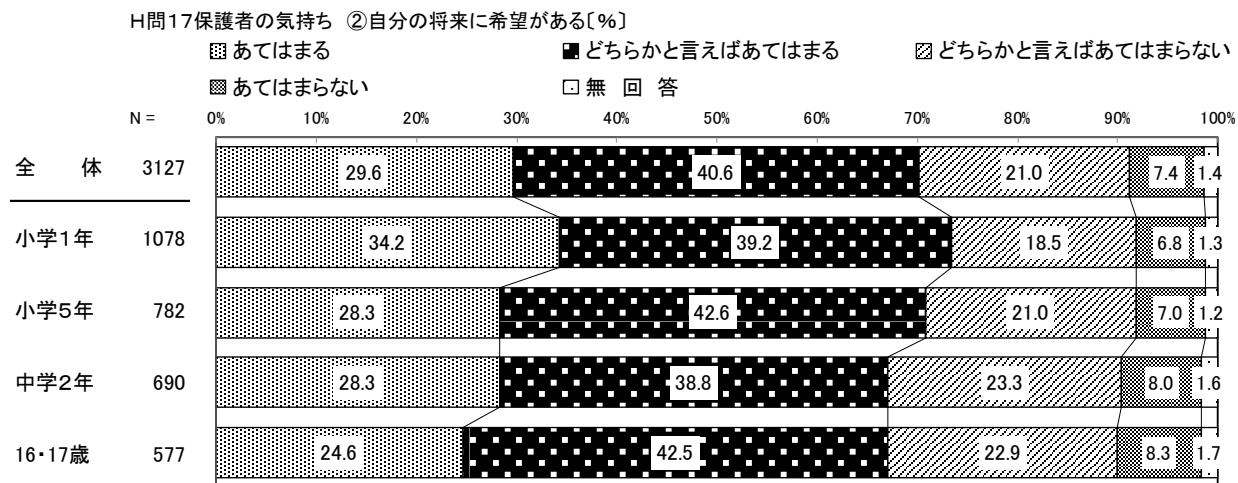
(H 29調査) H問19 子どもの成長が楽しみ[%]



[自分の将来に希望を持っている]

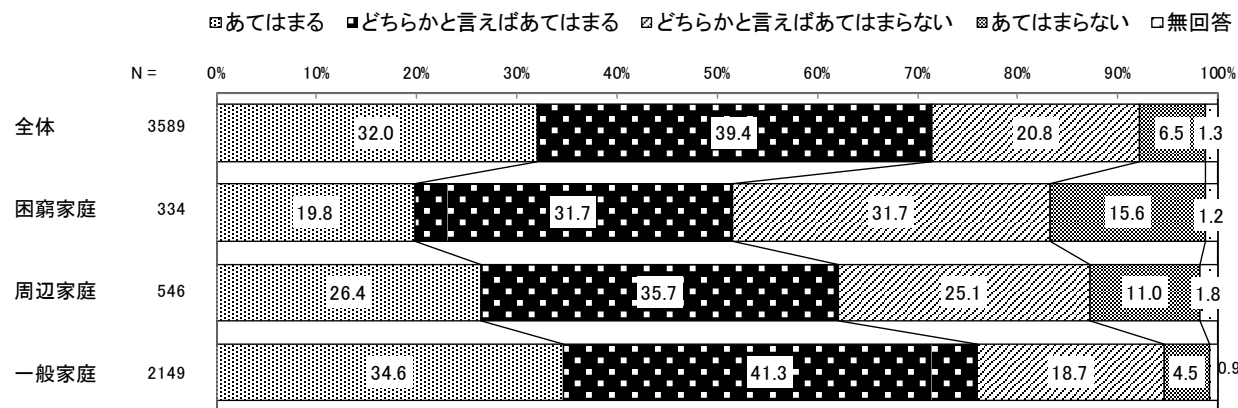
自分の将来に希望を持っているという気持ちが『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」の計)という回答は 70.2%、『あてはまらない』(「どちらかと言えばあてはまらない」と「あてはまらない」の計)は 28.4%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『あてはまる』が 48.9%と、『あてはまらない』の 49.4%と同程度になっており、前回の『あてはまる』51.5%、『あてはまらない』47.3%と同じ傾向となっている。



[参考: 前回調査結果]

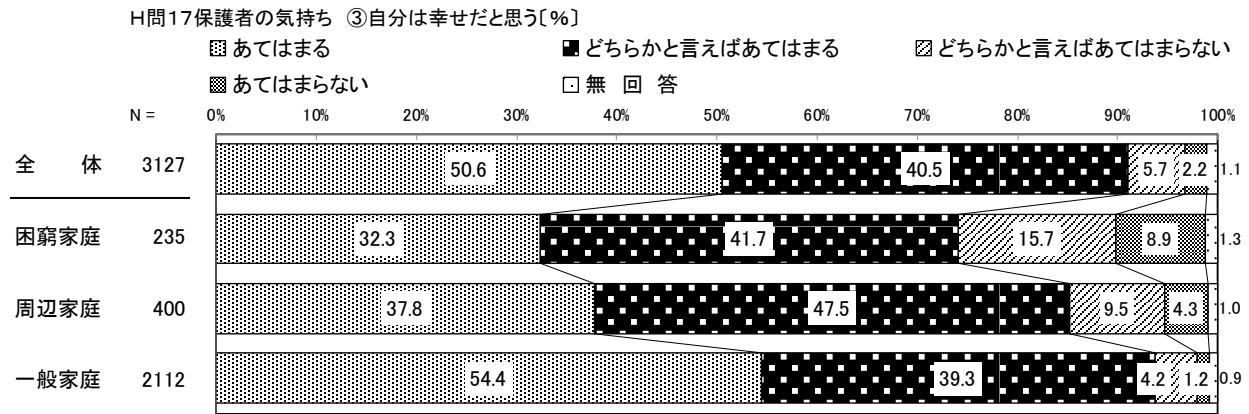
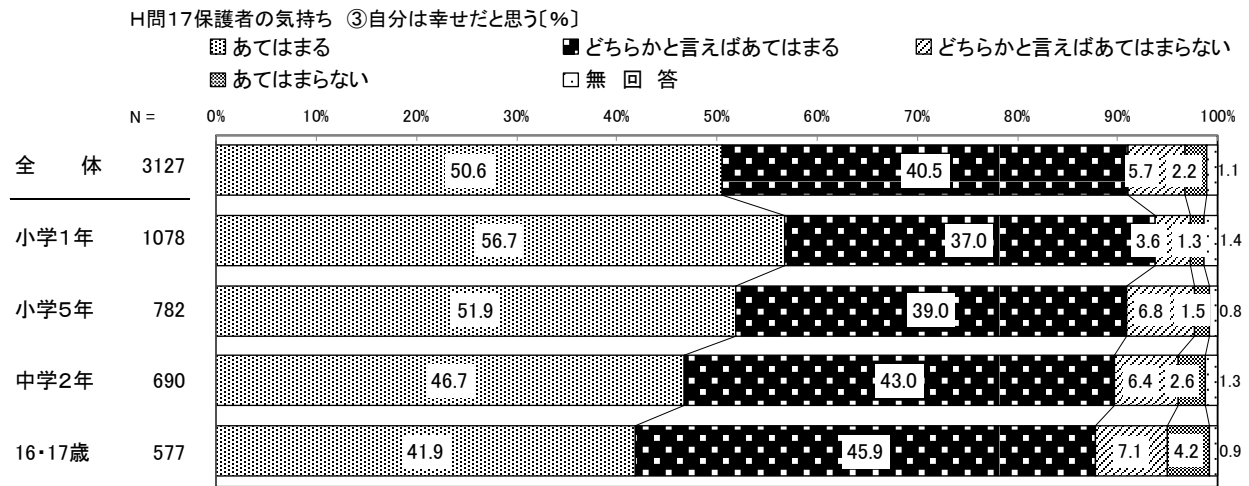
(H 29調査) H問19 自分の将来に希望を持っている[%]



[自分は幸せだと思う]

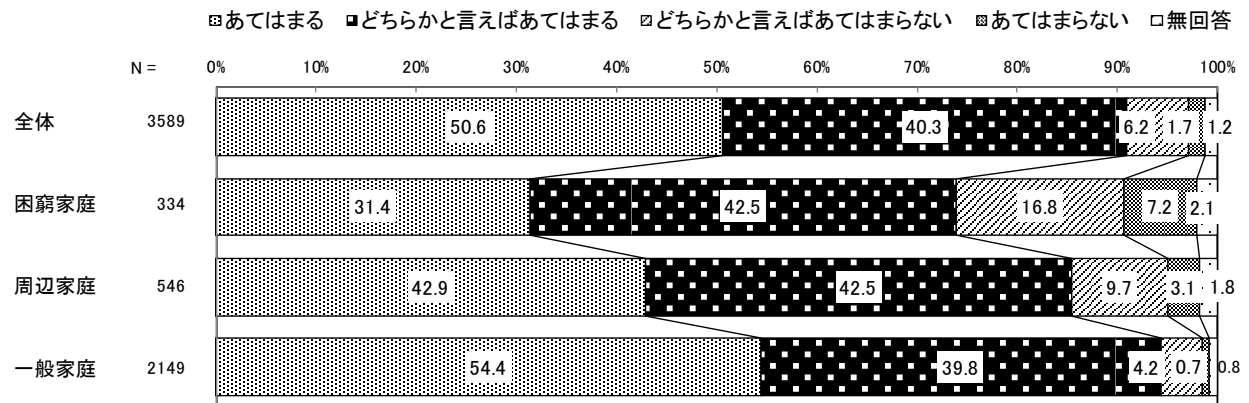
自分は幸せだと思う気持ちが『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」の計)という回答は91.1%となっており、前回の90.9%と同程度となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『あてはまる』は74.0%と少なく、前回の73.9%と同程度となっている。



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問19 自分は幸せだと思う[%]



問 18 子育てをする上で、あなたが大変だと感じていること、悩んでいることを選んでください。

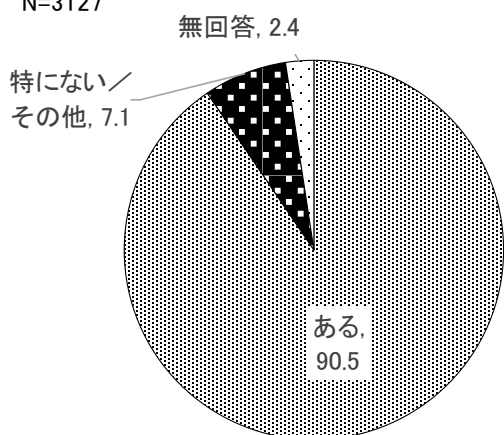
子育てで大変だと感じること・悩みについては、「将来の進学のための学費の貯金等」が 48.0%と最も多く、「子どもの健康管理・食生活」、「学習習慣の定着・学力の向上」、「教育費の確保」、「子どもの受験・進学」がそれぞれ 40%前後と多い。

学年別では、子どもの学年によって異なり、小学1年の保護者は「子どもの健康管理・食生活」、「仕事と子育ての両立」や「子どものしつけが難しいこと」、小学5年の保護者は「学習習慣の定着・学力の向上」「子どもの健康管理・食生活」が 40%台と多い。中学2年と 16・17 歳で「子どもの受験・進学」が 50%前後と多く、16・17 歳は「子どもの将来の就職」も 42.8%と多い。前回と比べて、小学1年の保護者では「仕事と子育ての両立」が多くなっている。小学5年、中学2年、16・17 歳は「子どもの健康管理・食生活」が前回よりも多く回答されている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「将来の進学のための学費の貯金等」が 79.6%と多く、次いで「生活費の確保」、「教育費の確保」が 70%を超えて特に多く、前回と同じ傾向となっている。

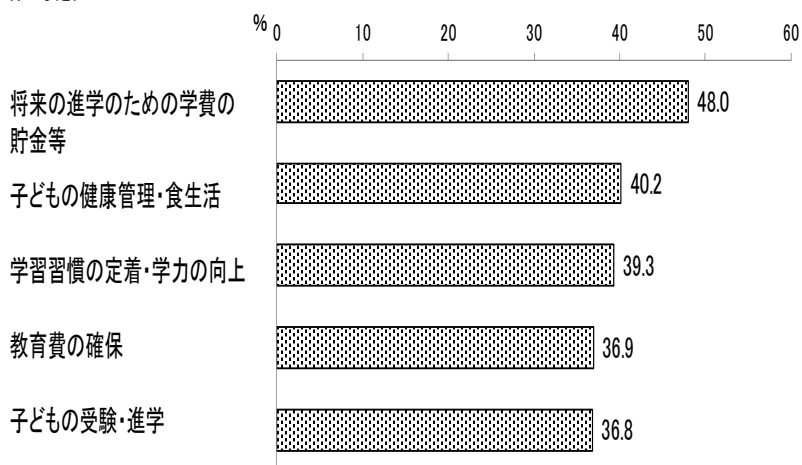
H問18子育てで大変だと思うこと[%]

N=3127



N = 3127

H問18 子育てで大変と感じること・悩み(上位5項目)[%・複数回答]



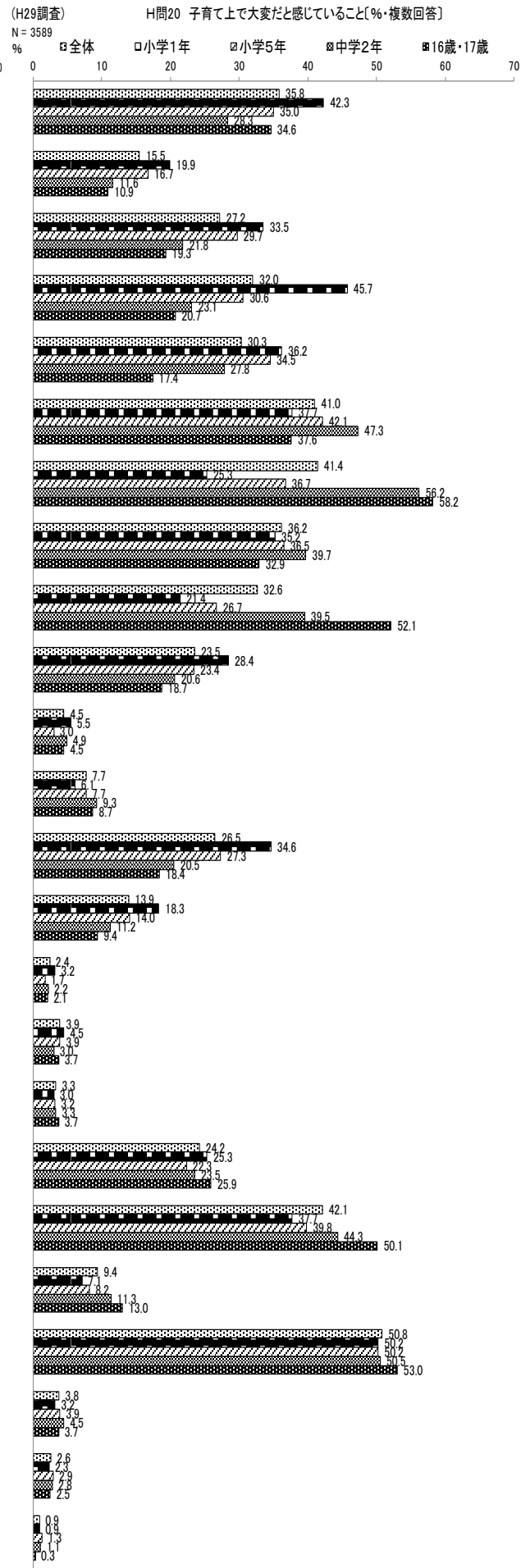
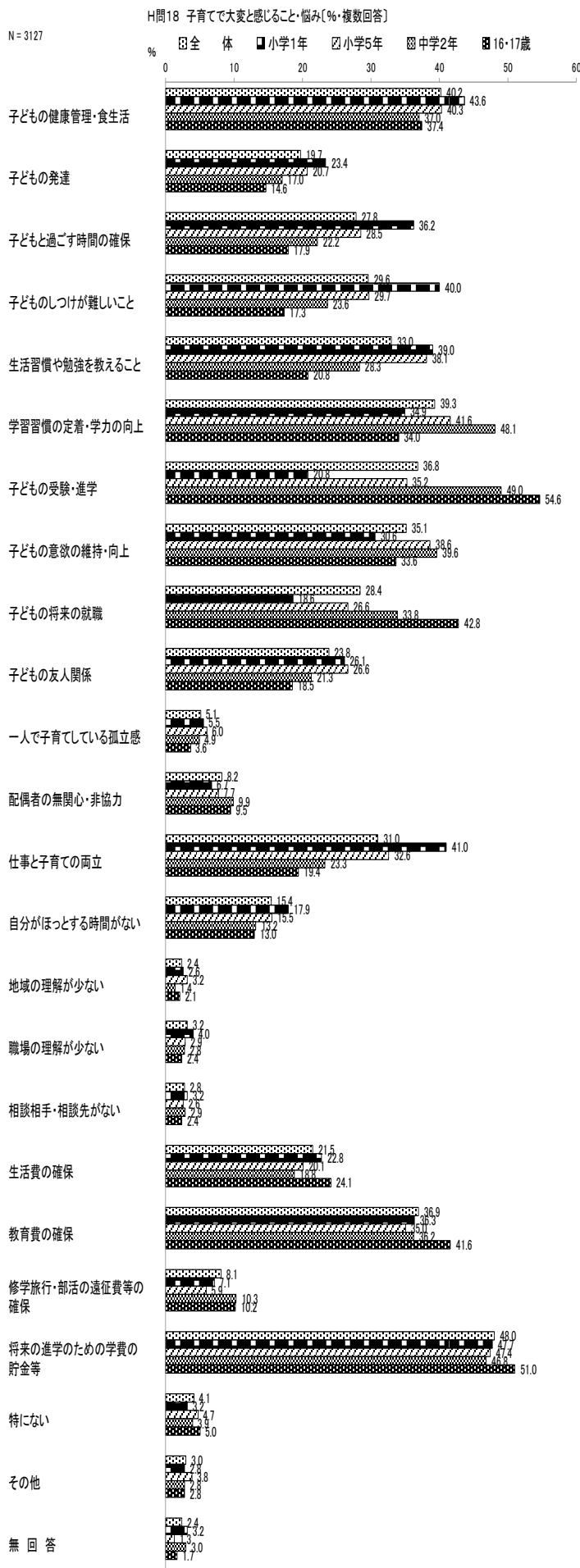
子育てで大変と感じること(上位5位)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	将来の進学のための学費の貯金等 (48.0%)	子どもの健康管理・食生活 (40.2%)	学習習慣の定着・学力の向上 (39.3%)	教育費の確保 (36.9%)	子どもの受験・進学 (36.8%)
小学1年	将来の進学のための学費の貯金等 (47.7%)	子どもの健康管理・食生活 (43.6%)	仕事と子育ての両立 (41.0%)	子どものしつけが難しいこと (40.0%)	生活習慣や勉強を教えること (39.0%)
小学5年	将来の進学のための学費の貯金等 (47.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.6%)	子どもの健康管理・食生活 (40.3%)	子どもの意欲の維持・向上 (38.6%)	生活習慣や勉強を教えること (38.1%)
中学2年	子どもの受験・進学 (49.0%)	学習習慣の定着・学力の向上 (48.1%)	将来の進学のための学費の貯金等 (46.8%)	子どもの意欲の維持・向上 (39.6%)	子どもの健康管理・食生活 (37.0%)
16・17歳	子どもの受験・進学 (54.6%)	将来の進学のための学費の貯金等 (51.0%)	子どもの将来の就職 (42.8%)	教育費の確保 (41.6%)	子どもの健康管理・食生活 (37.4%)

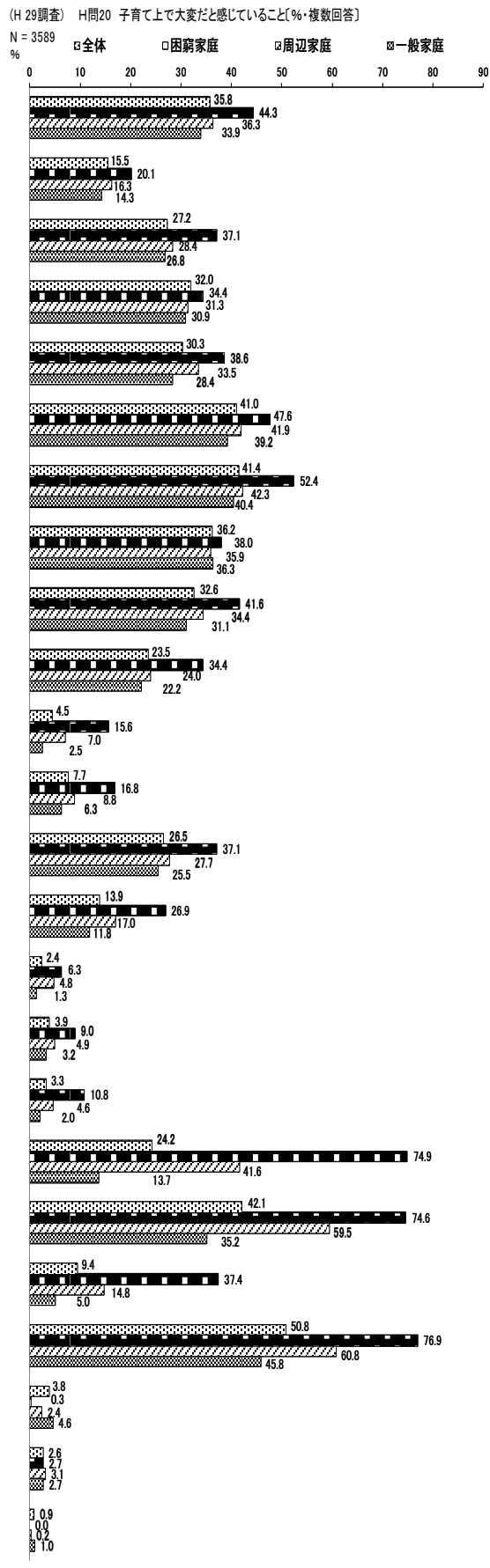
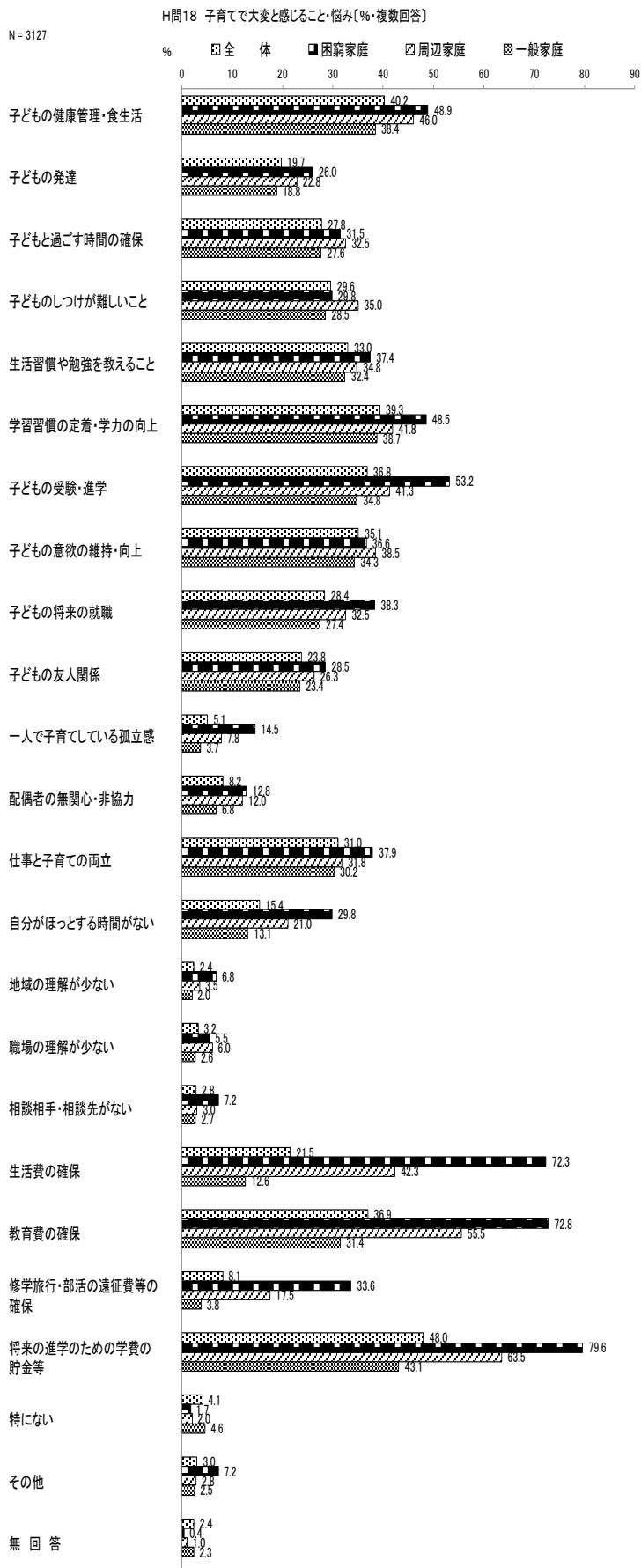
[参考: 前回調査結果]

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	将来の進学のための学費の貯金等 (50.8%)	教育費の確保 (42.1%)	子どもの受験・進学 (41.4%)	学習習慣の定着・学力の向上 (41.0%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.2%)
小学1年	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	子どものしつけが難しいこと (45.7%)	子どもの健康管理・食生活 (42.3%)	教育費の確保 (37.7%)	学習習慣の定着・学力の向上 (37.7%)
小学5年	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	学習習慣の定着・学力の向上 (42.1%)	教育費の確保 (39.8%)	子どもの受験・進学 (36.7%)	子どもの意欲の維持・向上 (36.5%)
中学2年	子どもの受験・進学 (56.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (50.5%)	学習習慣の定着・学力の向上 (47.3%)	教育費の確保 (44.3%)	子どもの意欲の維持・向上 (39.7%)
16・17歳	子どもの受験・進学 (58.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (53.0%)	子どもの将来の就職 (52.1%)	教育費の確保 (50.1%)	学習習慣の定着・学力の向上 (37.6%)

[参考: 前回調査結果]



[参考: 前回調査結果]



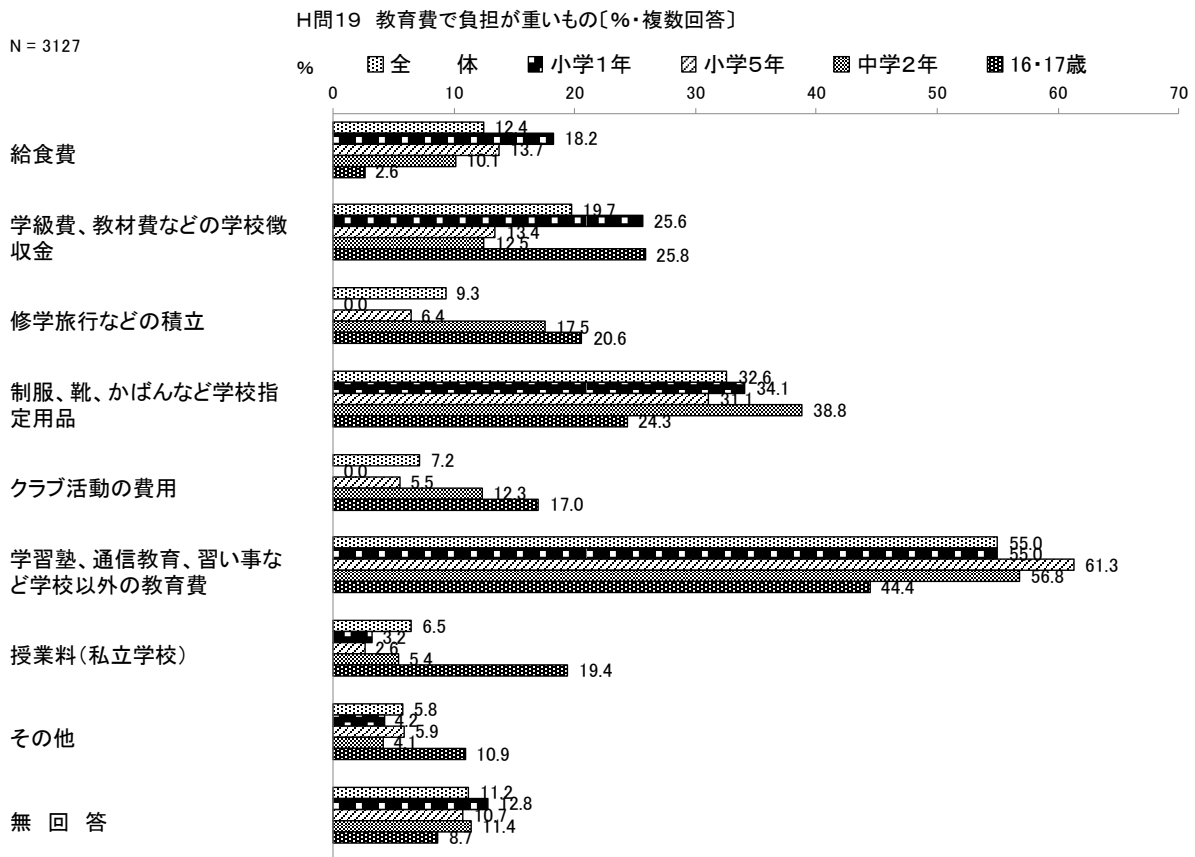
## (4)子育てにかかる費用

### 問 19 お子さんの教育費のうち負担が重いものは何ですか。

教育費で負担が重いものについては、「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」が 55.0%と最も多く回答されている。

学年別では、16・17 歳で「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」が 44.4%と他の学年と比べて少なく、「クラブ活動の費用」、「授業料(私立学校)」、「学級費、教材費などの学校徴収金」が多くなっている。

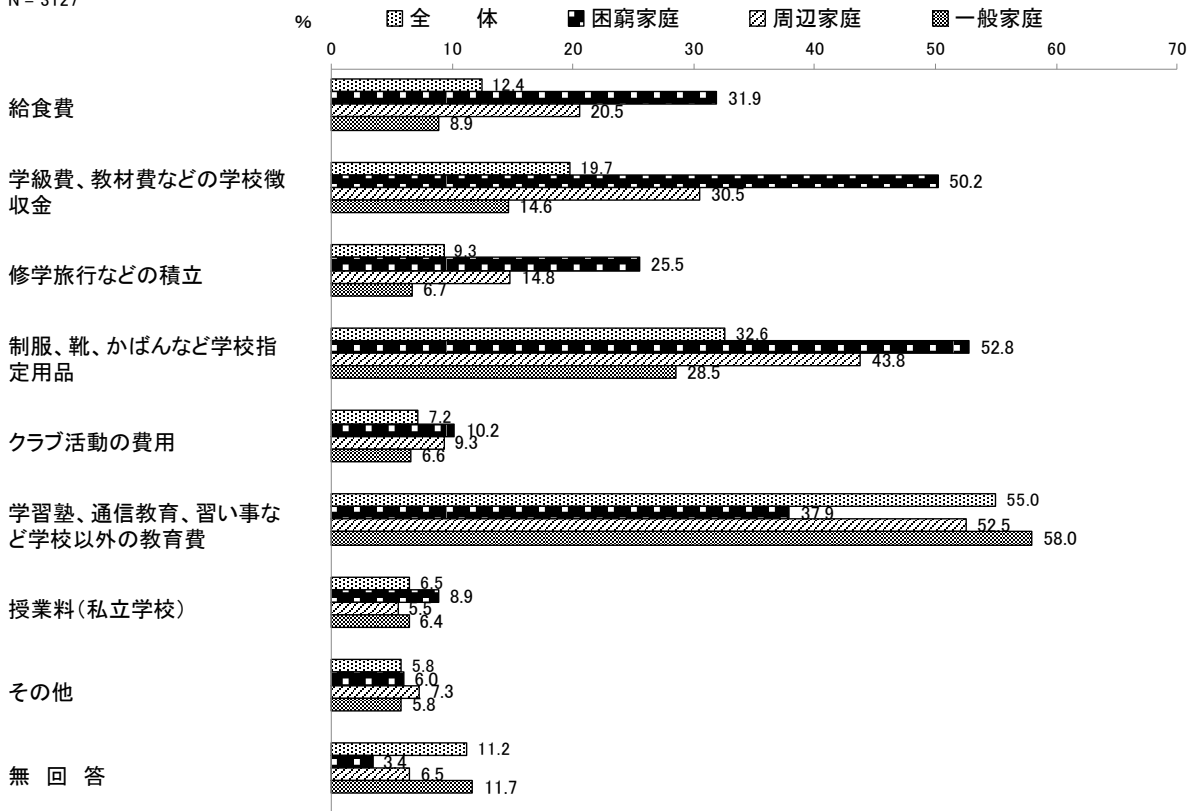
生活困窮度別では、困窮家庭で「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」が 37.9%と他の区分に比べて少なく、「制服、靴、かばんなど学校指定用品」と「学級費、教材費などの学校徴収金」が 50%台と多くなっており、前回と同じ傾向となっている。





N = 3127

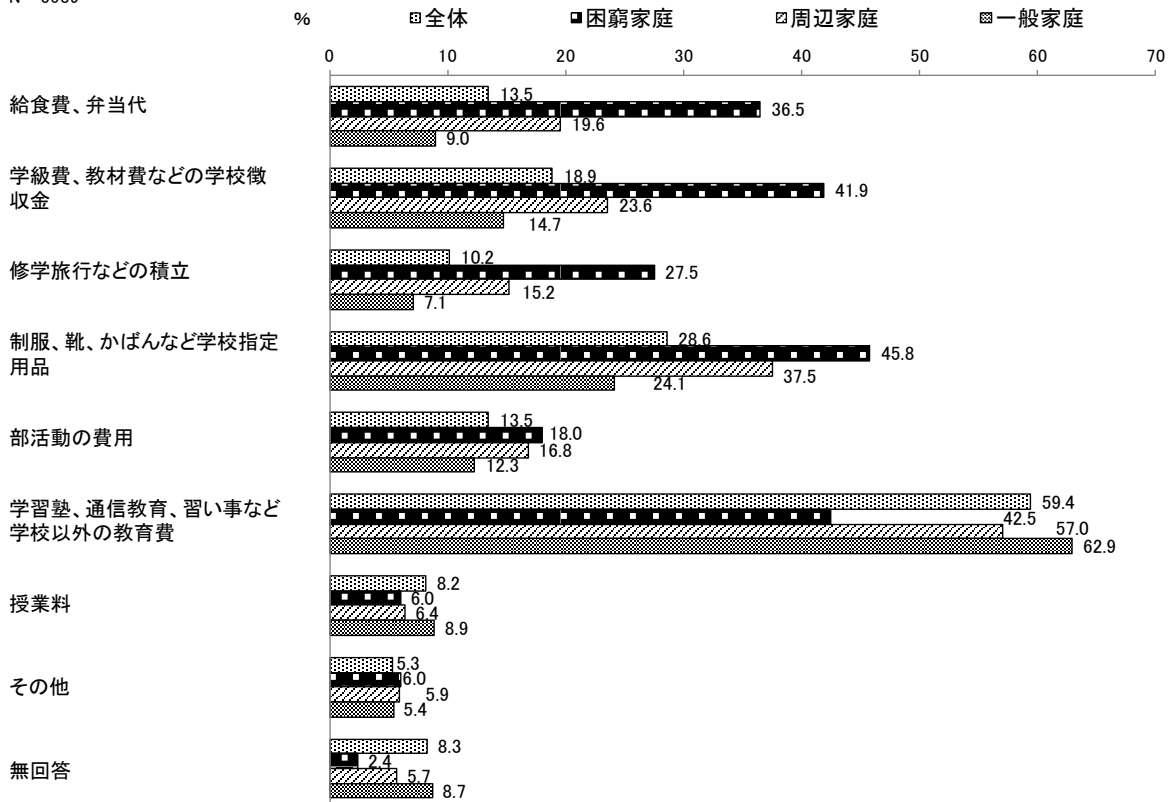
H問19 教育費で負担が重いもの[%・複数回答]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査)  
N = 3589

H問22 子どもの教育費のうち負担が重いもの[%・複数回答]



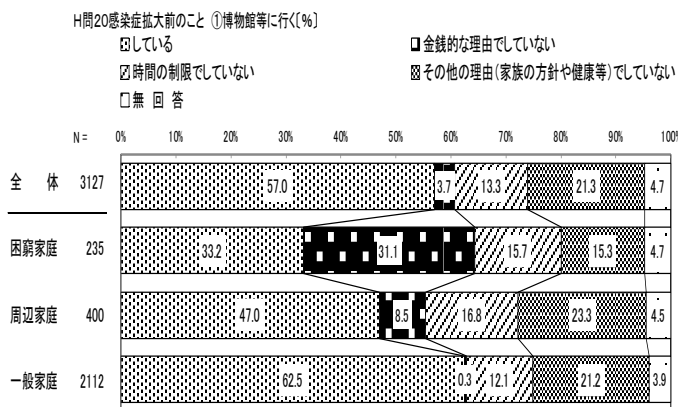
## (5)子どもとのかかわり

問 20 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前、あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

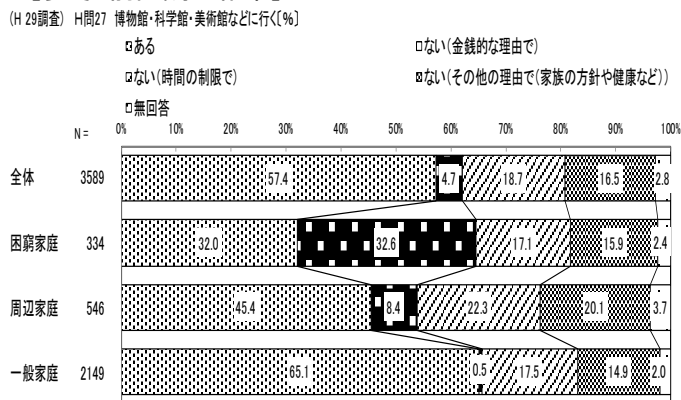
家庭での子どもの体験活動の状況については、「デパートやショッピングモールに行く」が92.5%と最も多く、次いで「遊園地やテーマパークに行く」、「映画に行く」が70%台、「スキーやスケートに行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「海水浴に行く」は50%台となっている。

生活困窮度別では、一般家庭と困窮家庭では「金銭的な理由」で体験がない割合は大きな差があり、前回と同じ傾向となっている。

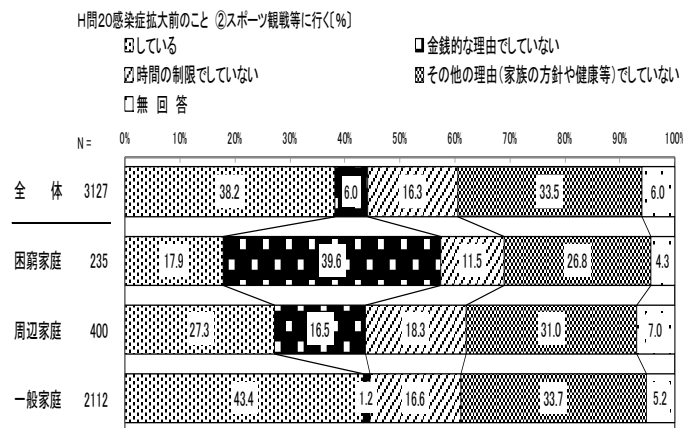
### 1) 博物館・科学館・美術館などに行く



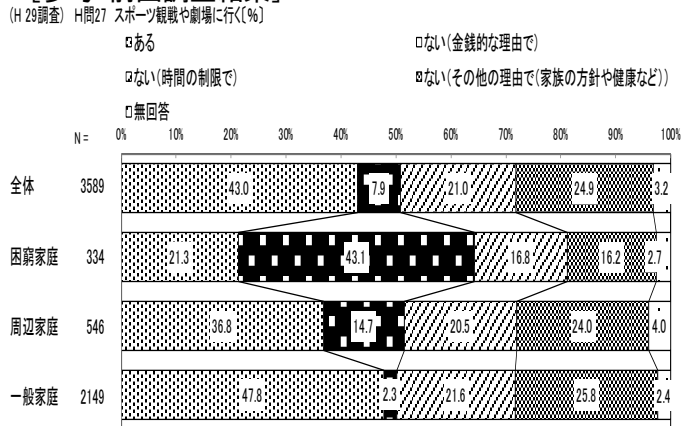
### [参考: 前回調査結果]



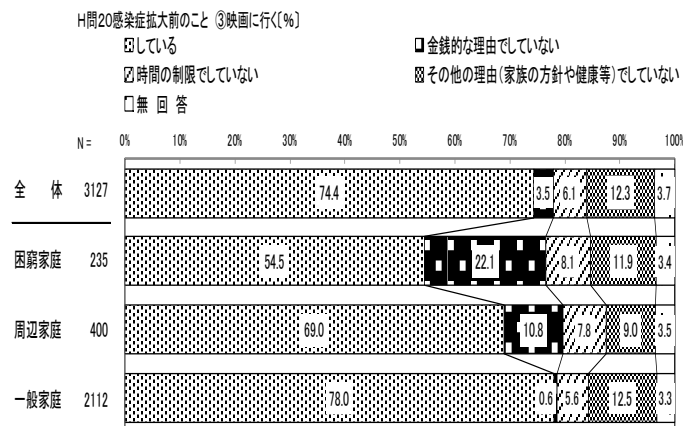
### 2) スポーツ観戦や劇場に行く



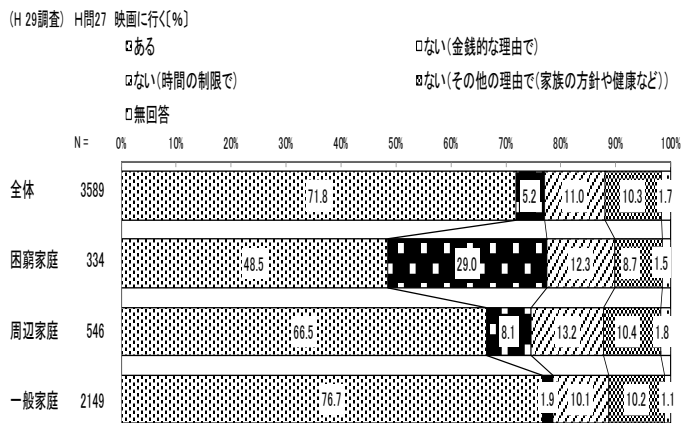
### [参考: 前回調査結果]



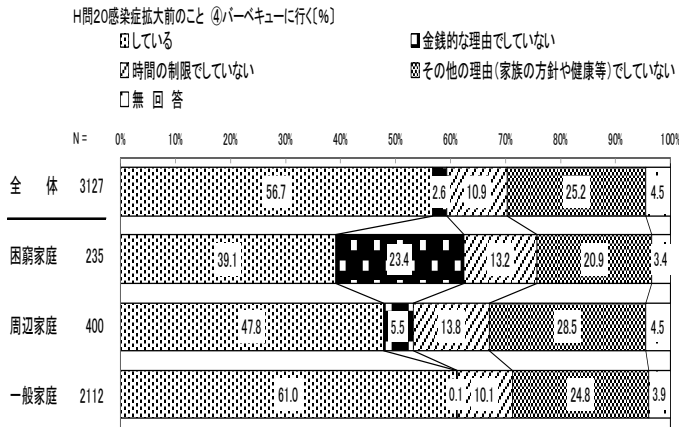
### 3) 映画に行く



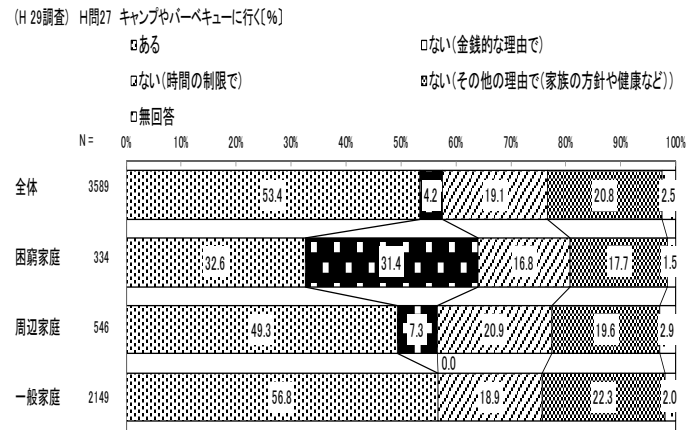
### [参考: 前回調査結果]



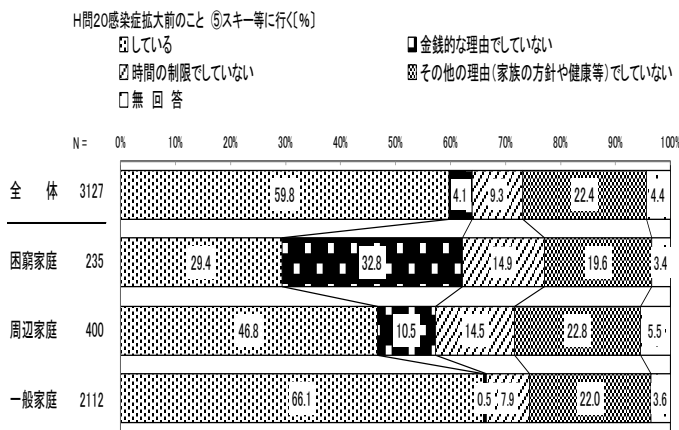
#### 4) キャンプやバーベキューに行く



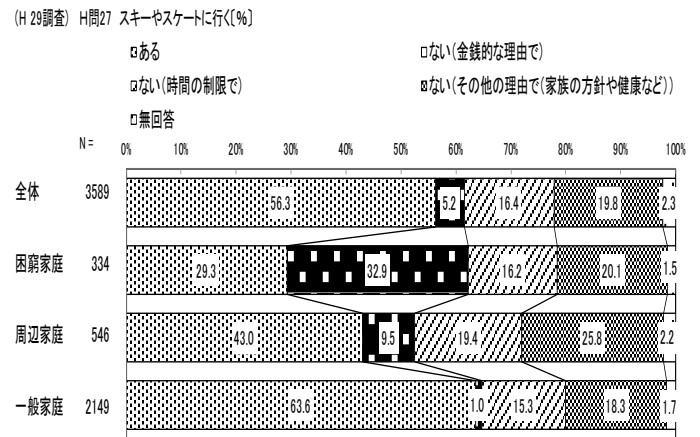
#### [参考: 前回調査結果]



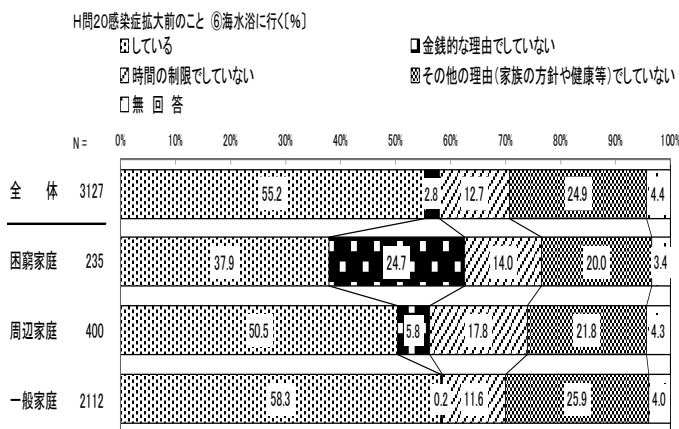
#### 5) スキーやスケートに行く



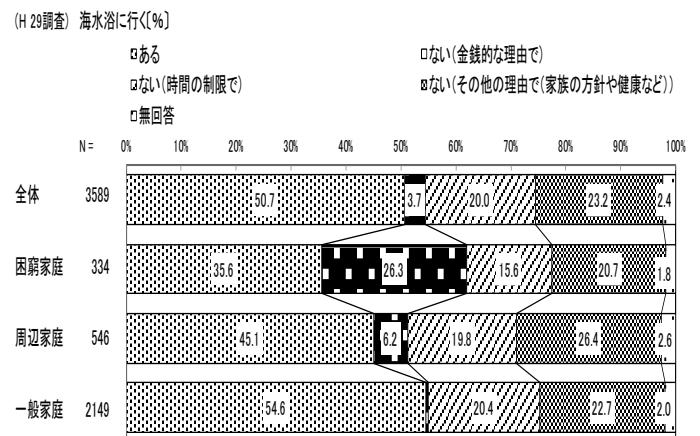
#### [参考: 前回調査結果]



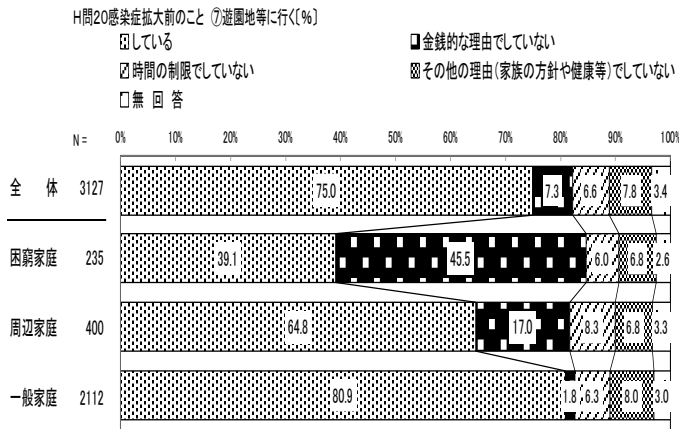
#### 6) 海水浴に行く



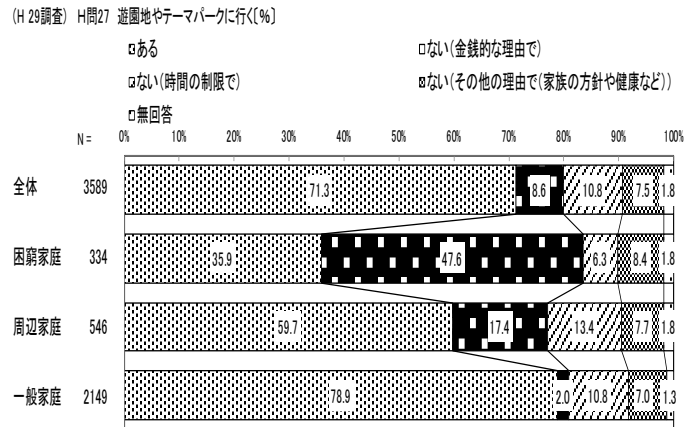
#### [参考: 前回調査結果]



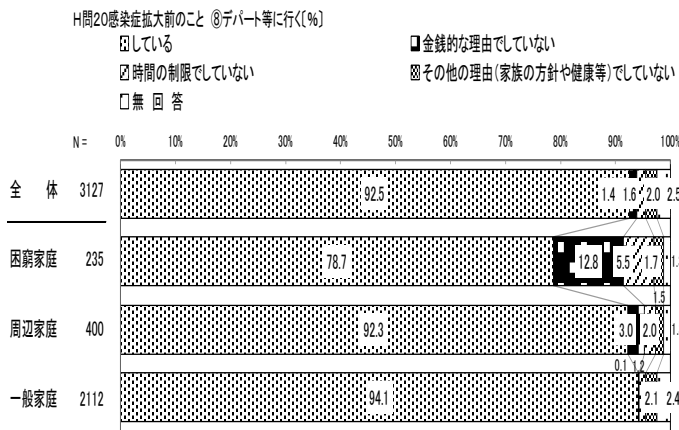
## 7) 遊園地やテーマパークに行く



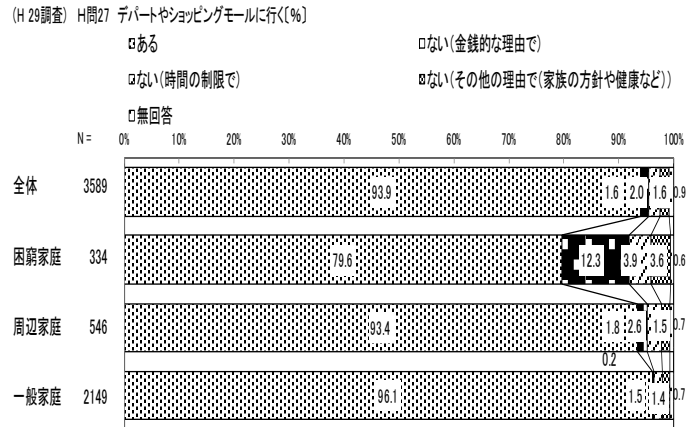
### [参考: 前回調査結果]



## 8) デパートやショッピングモールに行く



### [参考: 前回調査結果]



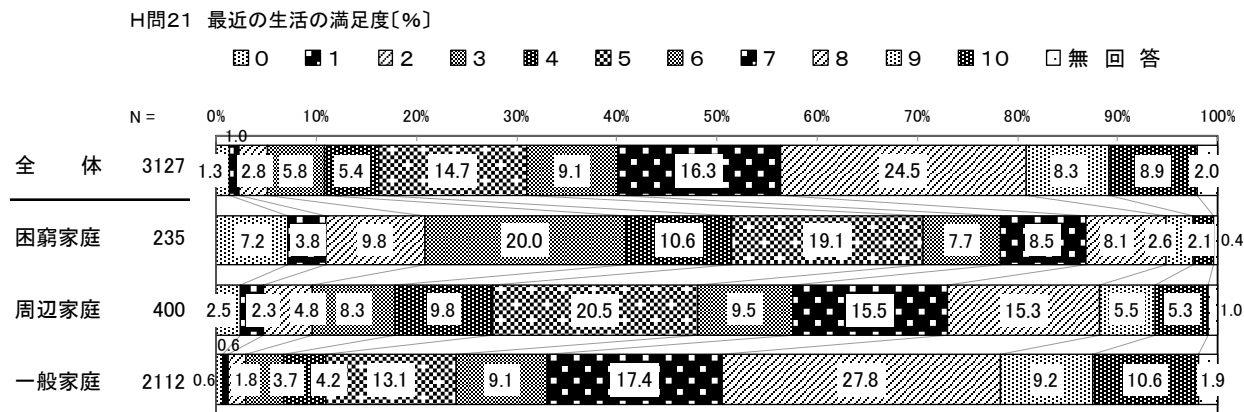
## (6)家庭での生活

### ①現在の生活

問 21 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。

最近の生活の満足度(10段階)については、「0～2」に該当する割合が5.1%、「3～4」に該当する割合が11.2%、「5」に該当する割合が14.7%、「6～7」に該当する割合が25.4%、「8～10」に該当する割合が41.7%となっている。満足度の高い方の回答(「6」以上)は67.1%となっている。

生活困窮度別では、満足度の高い方の回答(「6」以上)は困窮家庭で29.0%となっており、一般家庭の74.1%と比べて生活満足度は低くなっている。



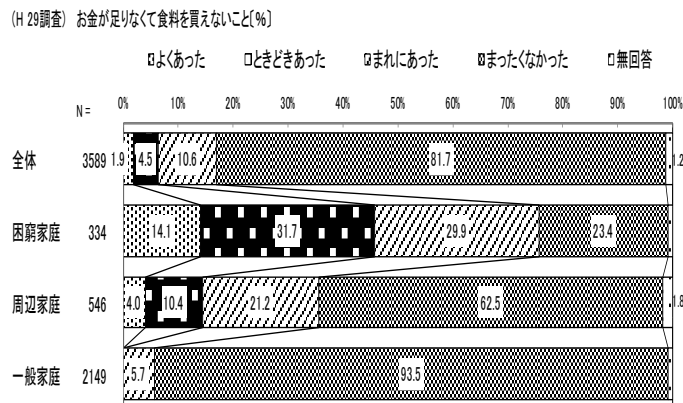
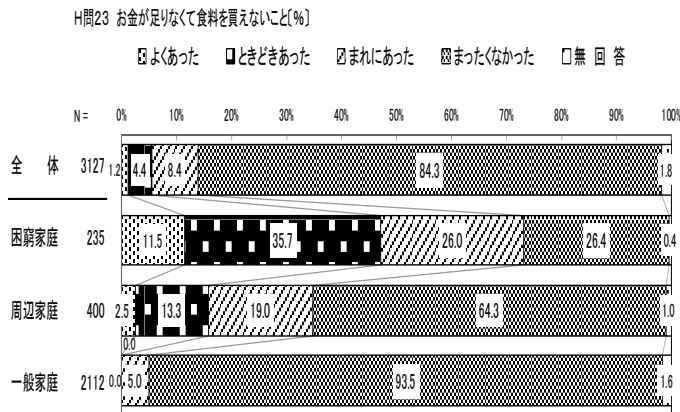
### ②食料や衣類の購入、公共料金や家賃等の支払いの状況(過去1年間)

問 23 あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。

お金がなくて食料を買えないことは、「まったくなかった」が84.3%、「あった」(「よくあった」、「ときどきあった」と「まれにあった」の計)が14.0%である。

生活困窮度別では、困窮家庭では73.2%が「あった」と回答しており、前回の75.7%と同程度となっている。

[参考: 前回調査結果]



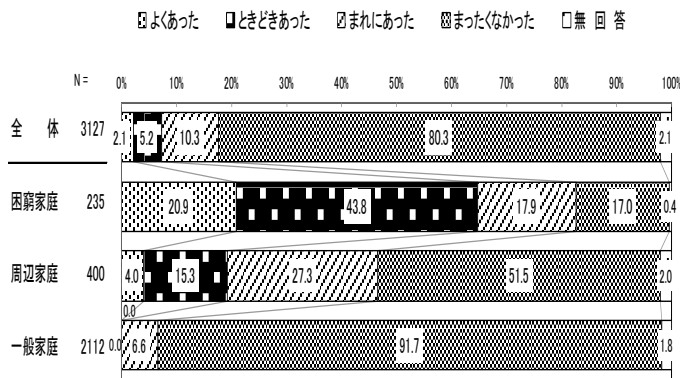
問 24 あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。

お金がなくて衣類を買えないことは、「まったくなかった」が80.3%、『あった』(「よくあった」、「ときどきあった」と「まれにあった」の計)が17.6%である。

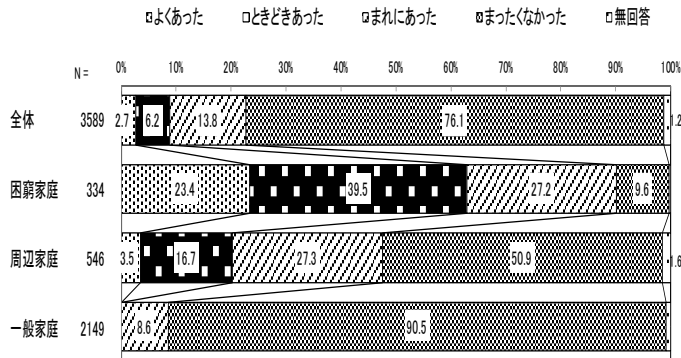
生活困窮度別では、困窮家庭では82.6%が『あった』と回答しており、前回の90.1%と比べて少なくなりましたが、依然多い割合となっている。

[参考: 前回調査結果]

H問24 お金が足りなくて衣類を買えないこと(%)



(H 29調査) お金が足りなくて衣類を買えないこと(%)



問 25 過去1年間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。

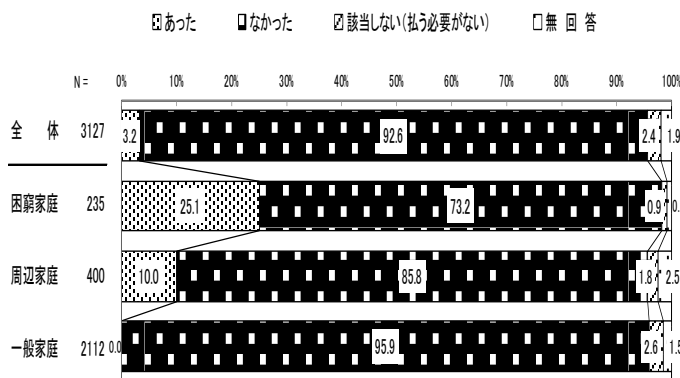
電話料金・電気料金・水道料金・ガス料金・家賃(または住宅ローン)が未払いになったことがあったかについて、「あった」(該当)の割合は、それぞれ2%~3%台となっている。

生活困窮度別では、未払いの経験について、困窮家庭で電話料金は25.1%、電気料金は25.5%、水道料金は22.6%、ガス料金は26.4%、家賃(または住宅ローン)は23.4%が「あった」(該当)となっている。

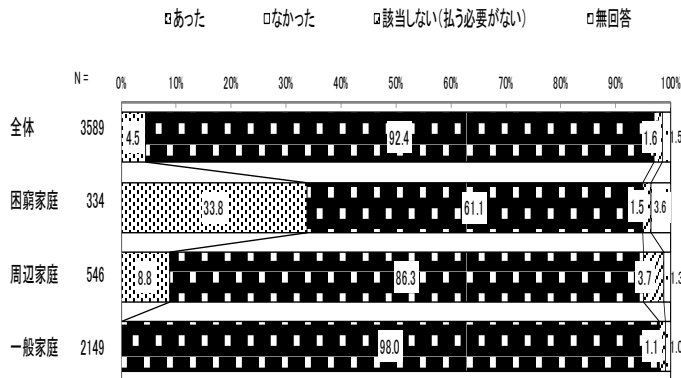
[電話料金]

[参考: 前回調査結果]

H問25支払えなかったこと ①電話料金(%)

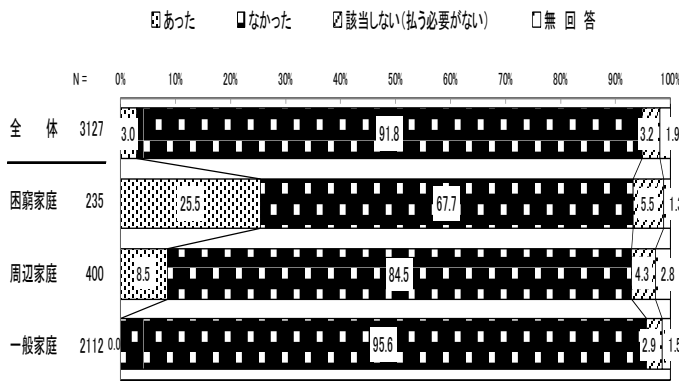


(H 29調査) 電話料金(%)



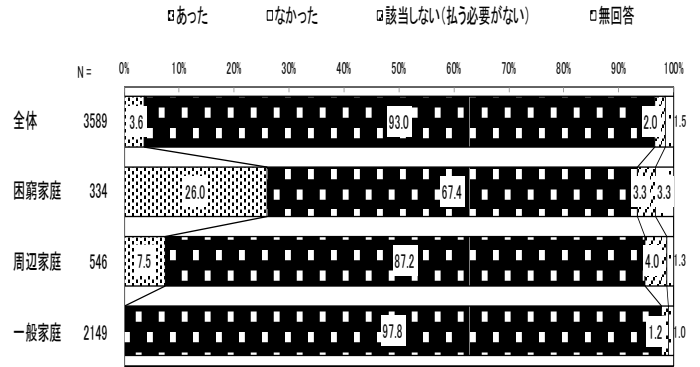
## [電気料金]

H25年25支払えなかったこと ②電気料金[%]



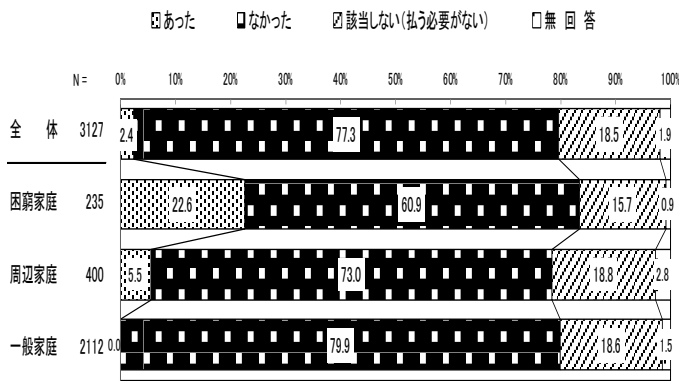
## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 電気料金[%]



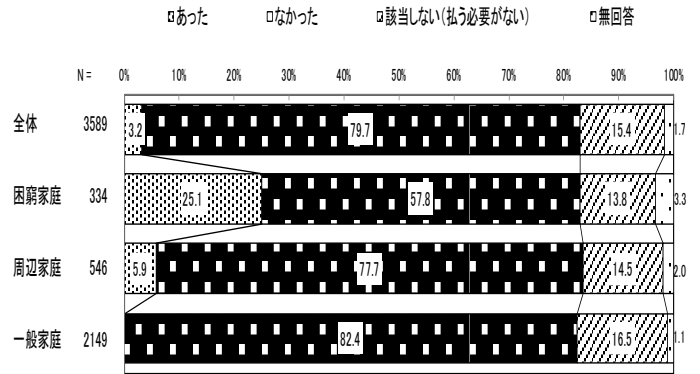
## [ガス料金]

H25年25支払えなかったこと ③ガス料金[%]



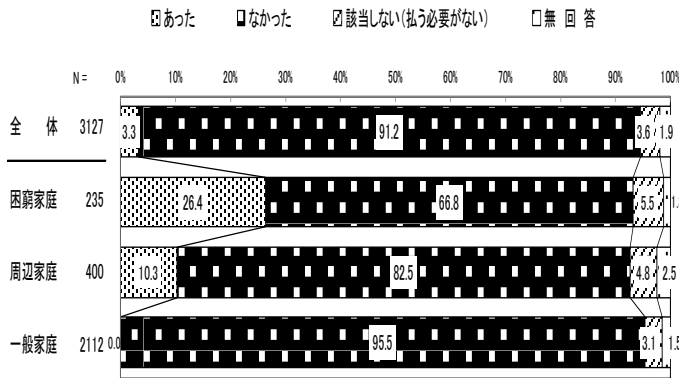
## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) ガス料金[%]



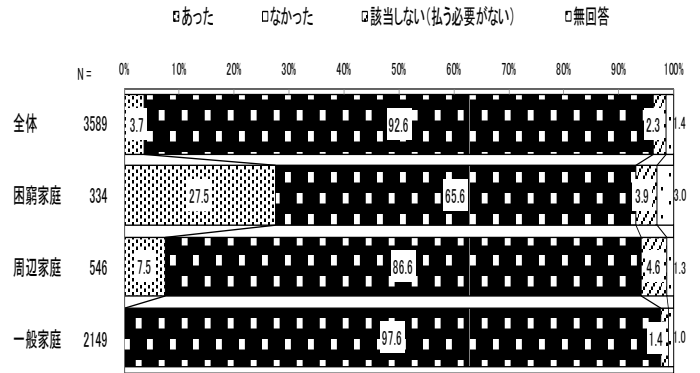
## [水道料金]

H25年25支払えなかったこと ④水道料金[%]



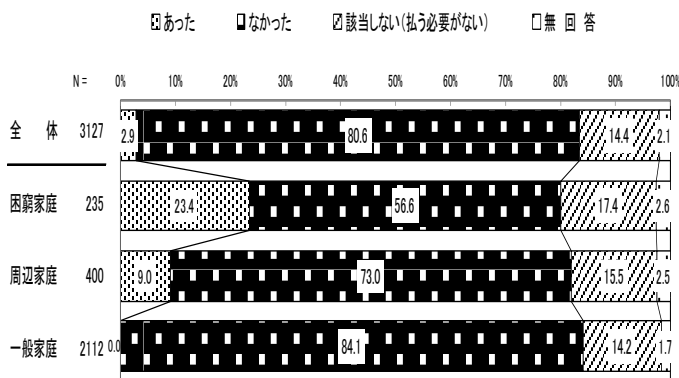
## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 水道料金[%]



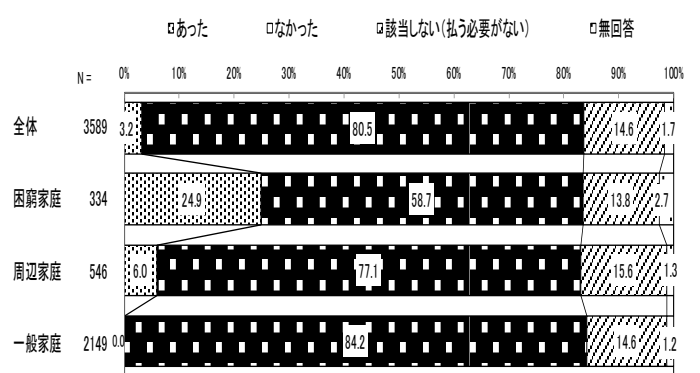
## [家賃(または住宅ローン)]

H25年25支払えなかったこと ⑤家賃[%]



## [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H25年 家賃(または住宅ローン)[%]



### ③家庭で子どものために行っている支出

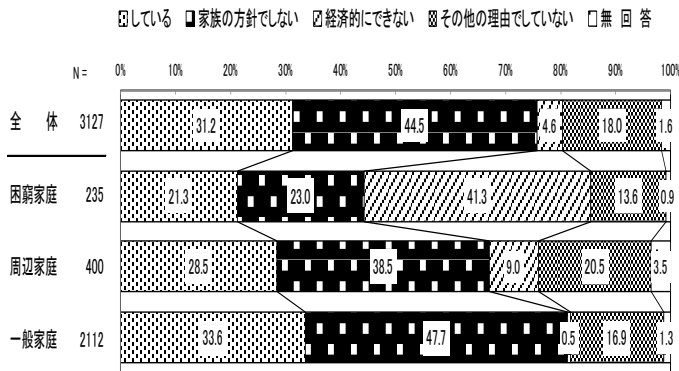
#### 問 26 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

子どものための支出のうち、保護者が「経済的にできない」と回答した割合は、「学習塾に通わせたり、通信教育を受ける」が10.2%、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が8.6%となっており、生活困窮度別では、困窮家庭で「学習塾に通わせたり、通信教育を受ける」が60.0%と最も多く、次いで「1年に1回くらい家族旅行に行く」が58.7%、「習い事(音楽、スポーツ、習字等)」が45.1%となっている。

前回と同様、各項目とも一般家庭と困窮家庭で差がみられる。

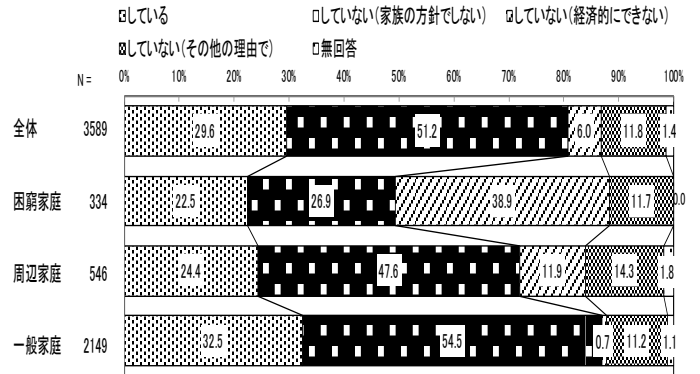
#### 1) 毎月お小遣いを渡す

H問26していること ①毎月お小遣いを渡す[%]



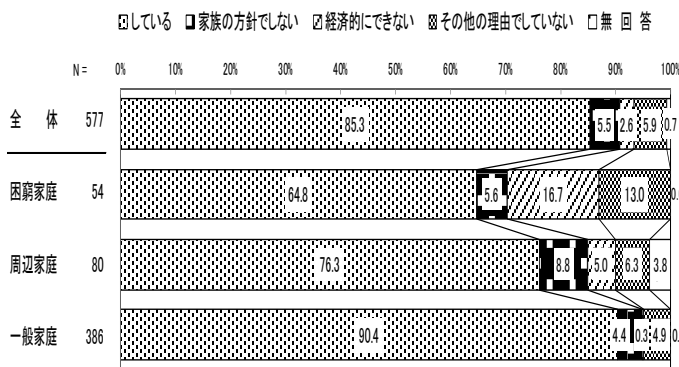
[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 毎月お小遣いを渡す[%]



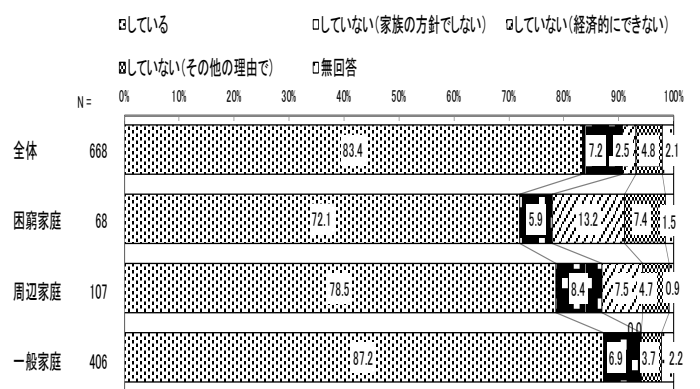
#### 2) 友達と遊びに出かけるためのお金を渡す (夏休みに遠出する時など、毎月のお小遣いとは別に渡す) (16・17歳のみ)

H問26していること ②友達と遊ぶお金を渡す(16・17歳)[%]



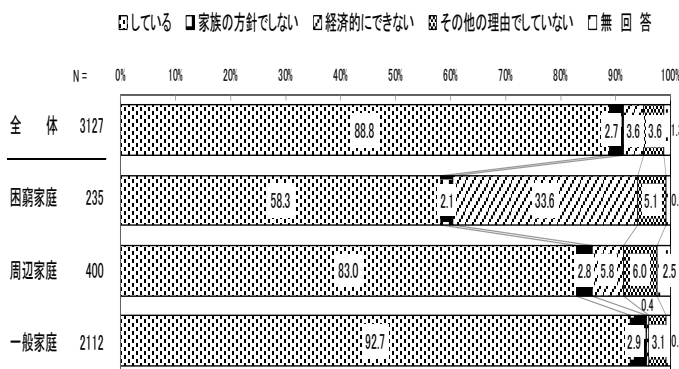
[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 友達と遊びに出かけるためのお金を渡す[%]



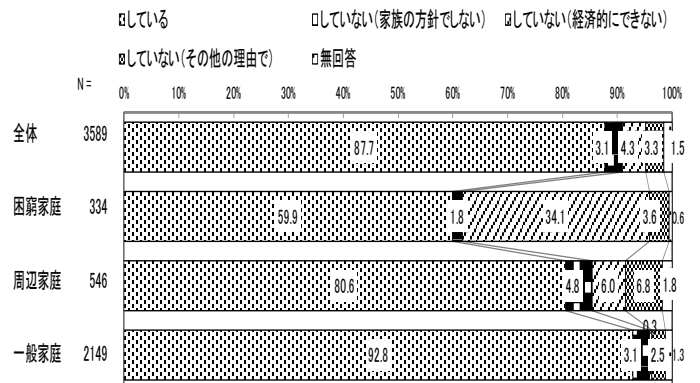
#### 3) 毎年新しい洋服・靴を買う

H問26していること ③新しい洋服・靴を買う[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 毎年新しい洋服・靴を買う[%]

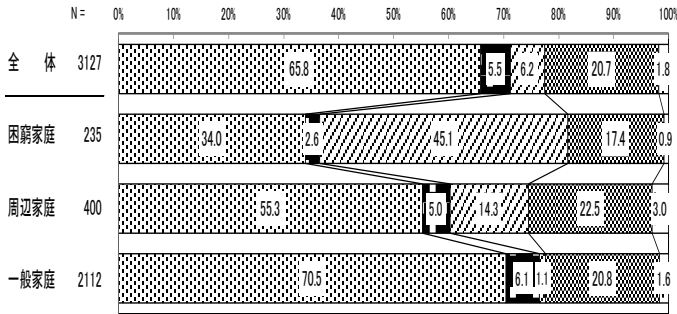




#### 4) 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる

H問26していること ④習い事に通わせる(%)

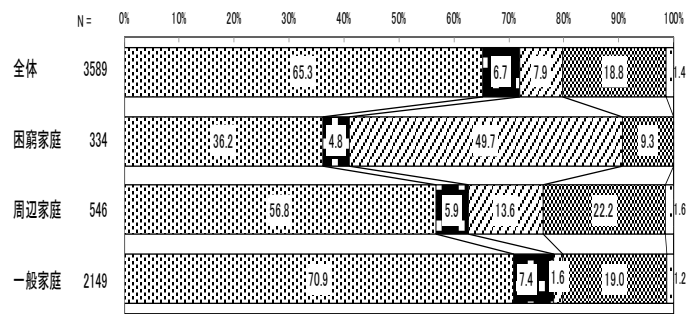
☑している □家族の方針ではない ☒経済的にできない ☒その他の理由ではない □無回答



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる(%)

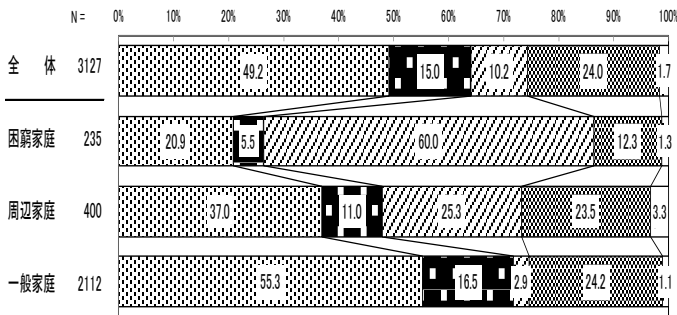
☑している □家族の方針ではない ☒経済的にできない  
☒していない(家族の方針ではない) ☒していない(経済的にできない)  
☒していない(その他の理由で) □無回答



#### 5) 学習塾に通わせたり、通信教育を受ける（または家庭教師に来てもらう）

H問26していること ⑤学習塾等に通わせる(%)

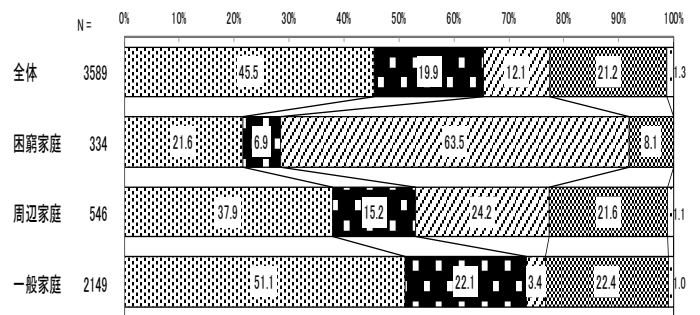
☑している □家族の方針ではない ☒経済的にできない ☒その他の理由ではない □無回答



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 学習塾に通わせたり、通信教育を受ける(%)

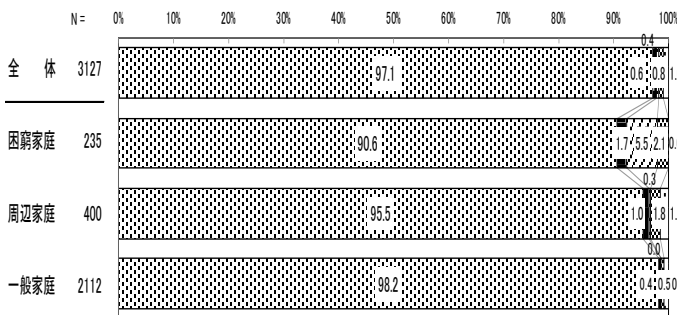
☑している □家族の方針ではない ☒経済的にできない  
☒していない(家族の方針ではない) ☒していない(経済的にできない)  
☒していない(その他の理由で) □無回答



#### 6) お誕生日のお祝いをする

H問26していること ⑥誕生日のお祝いをする(%)

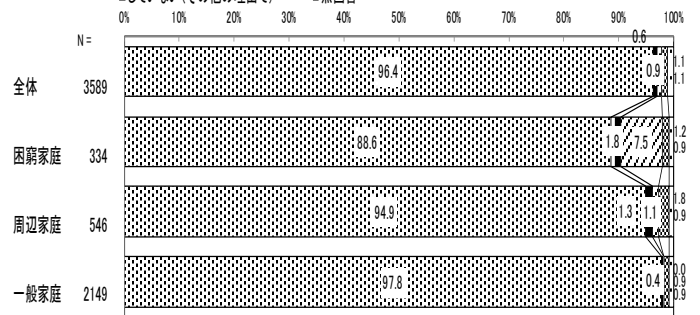
☑している □家族の方針ではない ☒経済的にできない ☒その他の理由ではない □無回答



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 誕生日のお祝いをする(%)

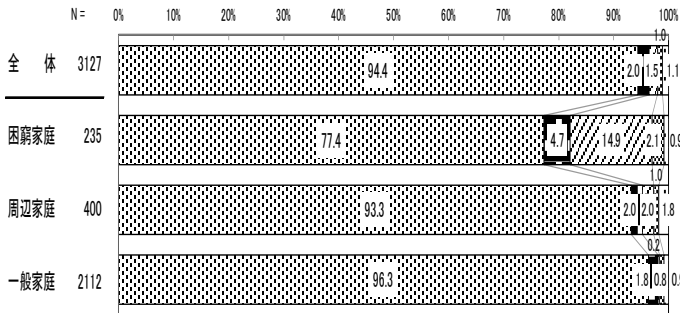
☑している □家族の方針ではない ☒経済的にできない  
☒していない(家族の方針ではない) ☒していない(経済的にできない)  
☒していない(その他の理由で) □無回答



## 7) クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

H問26していること ⑦お年玉などをあげる(%)

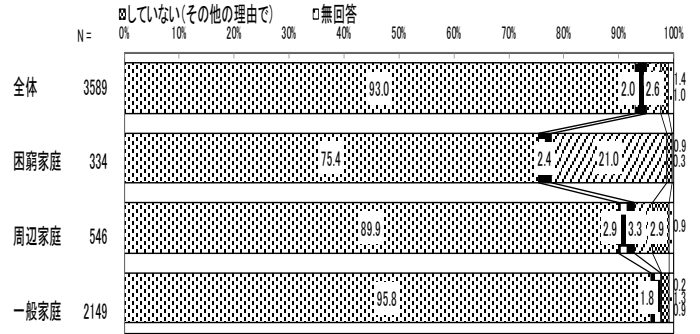
☑している □家族の方針でない ☒経済的にできない ☒その他の理由ではない □無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる(%)

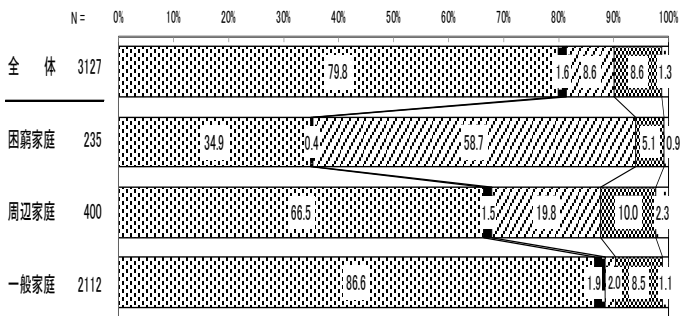
☑している □家族の方針でない ☒経済的にできない



## 8) 1年に1回くらい家族旅行に行く

H問26していること ⑧年に1回位の家族旅行に行く(%)

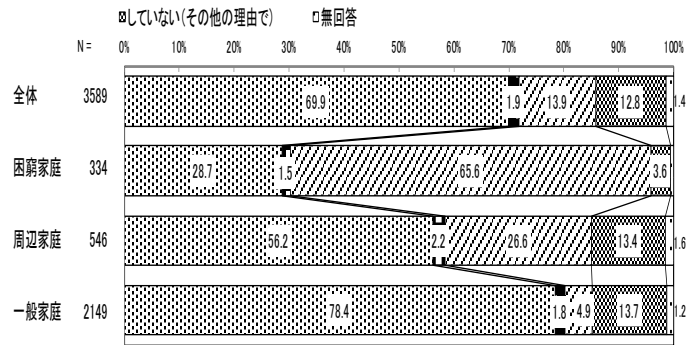
☑している □家族の方針でない ☒経済的にできない ☒その他の理由ではない □無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 1年に1回くらい家族旅行に行く(%)

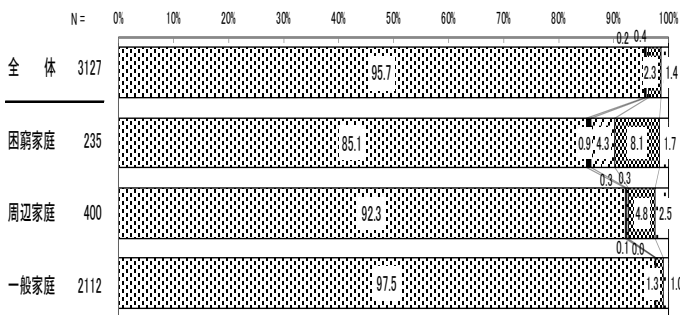
☑している □家族の方針でない ☒経済的にできない



## 9) 子どもの学校行事などへ親が参加する

H問26していること ⑨学校行事等への親の参加(%)

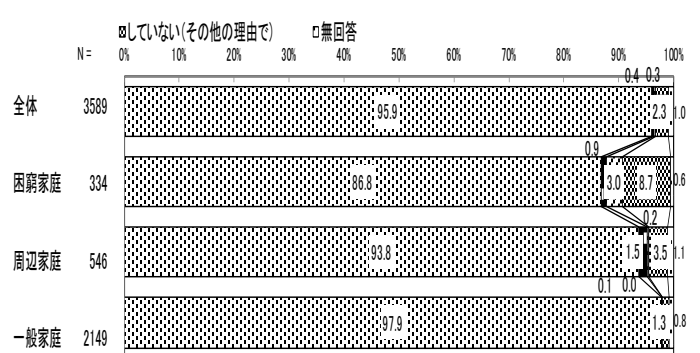
☑している □家族の方針でない ☒経済的にできない ☒その他の理由ではない □無回答



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問32 子どもの学校行事などへ親が参加する(%)

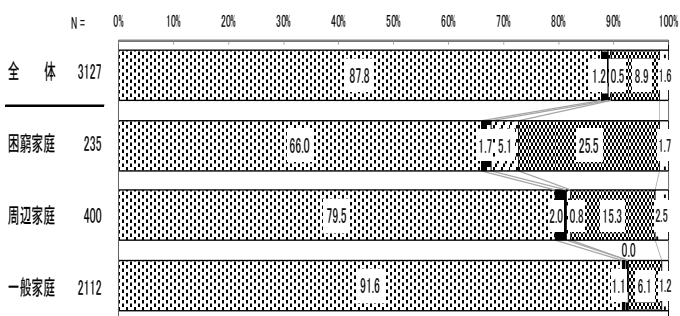
☑している □家族の方針でない ☒経済的にできない



## 10) PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

H問26していること ⑩ボランティア等へ参加(%)

☑している □家族の方針でない ☒経済的にできない ☒その他の理由ではない □無回答

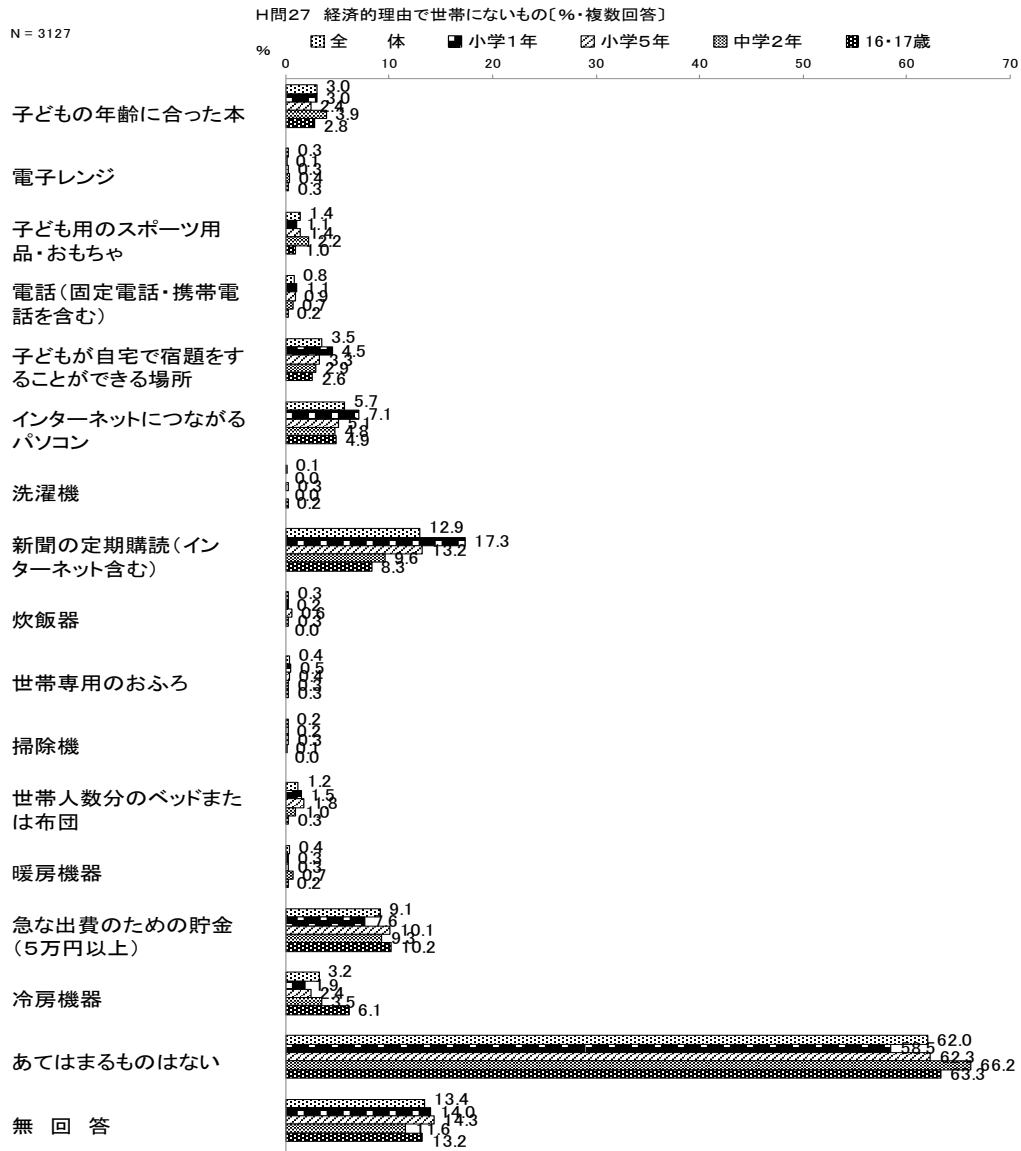


#### ④経済的理由で世帯にないもの

##### 問 27 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。

「経済的理由のために世帯にないもの」は、「あてはまるものはない」と回答したのは62.0%である。

生活困窮度別では、困窮家庭において、各項目が多く回答されており、「急な出費のための貯金(5万円以上)」が51.1%と最も多く、次いで「新聞の定期購読(インターネット含む)」、「インターネットにつながるパソコン」、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」、「子どもの年齢に合った本」となっている。



##### 経済的理由で世帯にないもの(上位5位)

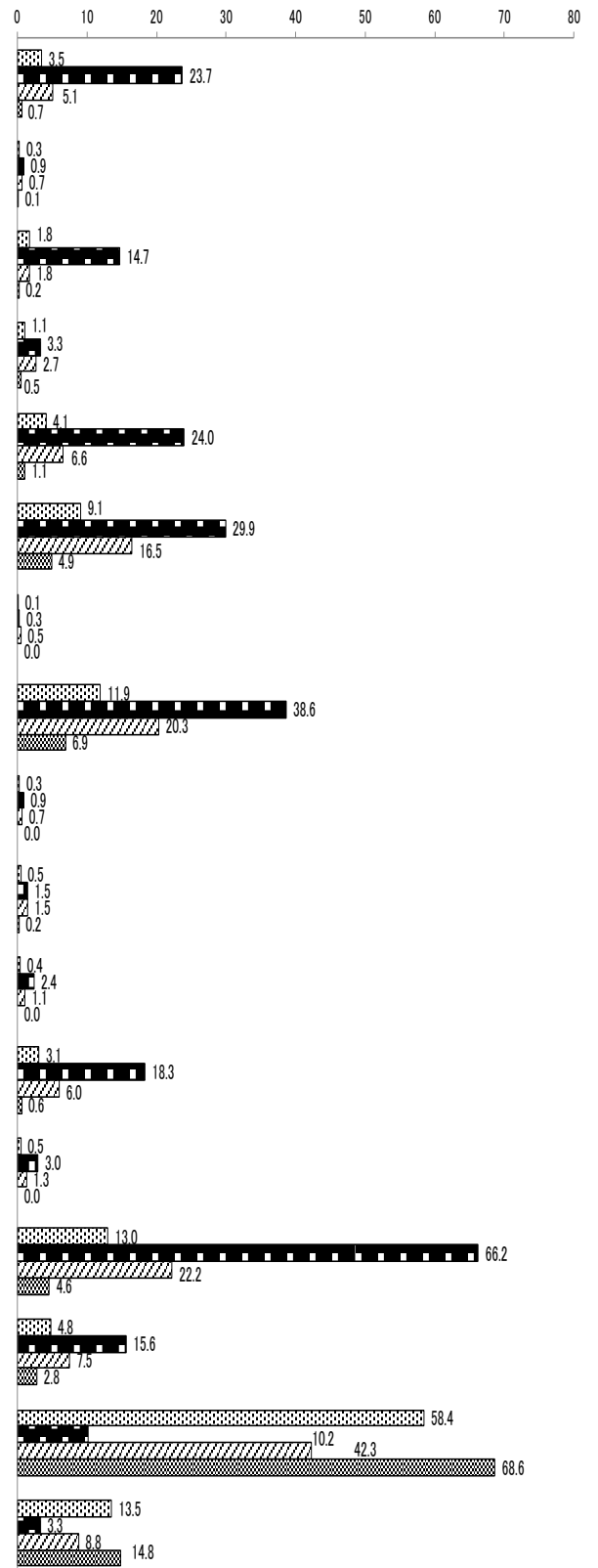
	1位	2位	3位	4位	5位
全体	あてはまるものはない(62.0%)	無回答(13.4%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(12.9%)	急な出費のための貯金(5万円以上)9.1%	インターネットにつながるパソコン(5.7%)
困窮家庭	急な出費のための貯金(5万円以上)(51.1%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(38.3%)	インターネットにつながるパソコン(28.5%)	子どもが自宅で宿題をすることができる場所(23.8%)	子どもの年齢に合った本(23.4%)
周辺家庭	あてはまるものはない(40.8%)	急な出費のための貯金(5万円以上)(22.8%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(20.8%)	無回答(11.0%)	インターネットにつながるパソコン(9.0%)
一般家庭	あてはまるものはない(70.9%)	無回答(14.8%)	新聞の定期購読(インターネット含む)(8.8%)	急な出費のための貯金(5万円以上)(2.8%)	インターネットにつながるパソコン(2.6%)

[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 経済的理由のために世帯にないもの(%・複数回答)

N = 3589

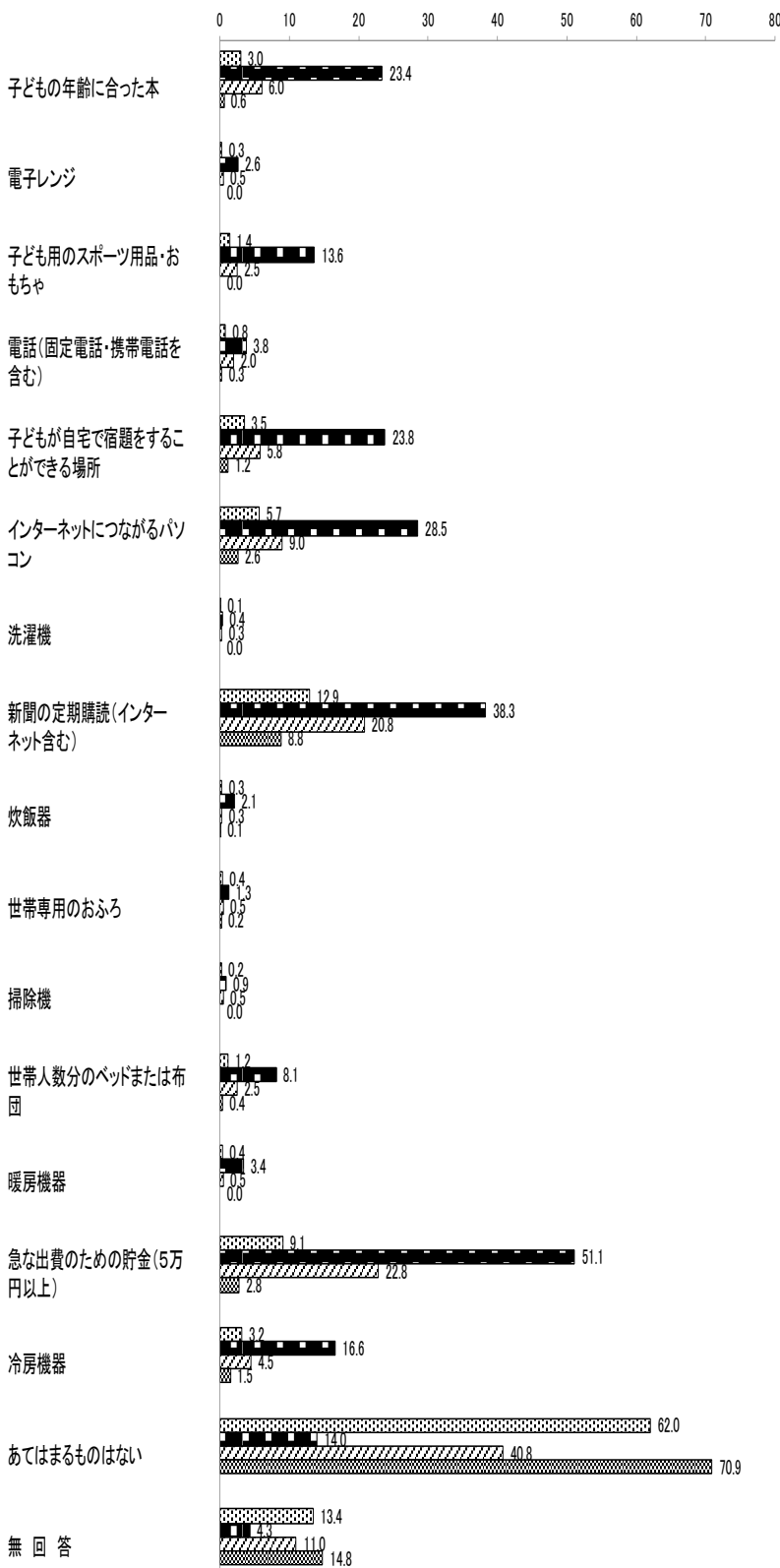
% □全体 □困窮家庭 □周辺家庭 □一般家庭



N = 3127

H問27 経済的理由で世帯にないもの(%・複数回答)

% □全体 □困窮家庭 □周辺家庭 □一般家庭



## (7)保護者のこれまでの経験と現在の気持ち

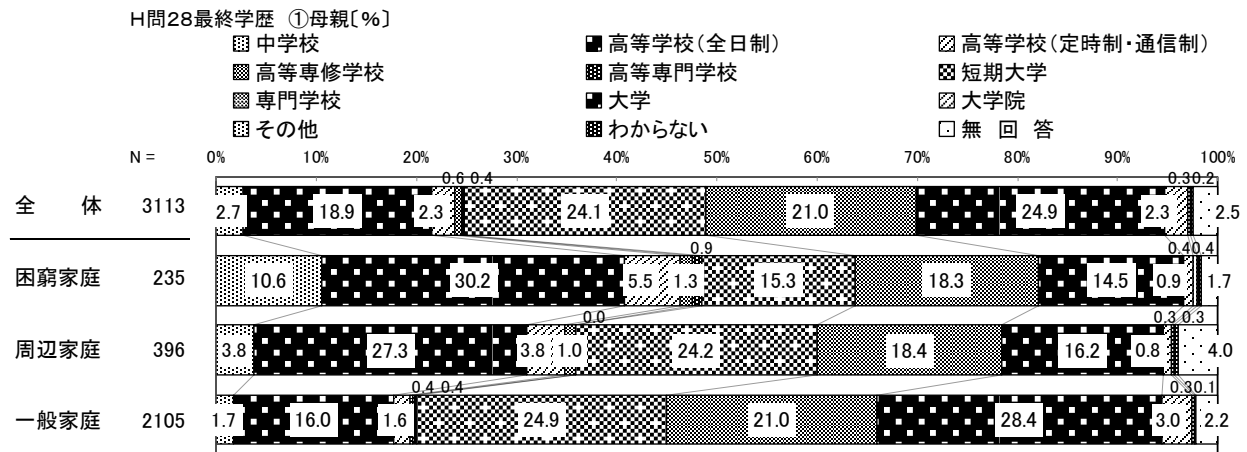
### ①これまでの経験等

問 28 お子さんの親の最終学歴(卒業・修了した学校)は次のどちらにあたりますか。

[母親の最終学歴]

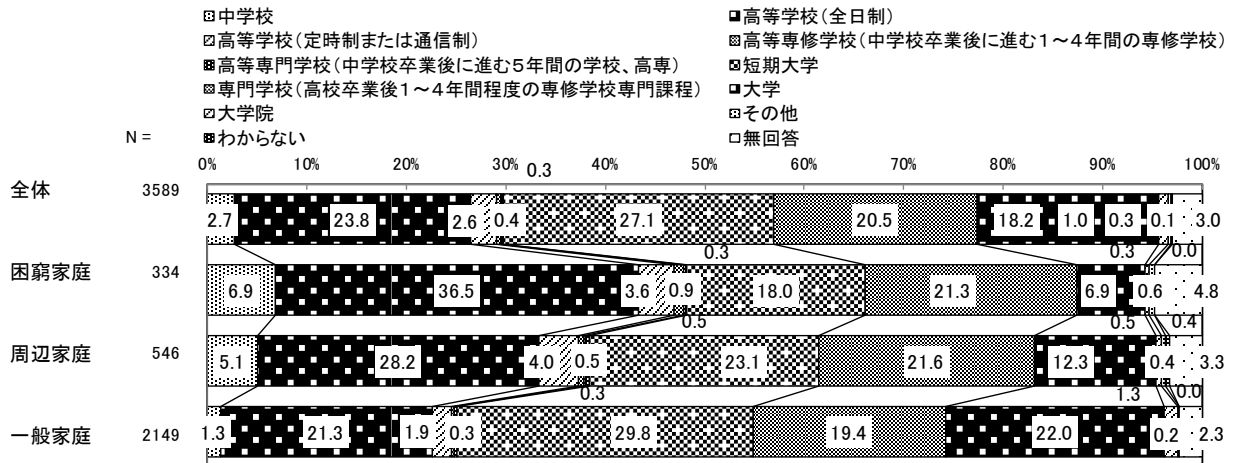
母親の最終学歴は、「大学」が 24.9%、「短期大学」が 24.1%、「専門学校」が 21.0%、「高等学校(全日制)」が 18.9%などとなっている。

生活困窮度別では、「高等学校(全日制)」は困窮家庭で 30.2%、周辺家庭で 27.3%と多く、「大学」はそれぞれ 14.5%、16.2%となり、一般家庭の 28.4%に比べて少ない。



[参考: 前回調査結果]

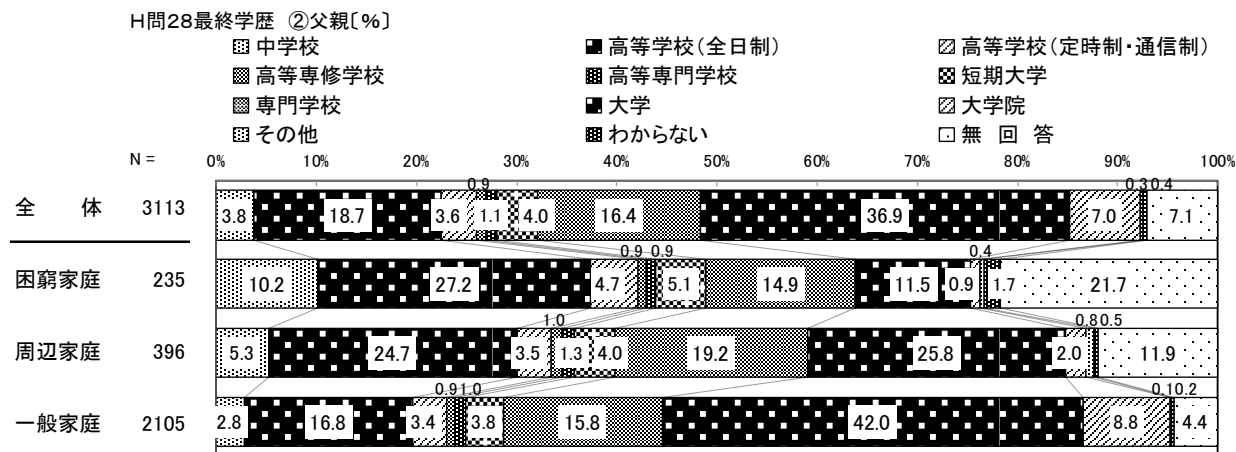
(H 29調査) H問34 母親の最終学歴[%]



[父親の最終学歴]

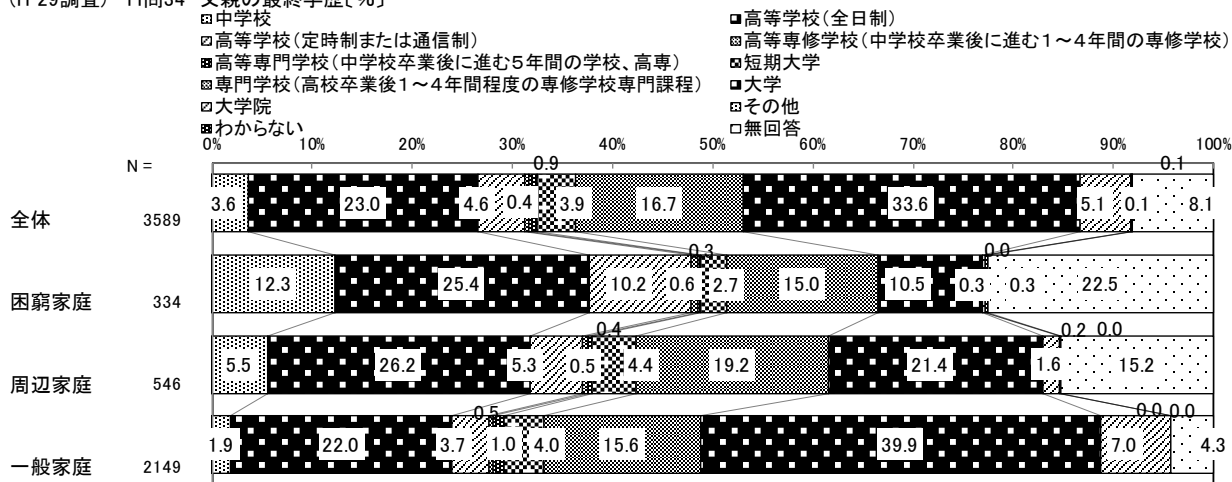
父親の最終学歴は、「大学」が 36.9%、「高等学校(全日制)」が 18.7%、「専門学校」が 16.4%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で無回答(21.7%)を除くと、「高等学校(全日制)」が 27.2%と最も多く、「大学」は 11.5%となり、一般家庭の 42.0%と比べて少ない。



[参考: 前回調査結果]

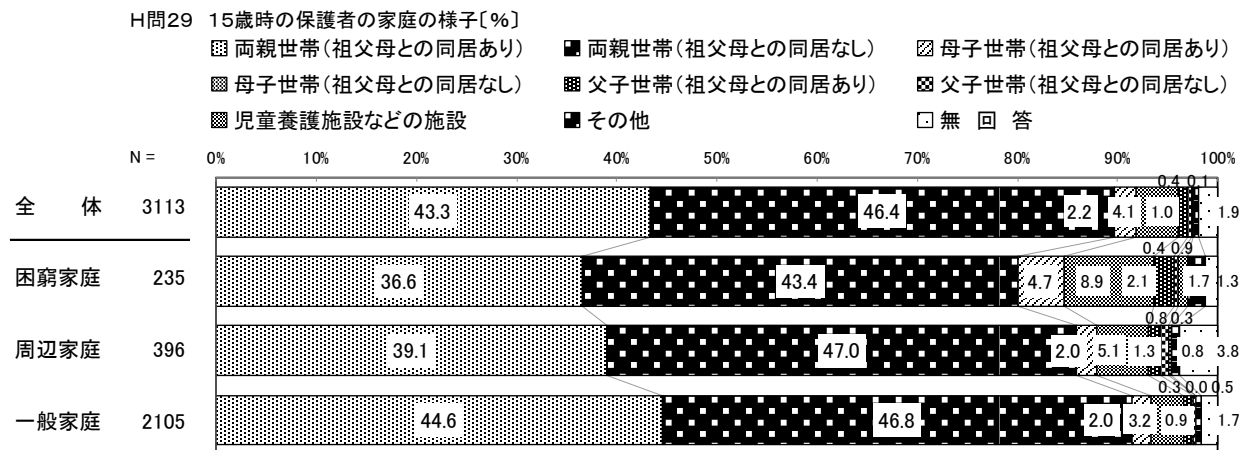
(H 29 調査) H問34 父親の最終学歴[%]



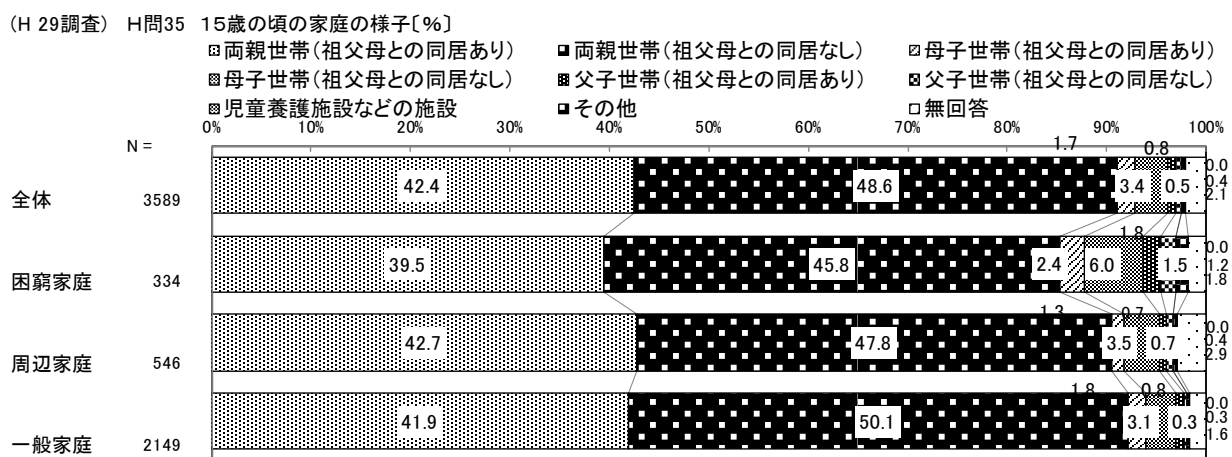
問 29 あなたが 15 歳の頃のご家庭の様子に最も近いものについて○をつけてください。

保護者の 15 歳の頃の家庭の様子は、「両親世帯(祖父母との同居なし)」が 46.4%、「両親世帯(祖父母との同居あり)」が 43.3%、「母子世帯(祖父母との同居あり)」と「母子世帯(祖父母との同居なし)」の計は 6.3%などとなっている。

生活困窮度別では、『母子世帯』は一般家庭で 5.2%、困窮家庭で 13.6%とやや多く、前回と比べてもやや多くなっている。



[参考: 前回調査結果]

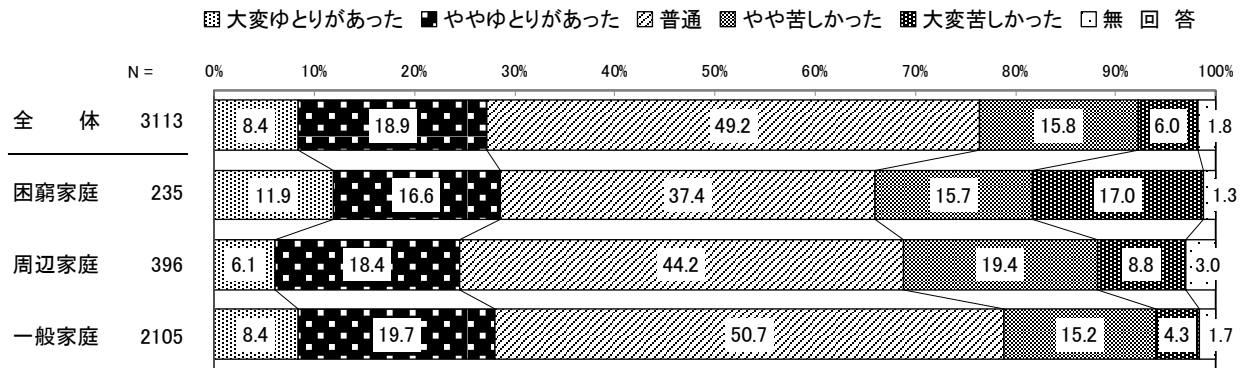


問 30 あなたが 15 歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。

保護者の 15 歳の頃の家庭の暮らし向きは、『ゆとりがあった』（「大変ゆとりがあった」と「ややゆとりがあった」の計）が 27.3%、「普通」が 49.2%、『苦しかった』（「やや苦しかった」と「大変苦しかった」の計）は 21.8%である。

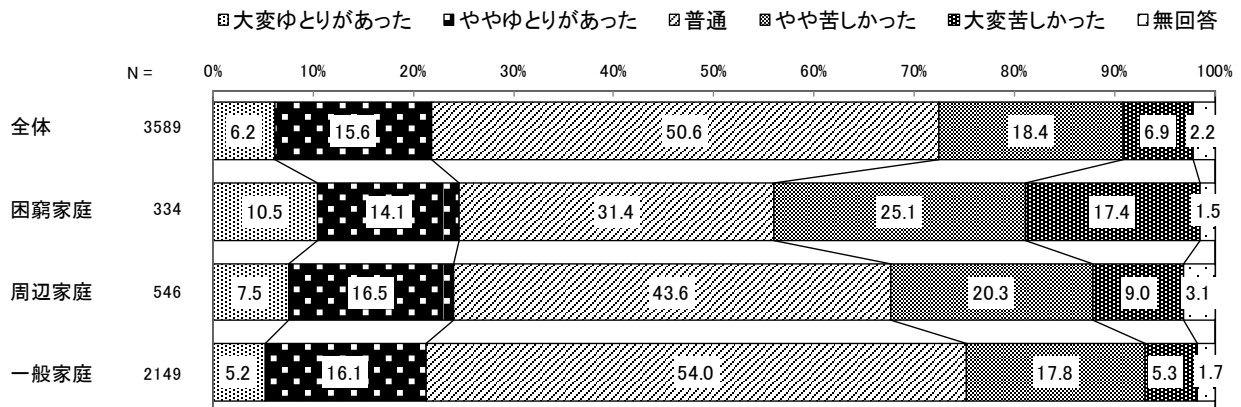
生活困窮度別では、困窮家庭で『苦しかった』が 32.7%と多いものの、前回より少なくなっている。

H問30 15歳時の保護者の家庭の暮らし向き〔%〕



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問36 15歳の頃の家庭の暮らし向き〔%〕



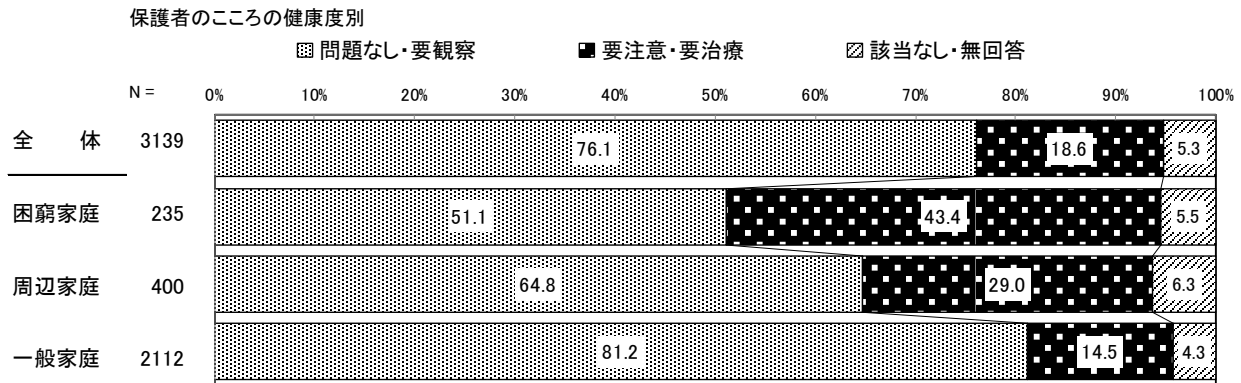


## ②この1か月間の気持ち

問 36 次の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようなものでしたか。

保護者のこころの健康状態に関して、何らかのこころの問題の程度を把握する6項目を設定し、「K6」といわれる6項目の回答を点数化して足し合わせてスコアを算出(0~24点)した。0~9点の「問題なし・要観察」と10点以上「要注意・要医療」、「該当なし・無回答」に区分したところ、「要注意・要医療」とされる10点以上の割合は18.6%である。

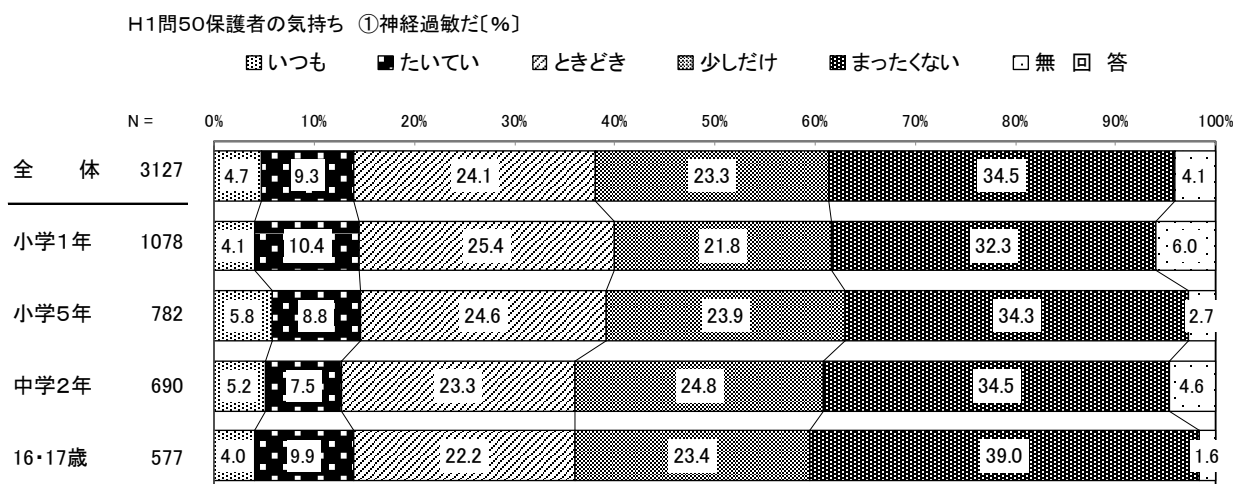
生活困窮度別では、「要注意・要治療」は、困窮家庭で43.4%、周辺家庭で29.0%と、一般家庭と比べて多い。



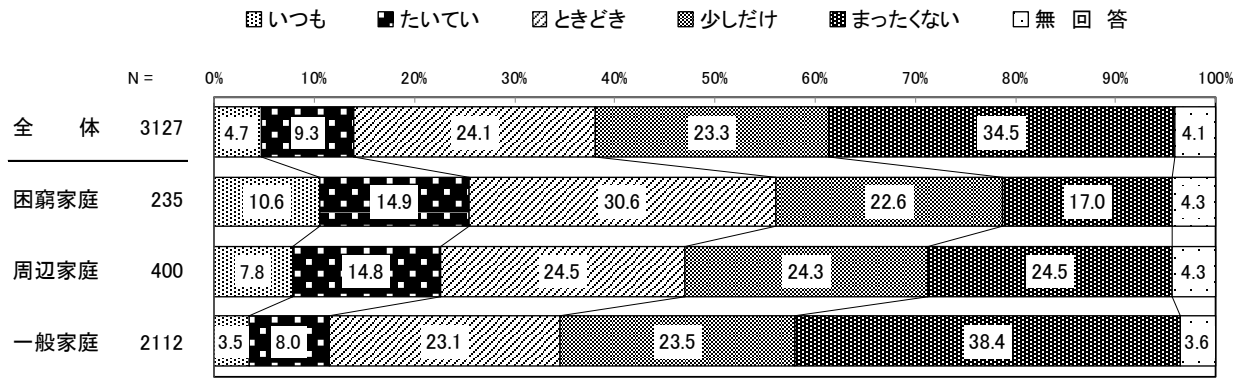
[参考:K6(心の健康チェック表)の算出方法]

1)神経過敏だ 2)絶望的だと感じる 3)そわそわ、落ち着きがなく感じる 4)気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた 5)何をするのも面倒だと感じた 6)自分は価値がない人間だと感じた	いつも 4点 たいてい3点 とときどき2点 少しだけ1点 まったくない0点	合計点が高いほど精神的な問題が重い可能性があるとしてされている。 9点以下:問題なし、要観察 10点以上:要注意・要医療
---	---	--

### 1) 神経過敏だ

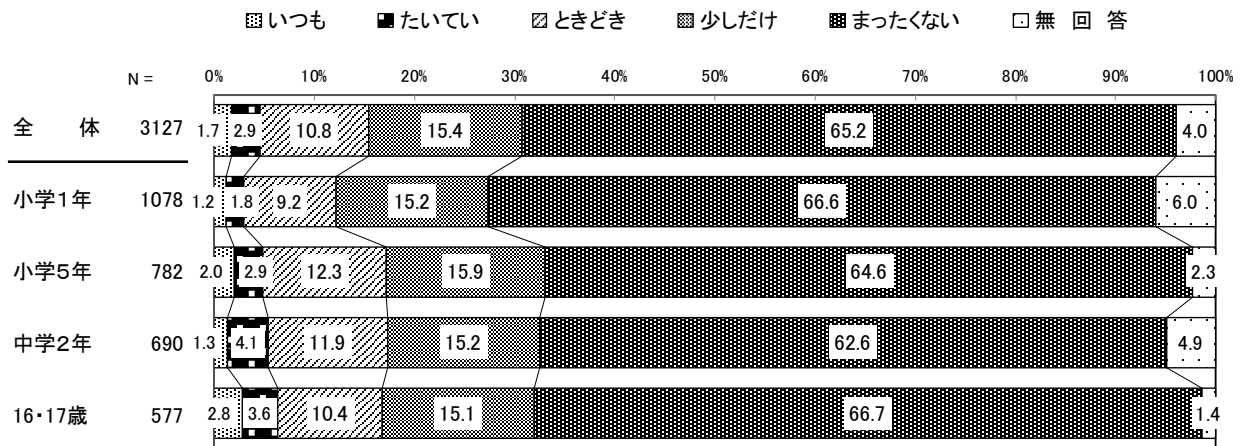


H1問50保護者の気持ち ①神経過敏だ[%]

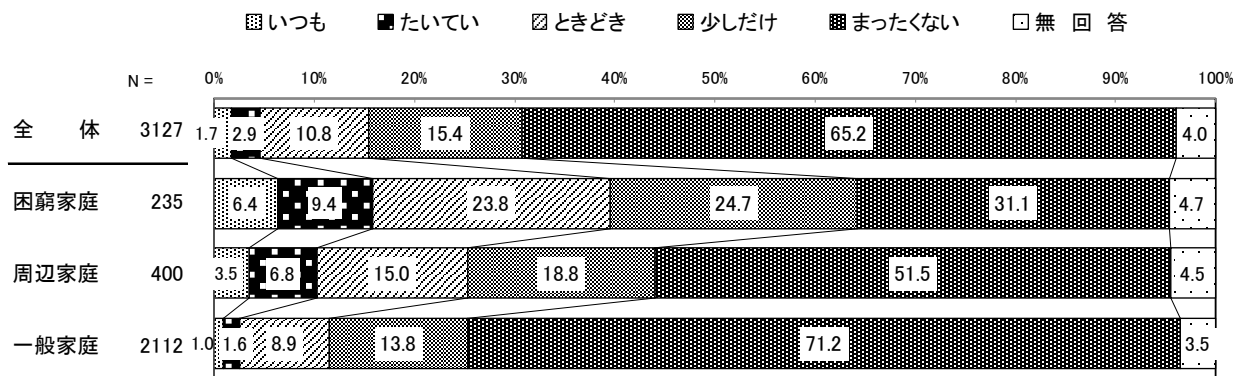


## 2) 絶望的だと感じた

H1問50保護者の気持ち ②絶望的だと感じた[%]

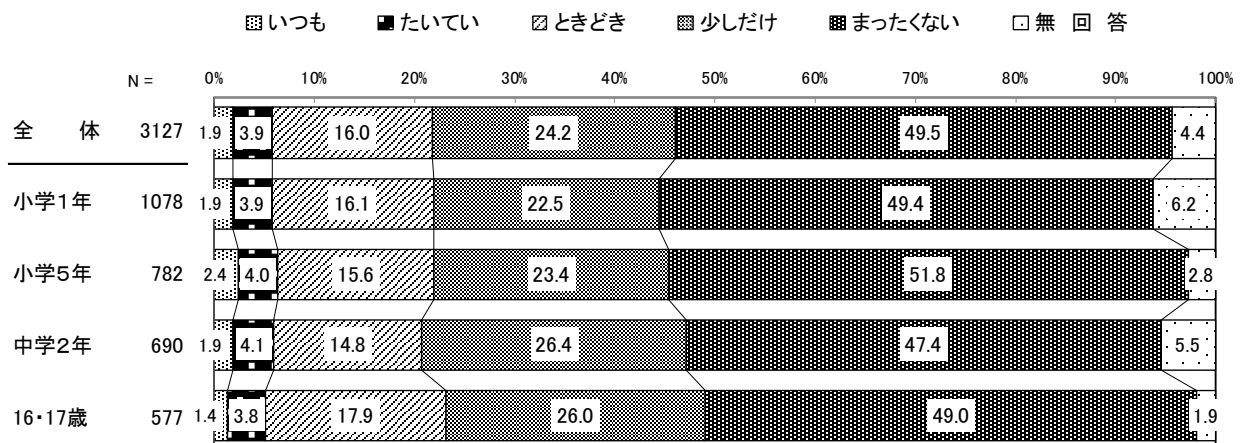


H1問50保護者の気持ち ②絶望的だと感じた[%]

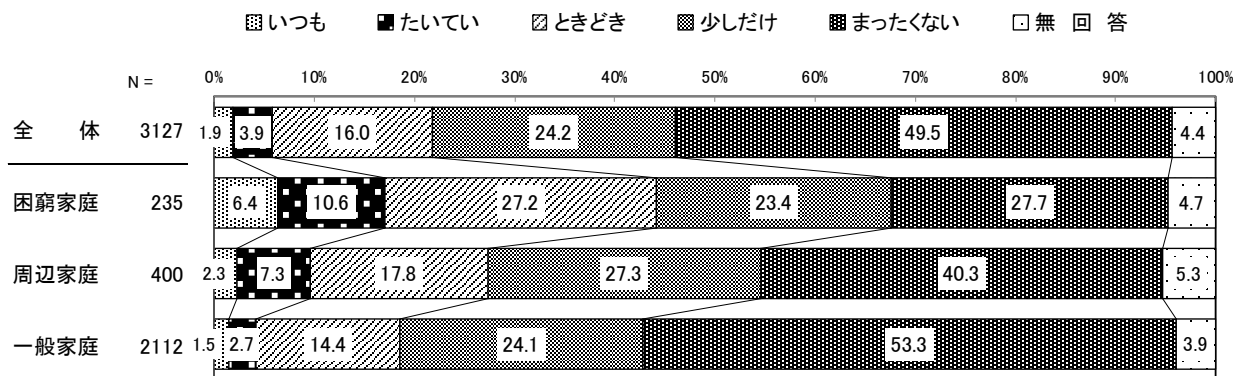


## 3) そわそわ、落ち着かなく感じた

H1問50保護者の気持ち ③落ち着かなく感じた[%]

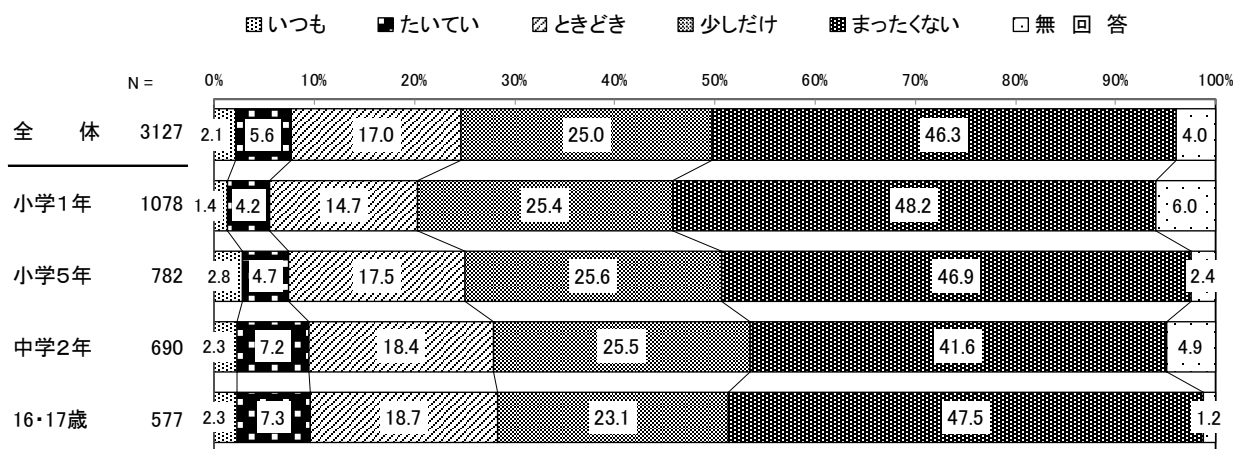


H1問50保護者の気持ち ③落ち着かなく感じた[%]

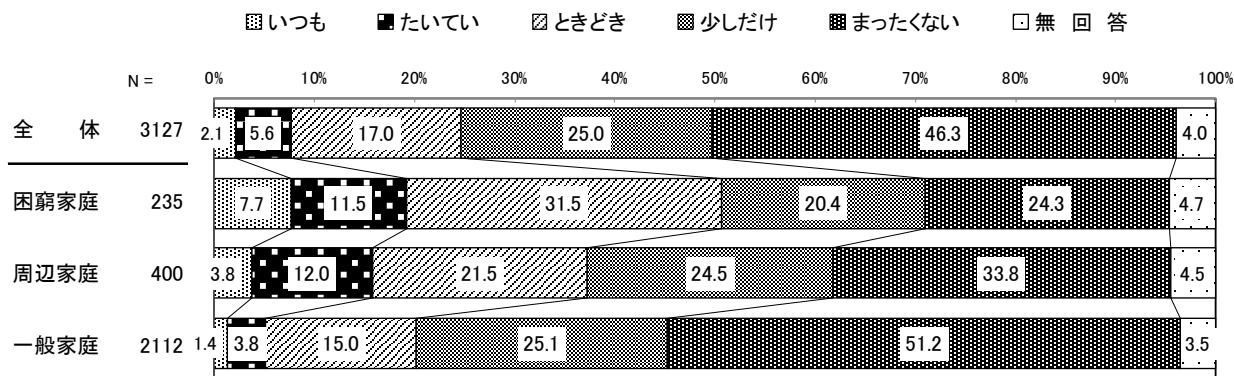


#### 4) 気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じた

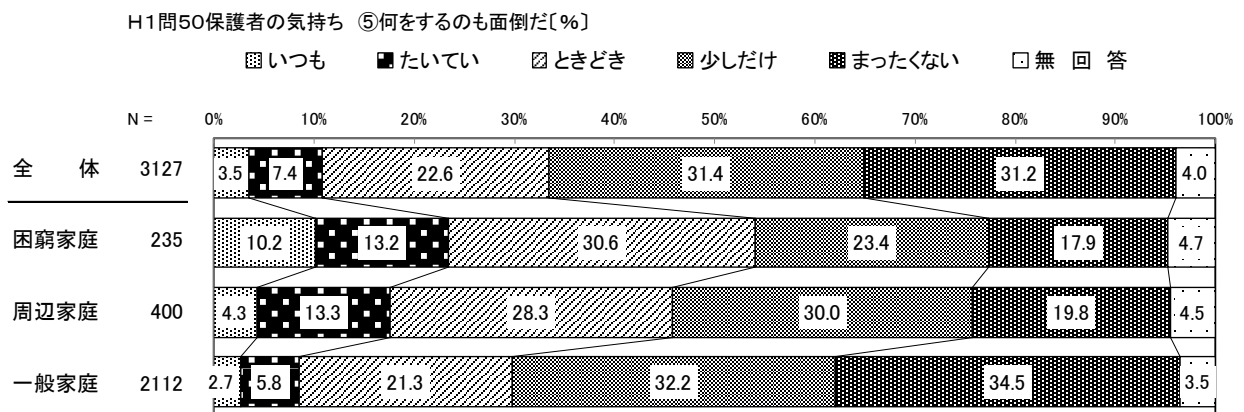
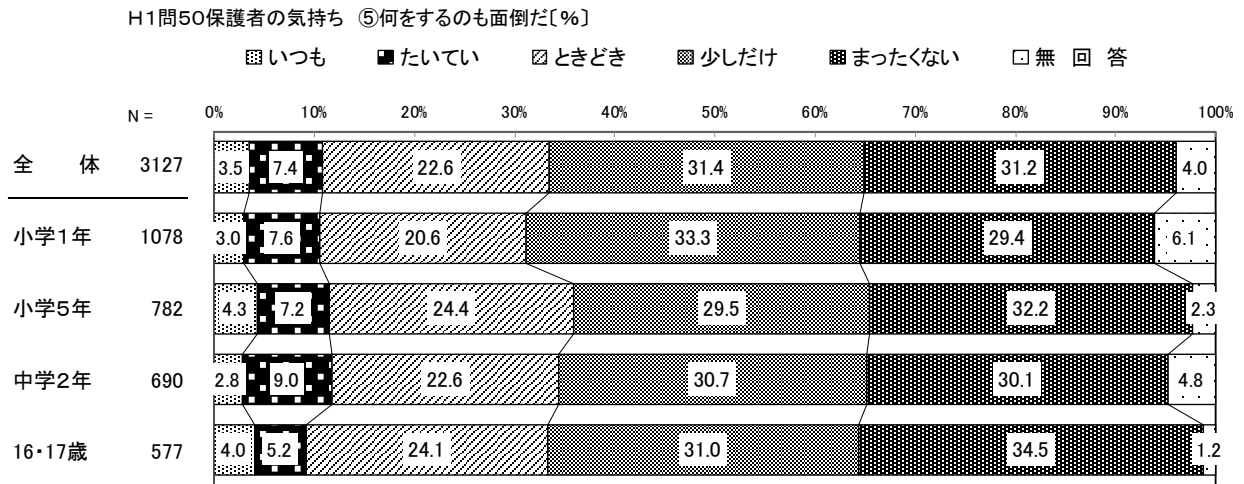
H1問50保護者の気持ち ④気が晴れないように感じた[%]



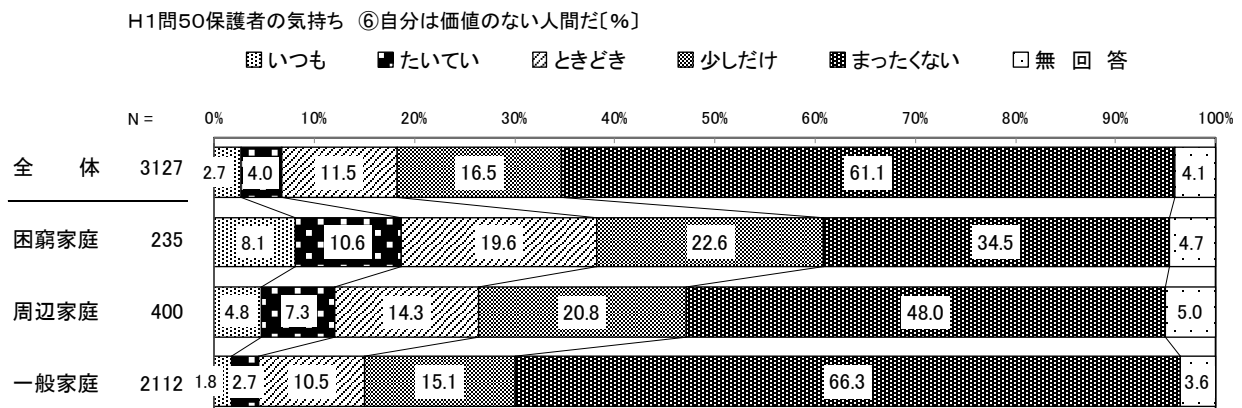
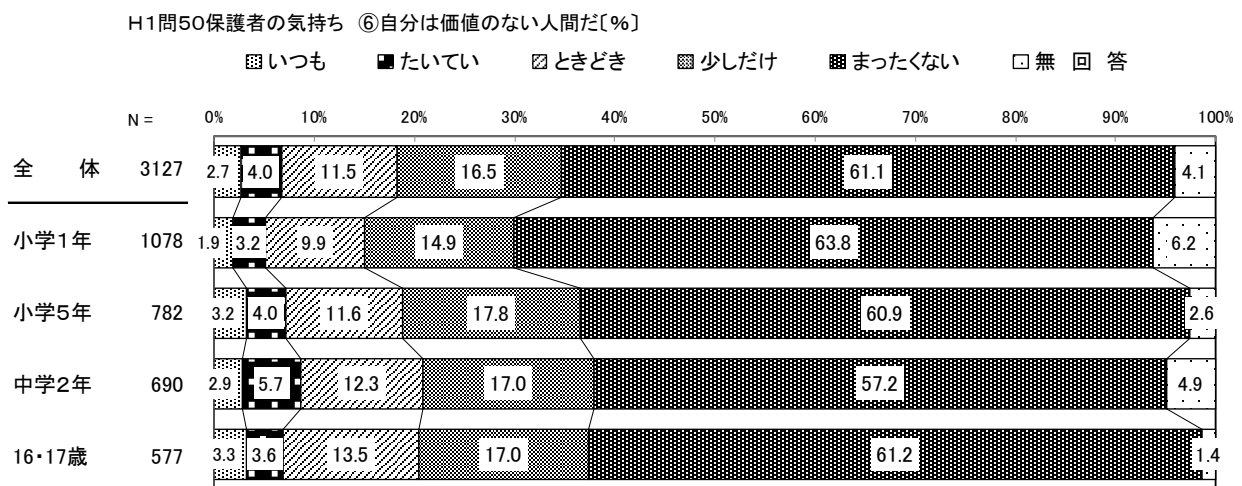
H1問50保護者の気持ち ④気が晴れないように感じた[%]



### 5) 何をするのも面倒だと感じた



### 6) 自分は価値のない人間だと感じた



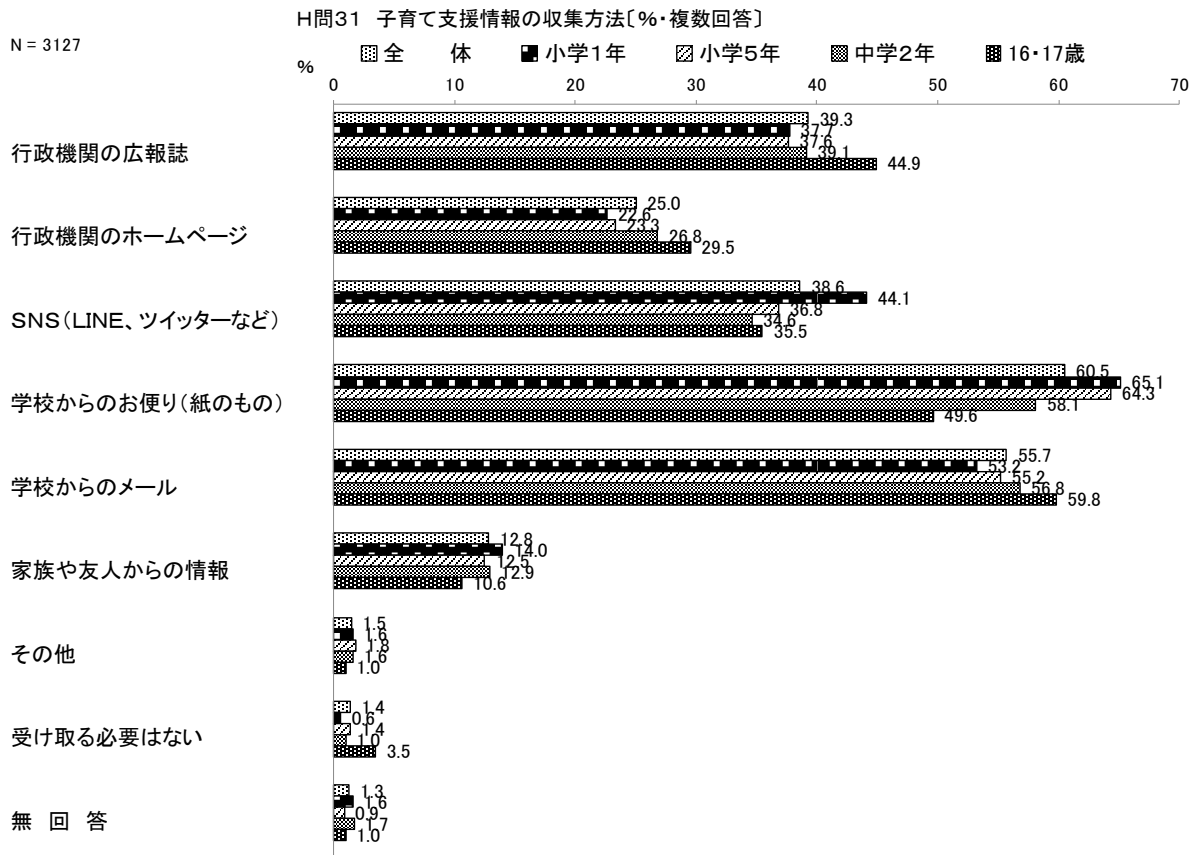
## (8) 公的支援の利用状況など

### ① 子どもに関する施策等の情報の希望の受け取り方法

問 31 あなたは、子どもに関する施策等の情報を、今後、どのような方法で受け取りたいですか。

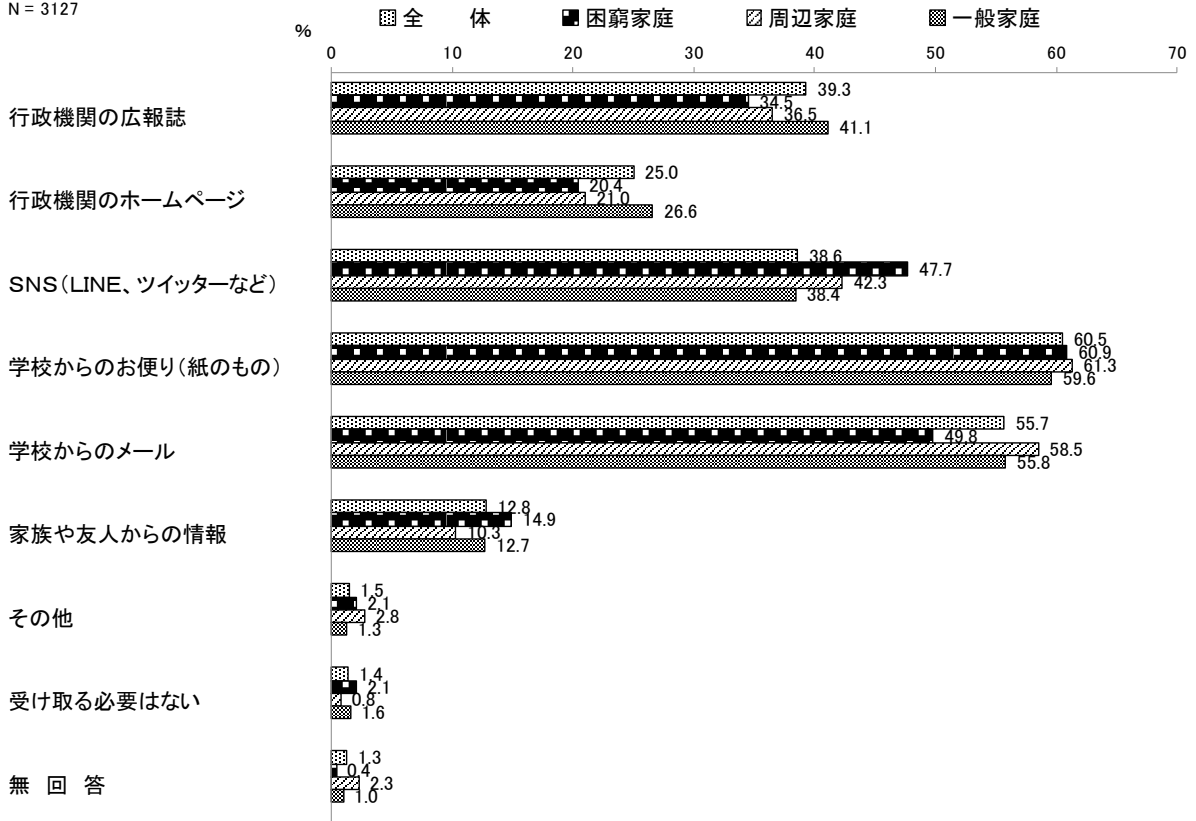
子育て支援情報の収集方法は、「学校からのお便り(紙のもの)」が 60.5%と最も多く、次いで「学校からのメール」が 55.7%となっている。なお、前回と比べて、「学校からのメール」は 37.6%から 55.7%に、「SNS(LINE、ツイッターなど)」は 14.0%から 38.6%と多くなっている。

生活困窮度別では、どの世帯も「学校からのお便り(紙のもの)」が最も多く回答されているが、困窮家庭は「SNS(LINE、ツイッターなど)」が 47.7%となっており、前回と同じ傾向となっている。



N = 3127

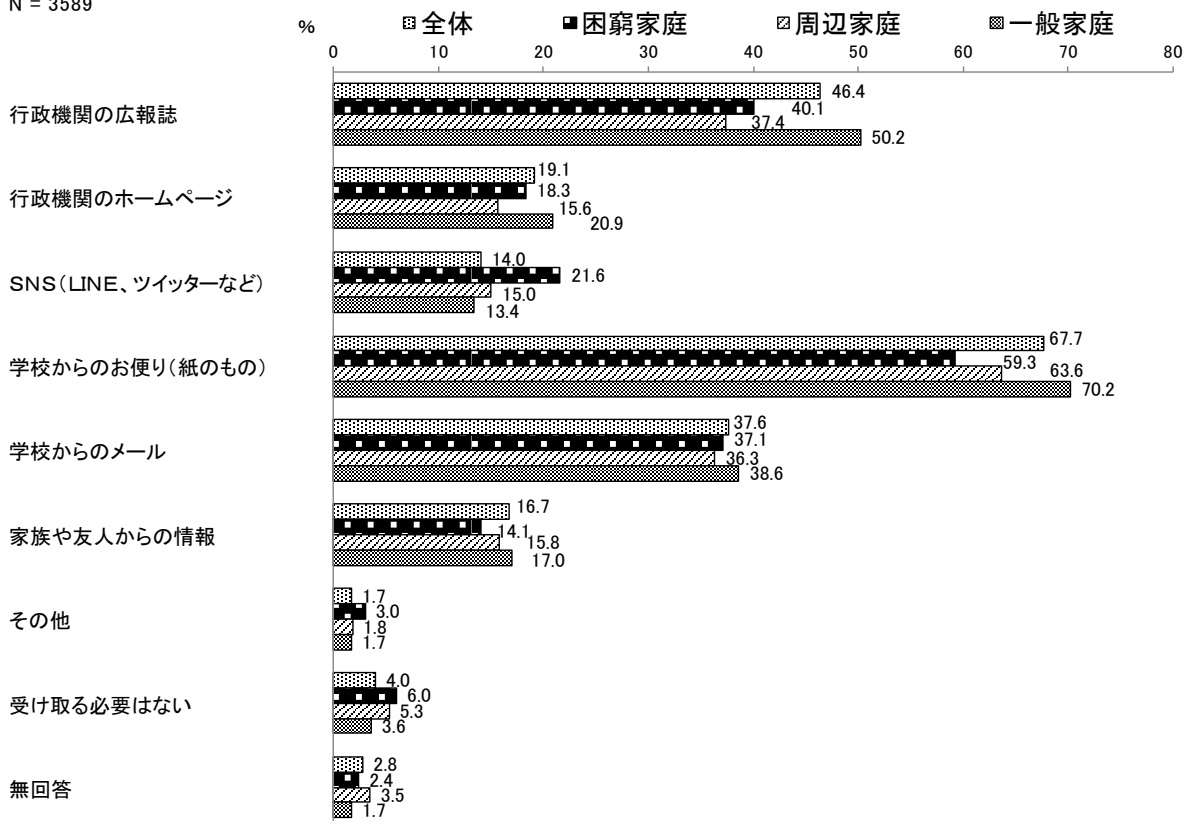
H問31 子育て支援情報の収集方法[%・複数回答]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査)  
N = 3589

子どもに関する施策等の情報の希望の受け取りの方法[%・複数回答]

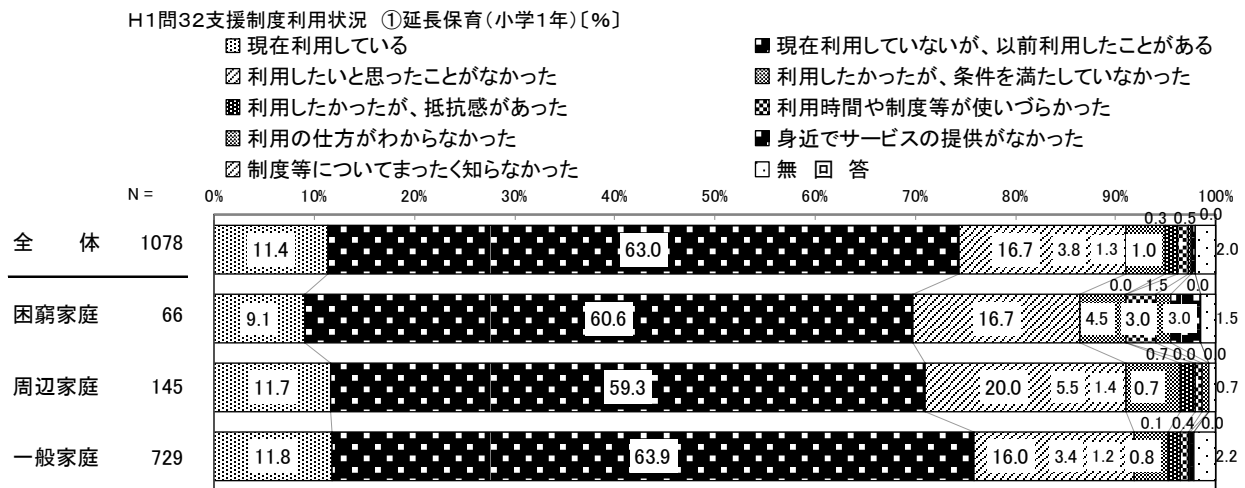


## ②支援制度の利用状況

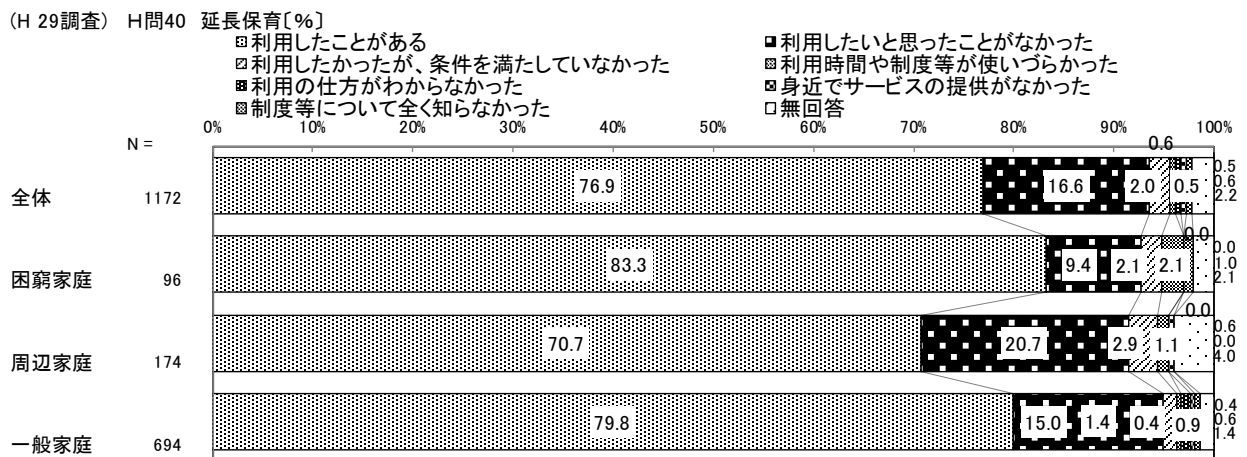
問 32 封筒の宛名のお子さんについて、以下の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

### 1) 延長保育（小学1年のみ）

延長保育の利用状況は、『利用したことがある』（「現在利用している」と「現在利用していないが、以前利用したことがある」の計）が74.4%と多い。



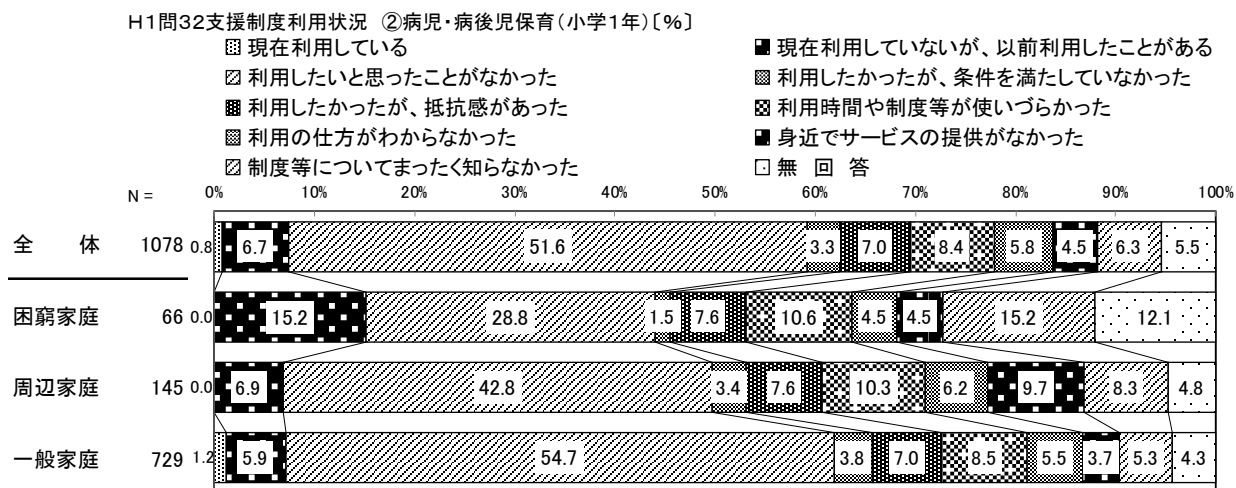
[参考: 前回調査結果]



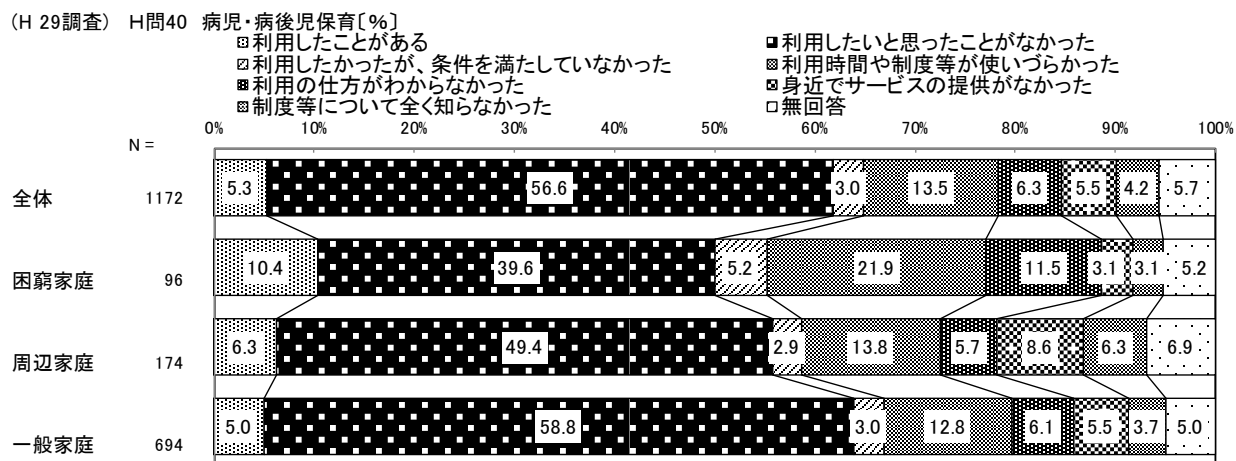
## 2) 病児・病後児保育（小学1年のみ）

病児・病後児保育の利用状況は、『利用したことがある』は7.5%、「利用したいと思ったことがなかった」が51.6%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が28.8%と他の区分に比べて少なく、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と「制度等についてまったく知らなかった」がともに15.2%と多く回答されている。



### [参考: 前回調査結果]

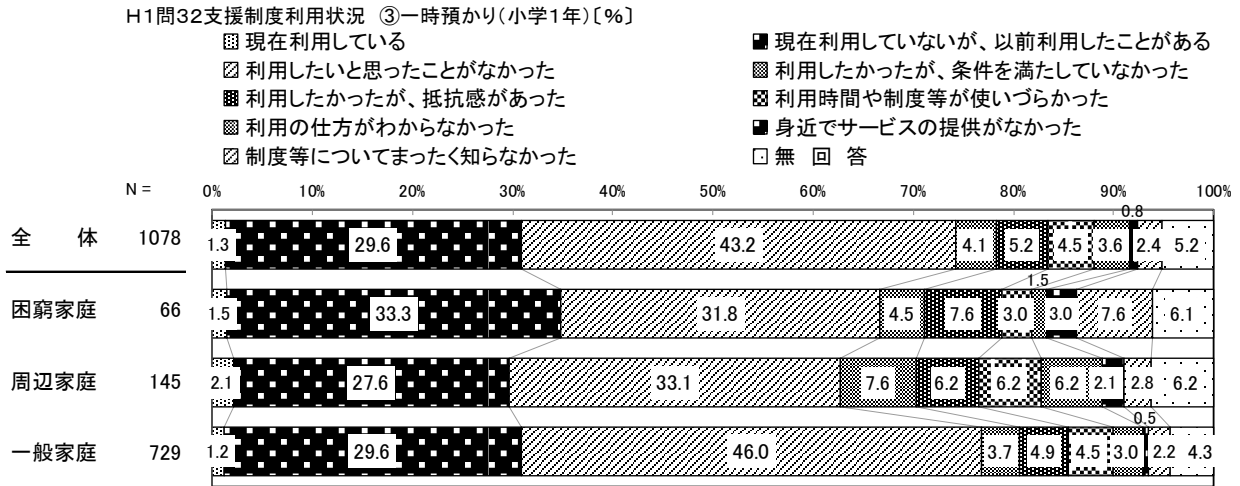




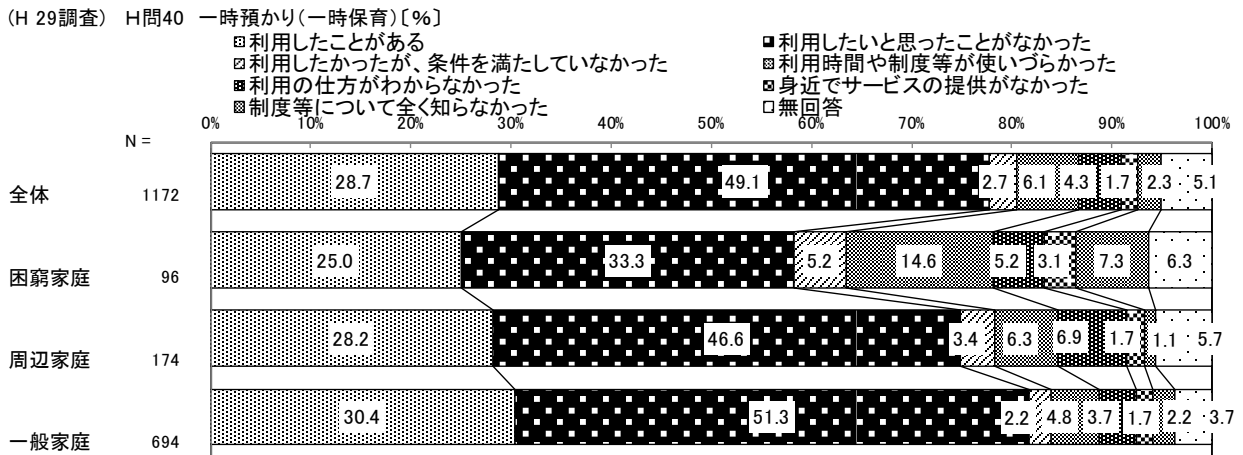
### 3) 一時預かり(一時保育)(小学1年のみ)

一時預かり(一時保育)の利用状況は、『利用したことがある』は 30.9%、「利用したいと思ったことがなかった」が43.2%などとなっている。

生活困窮度別では、生活困難家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が30%台と一般家庭に比べて少ない。

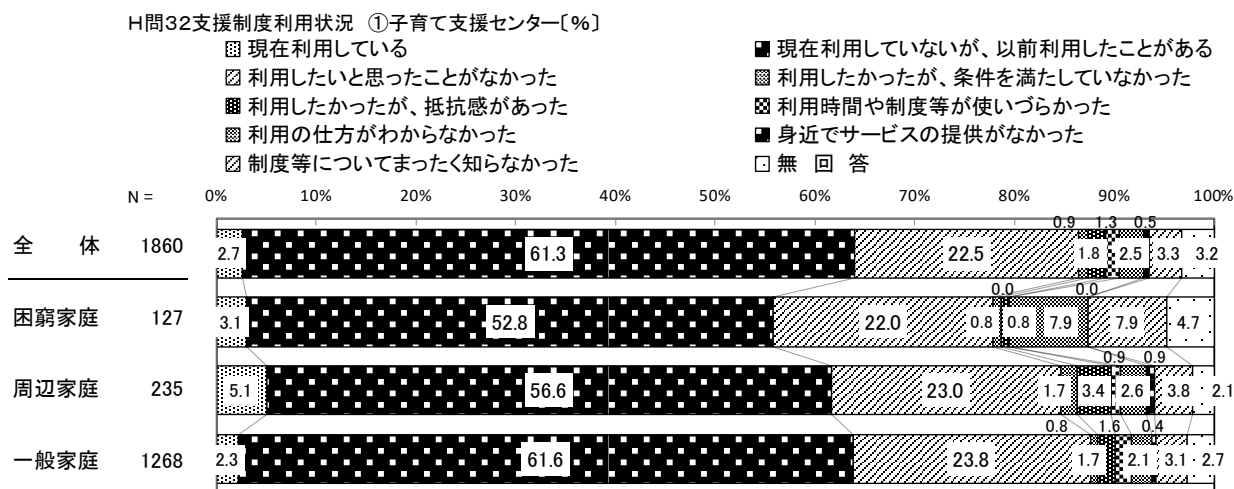
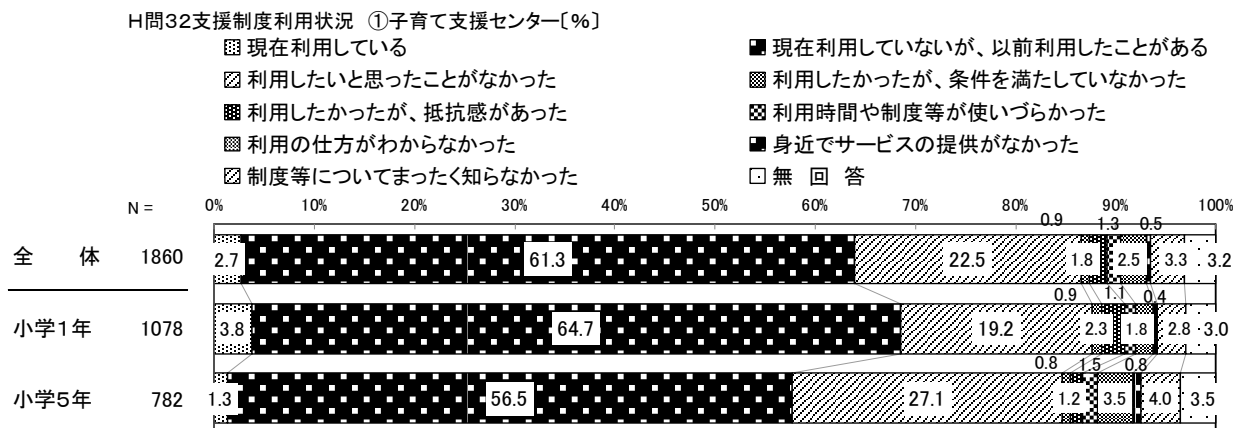


#### [参考: 前回調査結果]

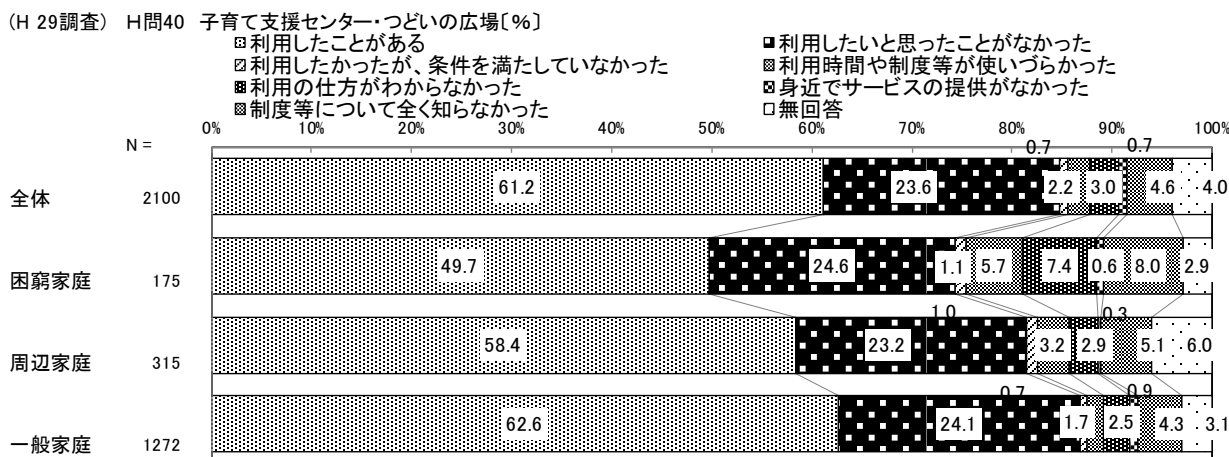


#### 4) 子育て支援センター・つどいの広場（小学1年・5年のみ）

子育て支援センター・つどいの広場の利用状況は、『利用したことがある』は 64.0%で、学年別では、小学1年で68.5%と多い。

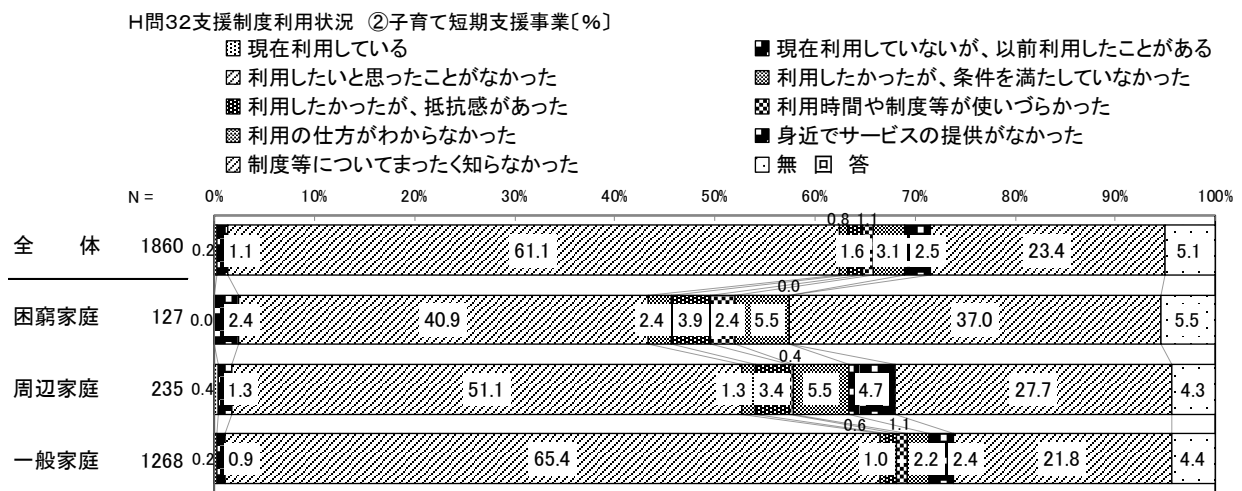
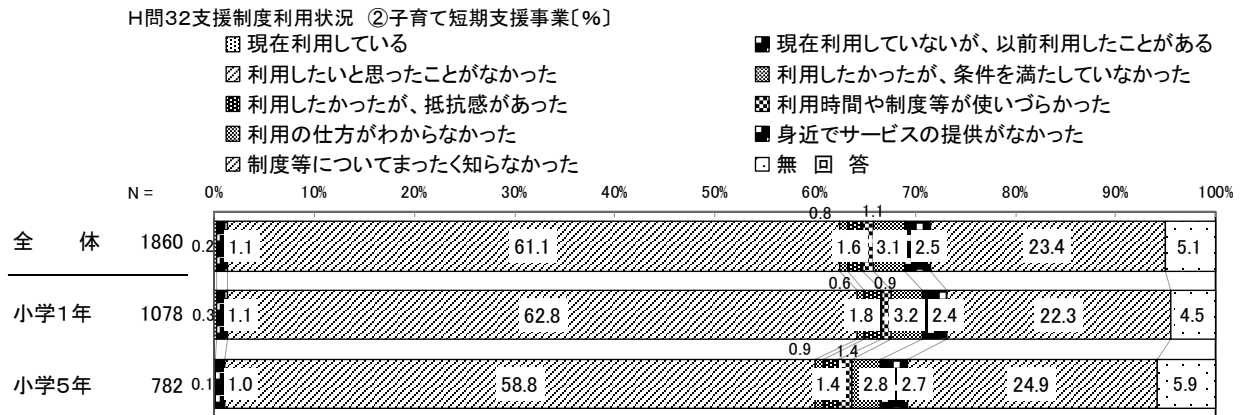


#### [参考: 前回調査結果]

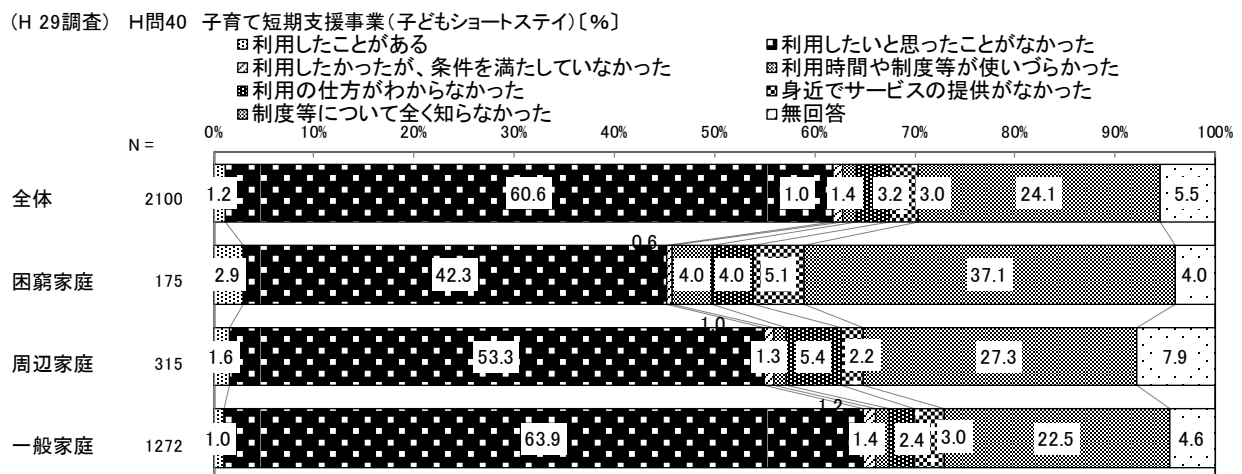


### 5) 子育て短期支援事業（子どもショートステイ）（小学1年・5年のみ）

子育て短期支援事業（子どもショートステイ）の利用状況は、『利用したことがある』が 1.3%、「利用したいと思ったことがなかった」が 61.1%、「制度等についてまったく知らなかった」が 23.4%などとなっている。

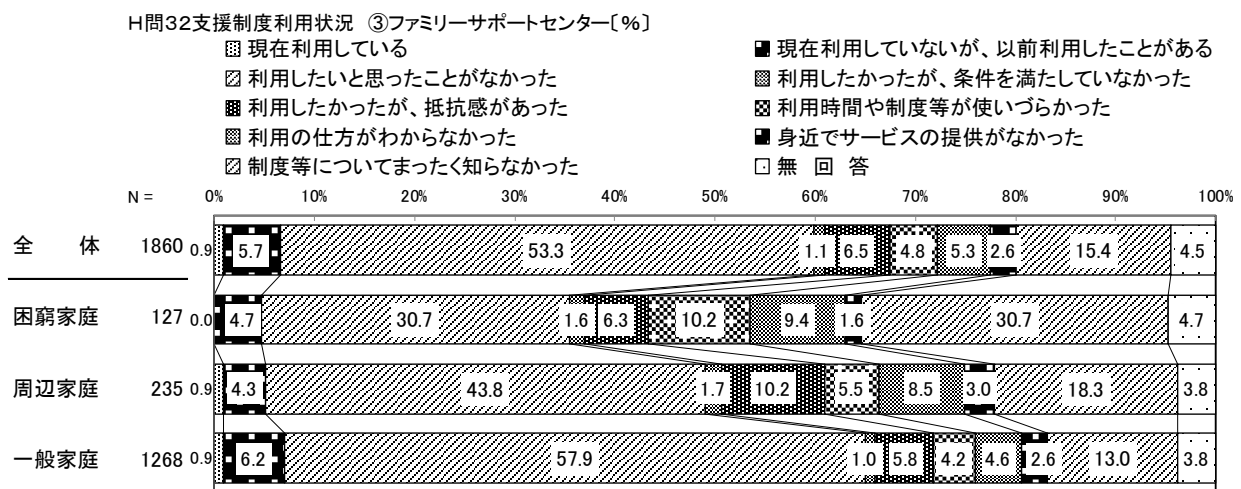
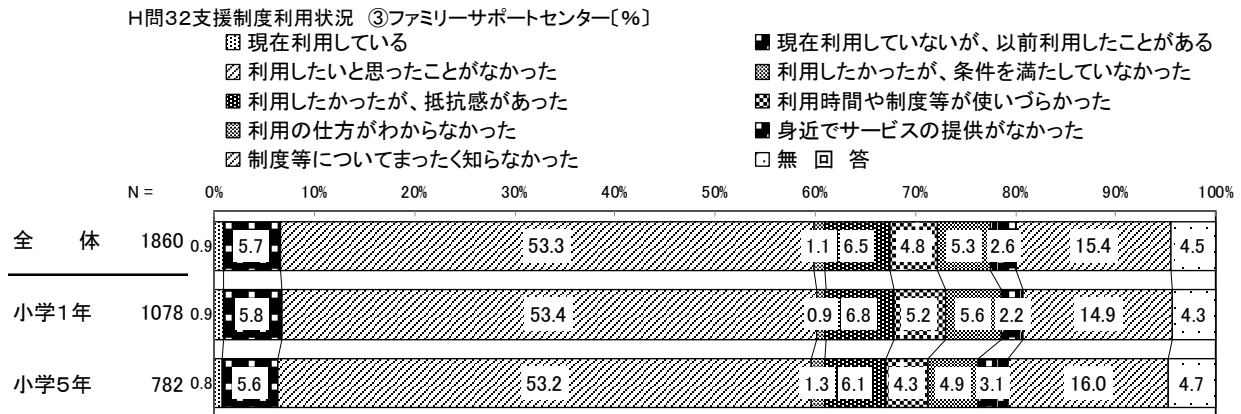


[参考: 前回調査結果]

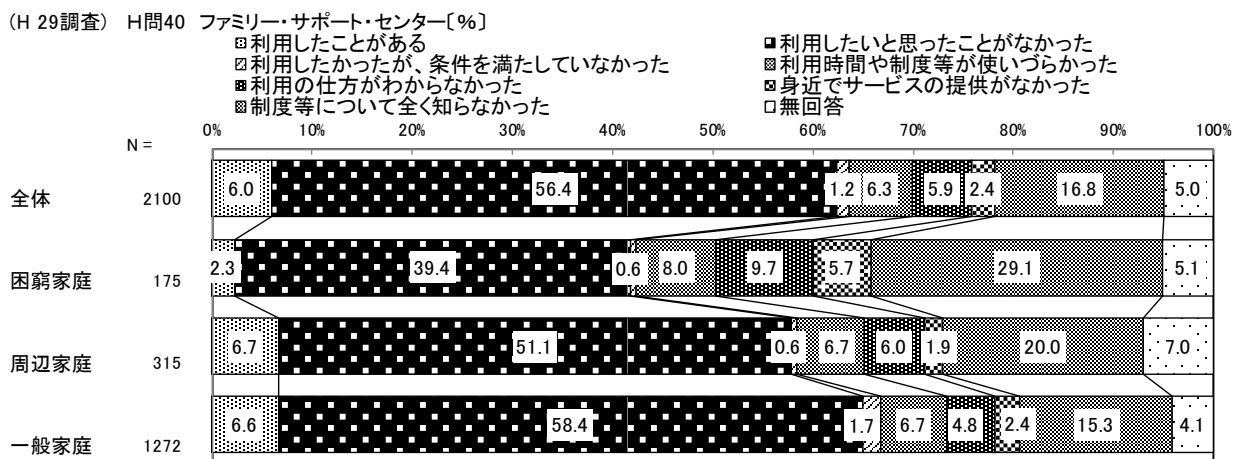


## 6) ファミリー・サポート・センター（小学1年・5年のみ）

ファミリー・サポート・センターの利用状況は、『利用したことがある』が6.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が53.3%、「制度等についてまったく知らなかった」が15.4%などとなっている。



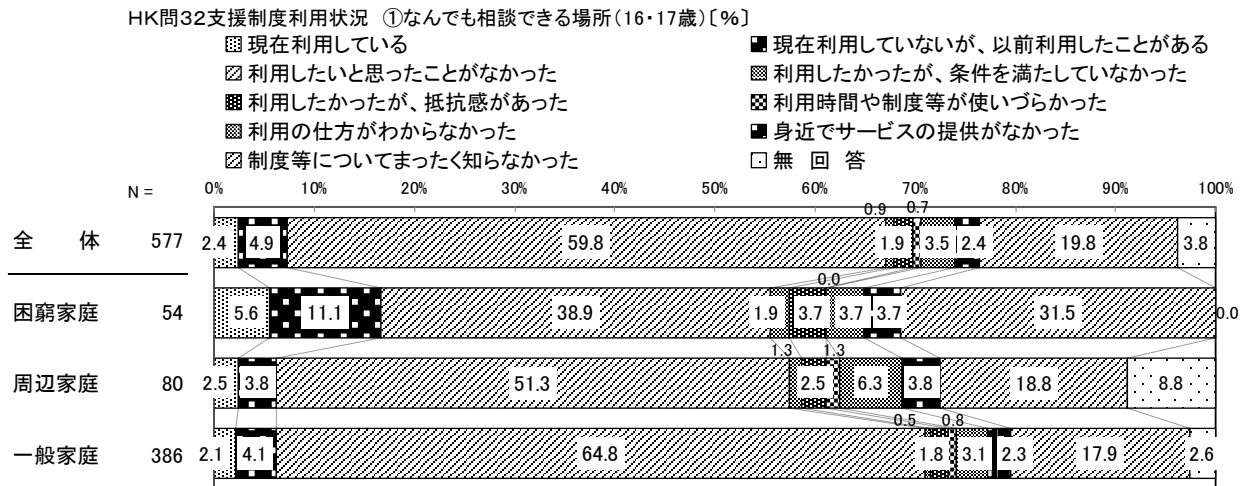
[参考: 前回調査結果]



7) (学校以外で) 16~17 歳の子どもについて、何でも相談できる場所 (16・17 歳のみ)

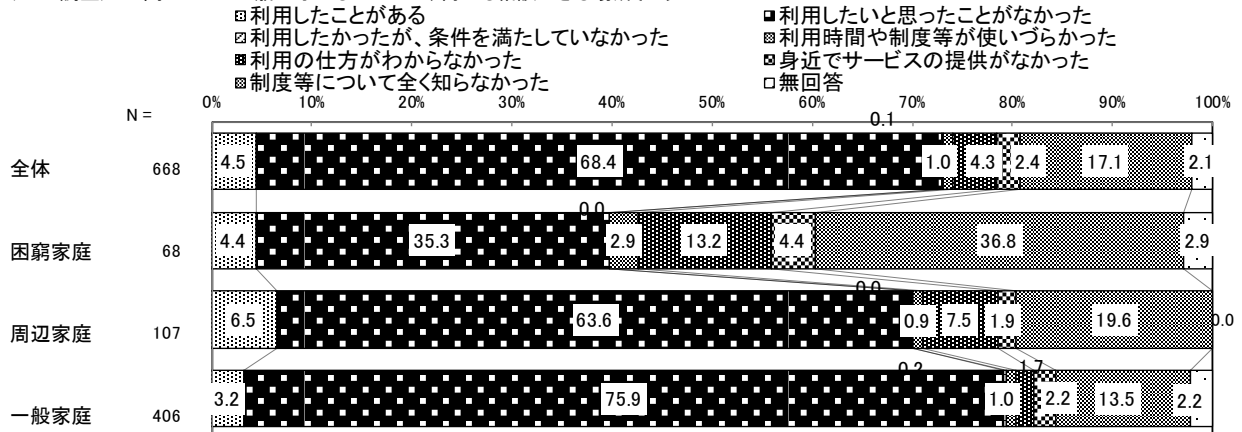
学校以外でなんでも相談できる場所の利用状況について、『利用したことがある』が 7.3%、「利用したいと思ったことがなかった」が、59.8%、「制度等についてまったく知らなかった」が 19.8%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 31.5%、『利用したことがある』が 16.7%と多い。



[参考: 前回調査結果]

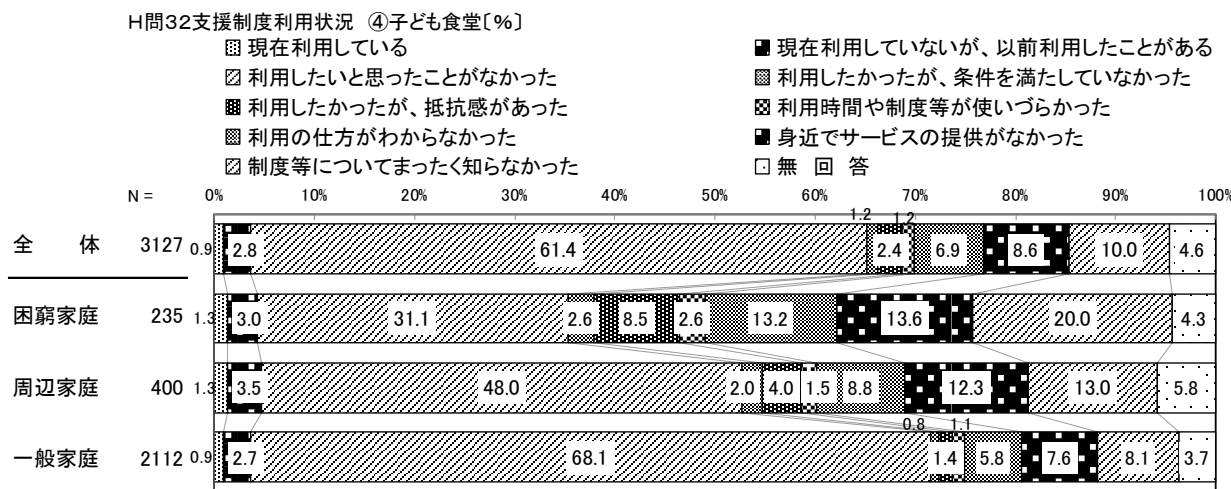
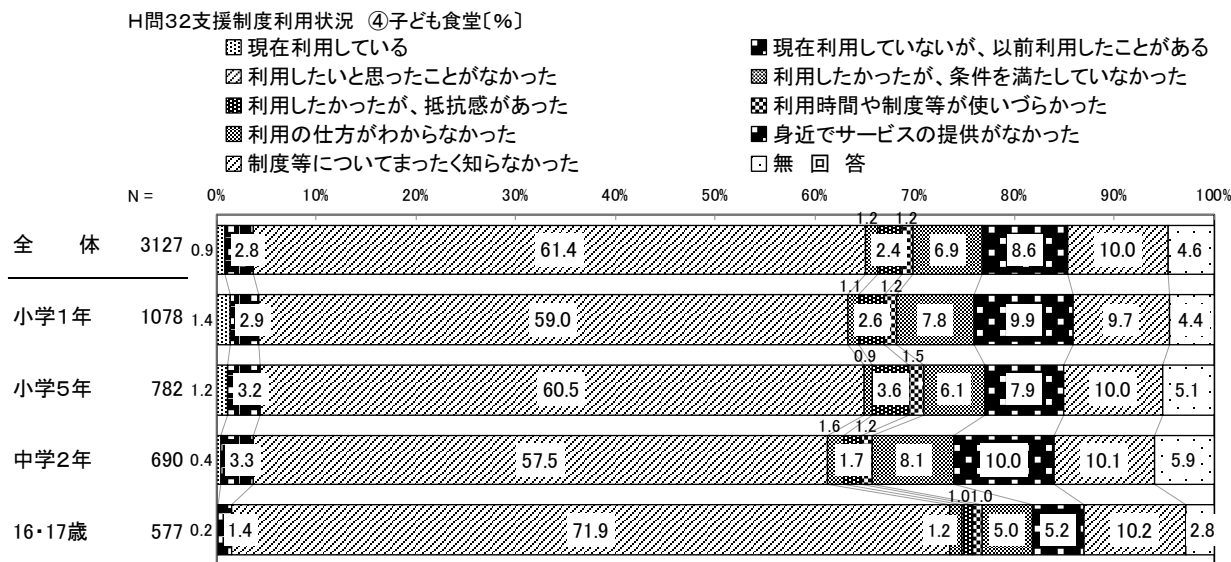
(H 29調査) H問40 16・17歳の子どもについて、何でも相談できる場所 [%]



### 8) 子ども食堂

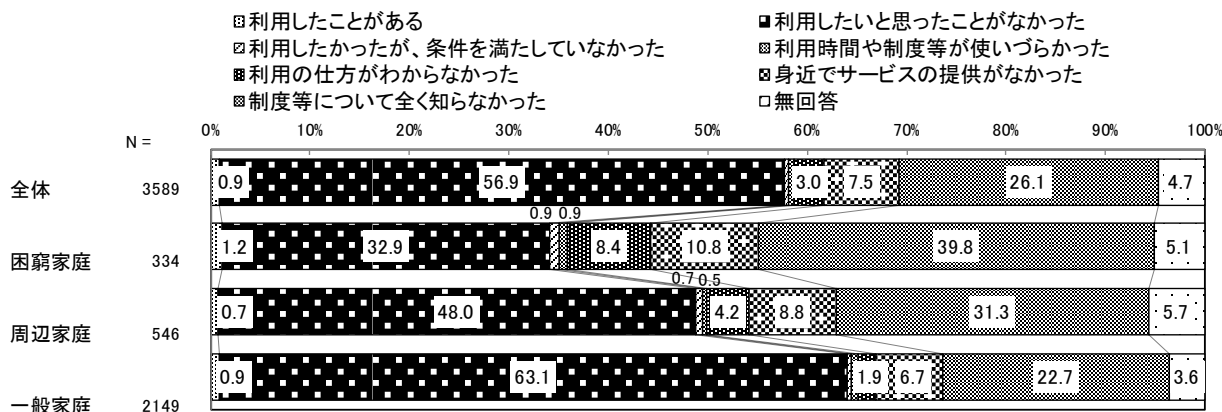
子ども食堂の利用状況は、『利用したことがある』は 3.7%、「利用したいと思ったことがなかった」が 61.4%などとなっている。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」は困窮家庭で 31.1%、周辺家庭で 48.0%と少なく、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 20.0%回答されている。また、前回と比べて、全区分で「制度等についてまったく知らなかった」の回答割合は少なくなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

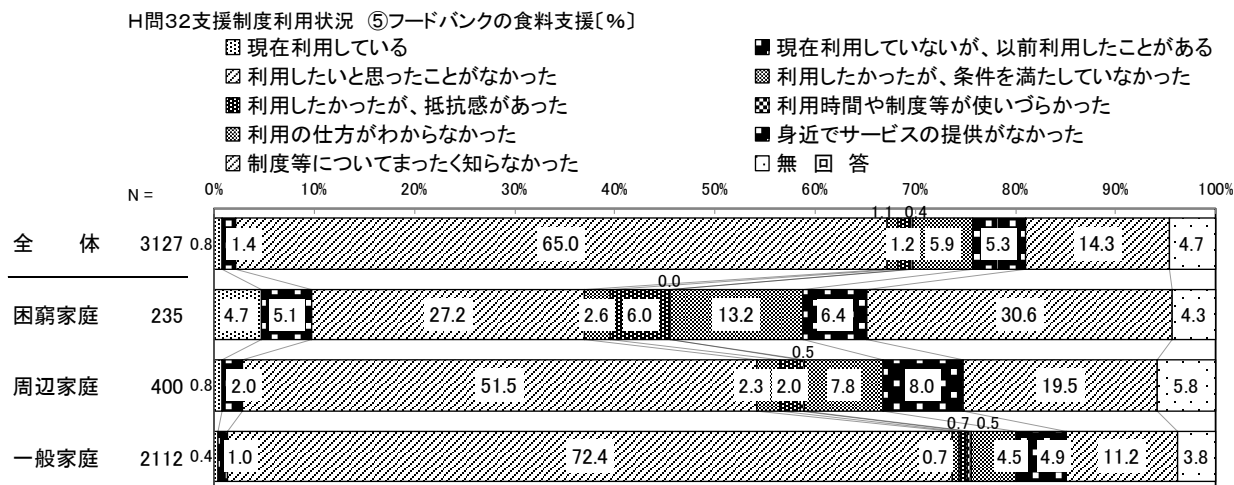
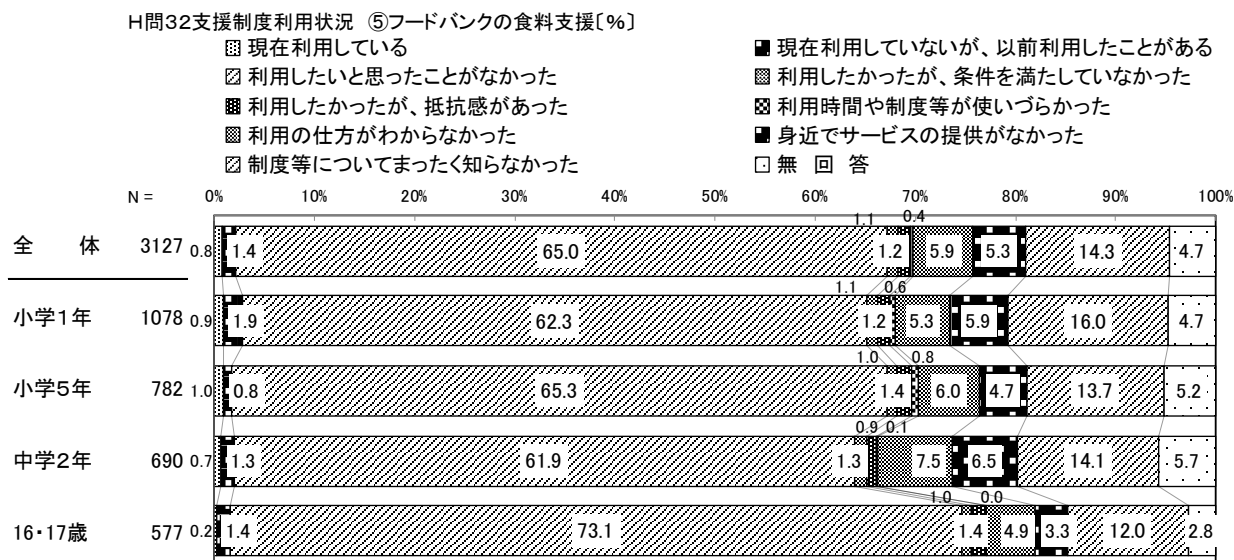
#### (H 29調査) 子ども食堂[%]



### 9) フードバンクによる食料支援

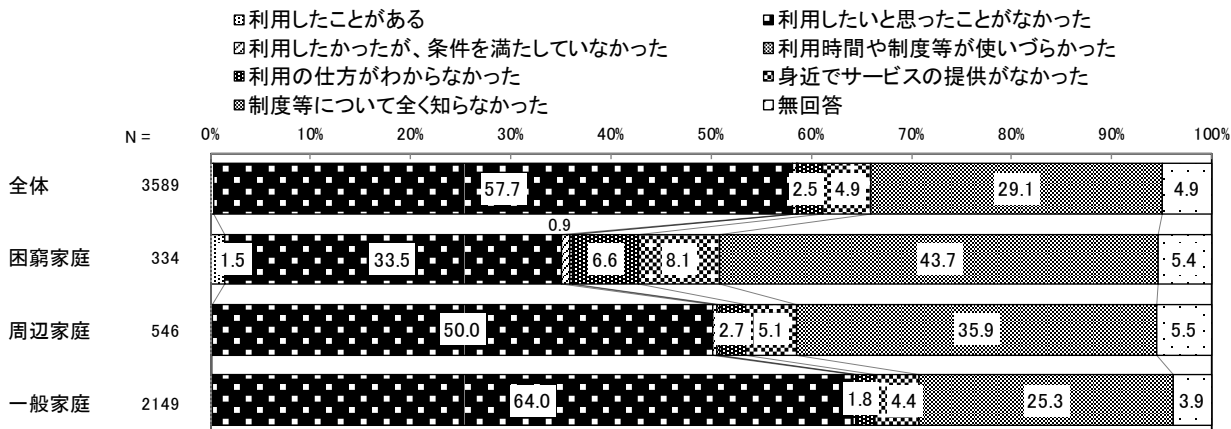
フードバンクによる食料支援の利用状況は、『利用したことがある』は 2.2%、「利用したいと思ったことがなかった」が 65.0%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で他の区分よりも「利用したいと思ったことがなかった」は 27.2%と少なく、『利用したことがある』は 9.8%と約1割が回答している。また、前回と比べて、全区分で「制度等についてまったく知らなかった」の回答割合は少なくなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) フードバンクによる食料支援[%]



10) 小学校高学年も利用できる児童館や児童クラブ(小学5年のみ)・中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所(中学2年・16・17歳のみ)

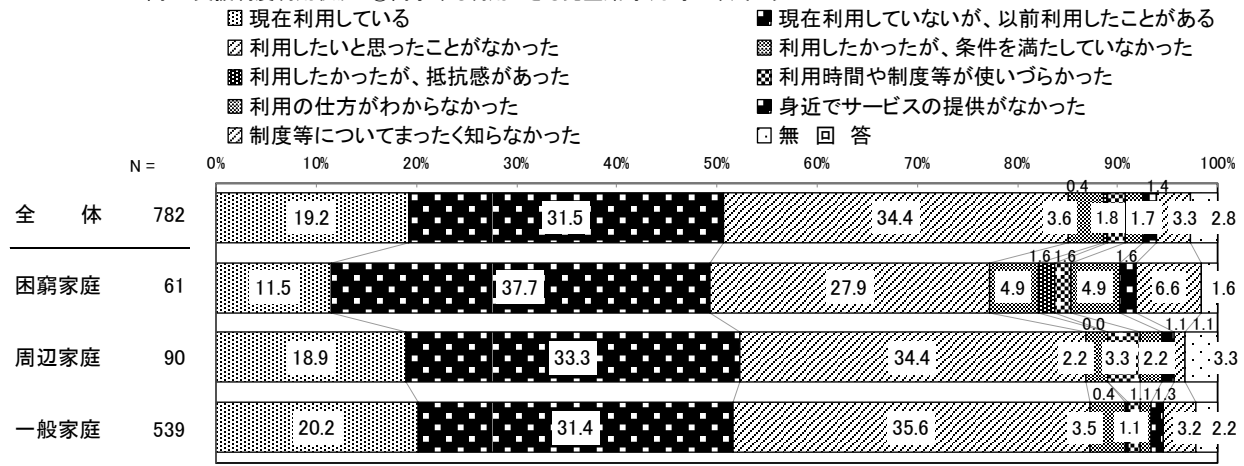
小学校高学年も利用できる児童館や児童クラブ(小学5年生)の利用状況は、『利用したことがある』が50.7%、「利用したいと思ったことがなかった」が34.4%などとなっている。

中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所の利用状況は、『利用したことがある』は6.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が51.1%、「制度等についてまったく知らなかった」が21.2%である。

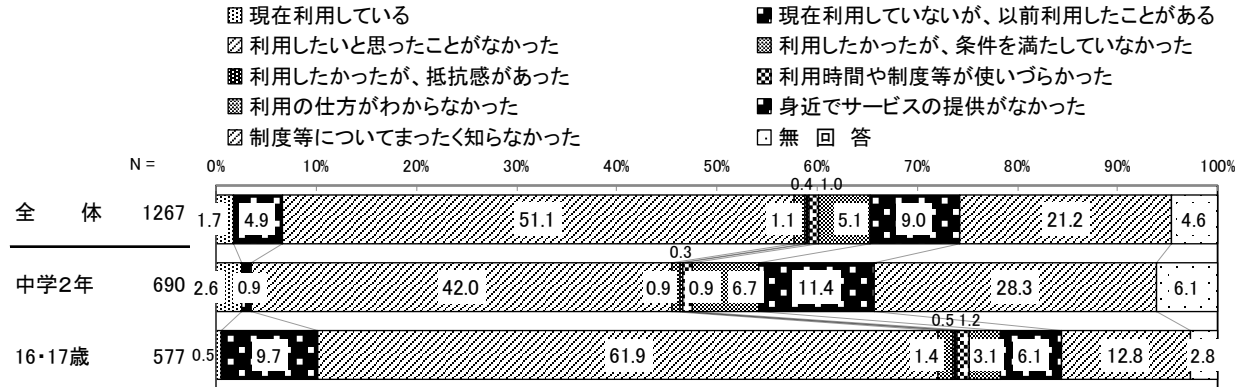
学年別では、16・17歳で『利用したことがある』は10.2%、「利用したいと思ったことがなかった」が61.9%である。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」は困窮家庭で28.7%、周辺家庭で38.2%と少なく、「制度等についてまったく知らなかった」は困窮家庭で34.3%と他の区分よりも多い。

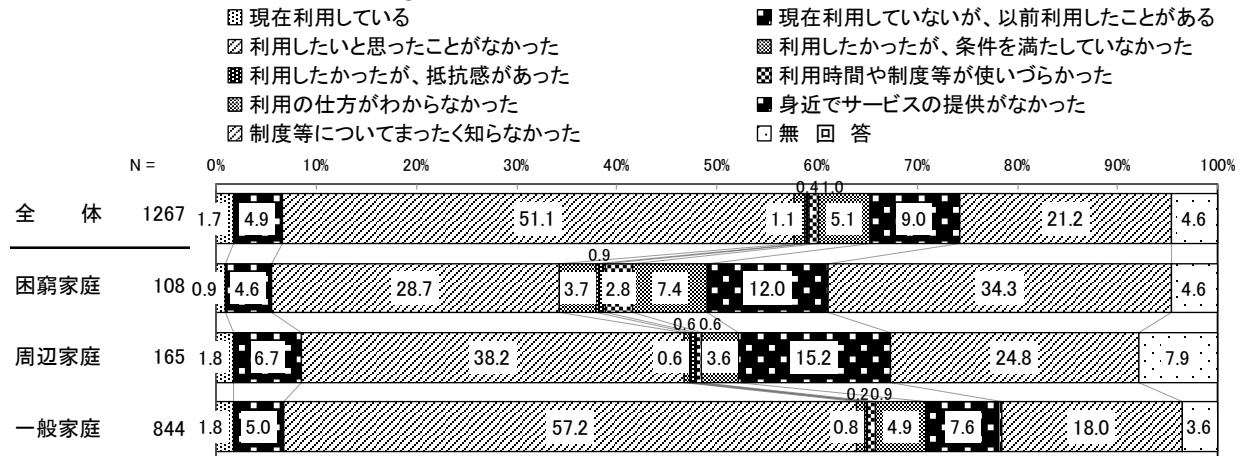
H問32支援制度利用状況 ⑥高学年も利用できる児童館等(小学5年)〔%〕



H2K問32支援制度利用状況 ③中高生が過ごせる場所〔%〕



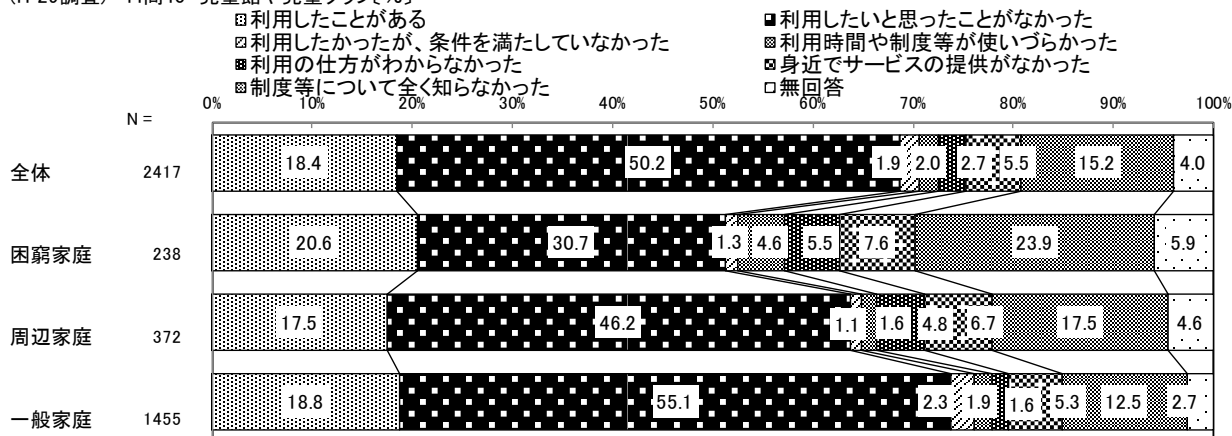
H2K問32支援制度利用状況 ③中高生が過ごせる場所〔%〕





[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) H問40 児童館や児童クラブ[%]



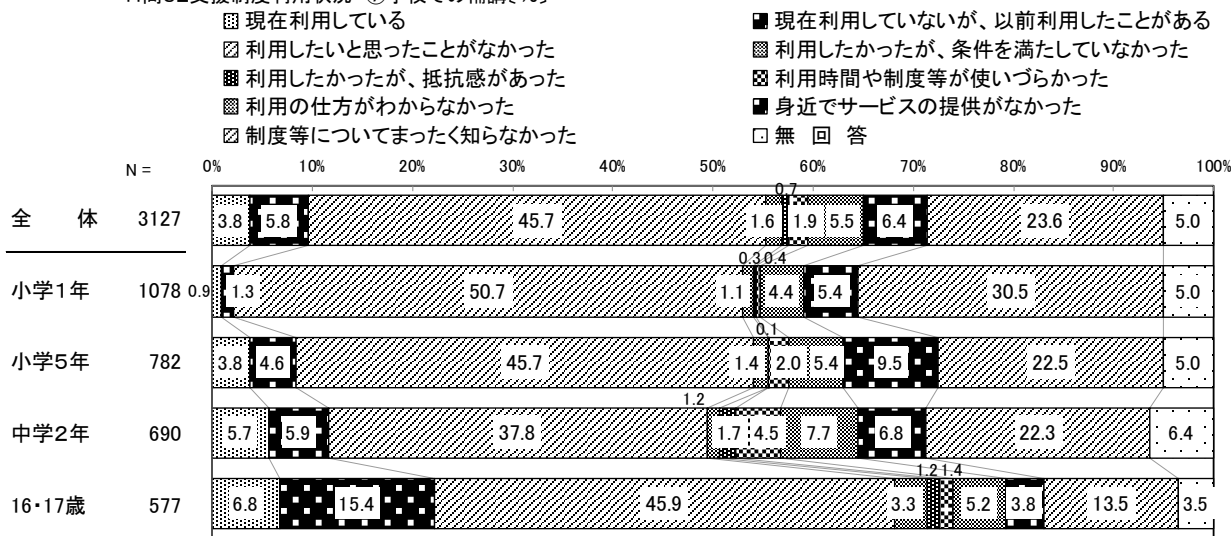
11) 学校が実施する補講（学習支援）

学校が実施する補講(学習支援)の利用状況は、『利用したことがある』が 9.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が 45.7%、「制度等についてまったく知らなかった」が 23.6%などとなっている。

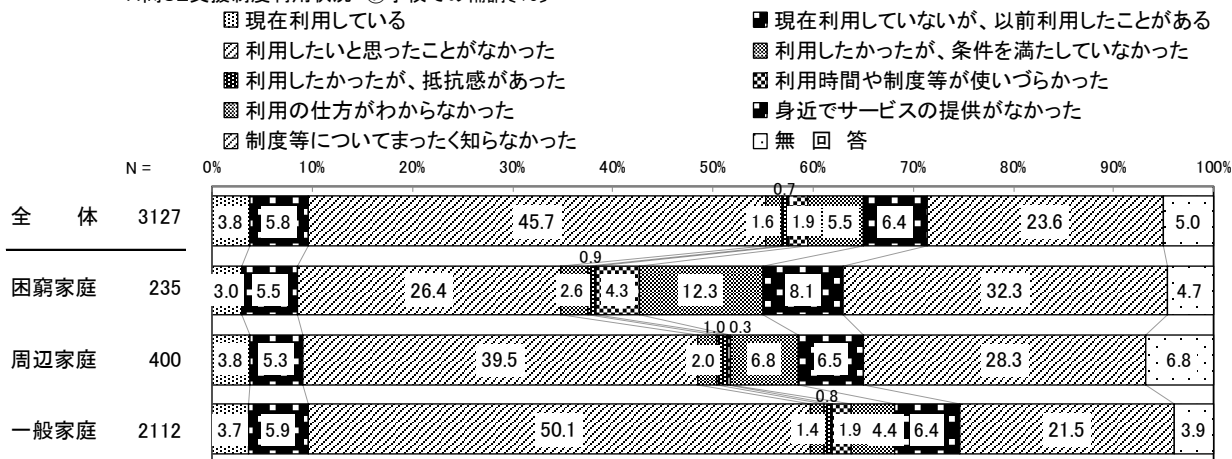
学年別では、『利用したことがある』は、小学1年で 2.2%だが学年が上がる割合が高くなり、16・17歳で 22.2%である。「制度等についてまったく知らなかった」は小学1年で 30.5%である。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」が困窮家庭で 26.4%と少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 32.3%と多い。

H問32支援制度利用状況 ⑦学校での補講[%]

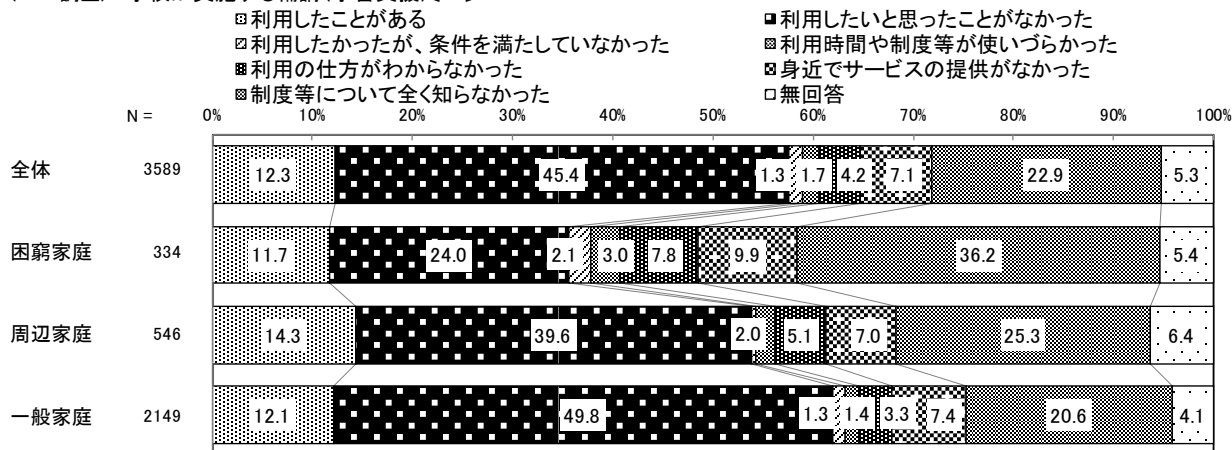


H問32支援制度利用状況 ⑦学校での補講[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 学校が実施する補講(学習支援) [%]



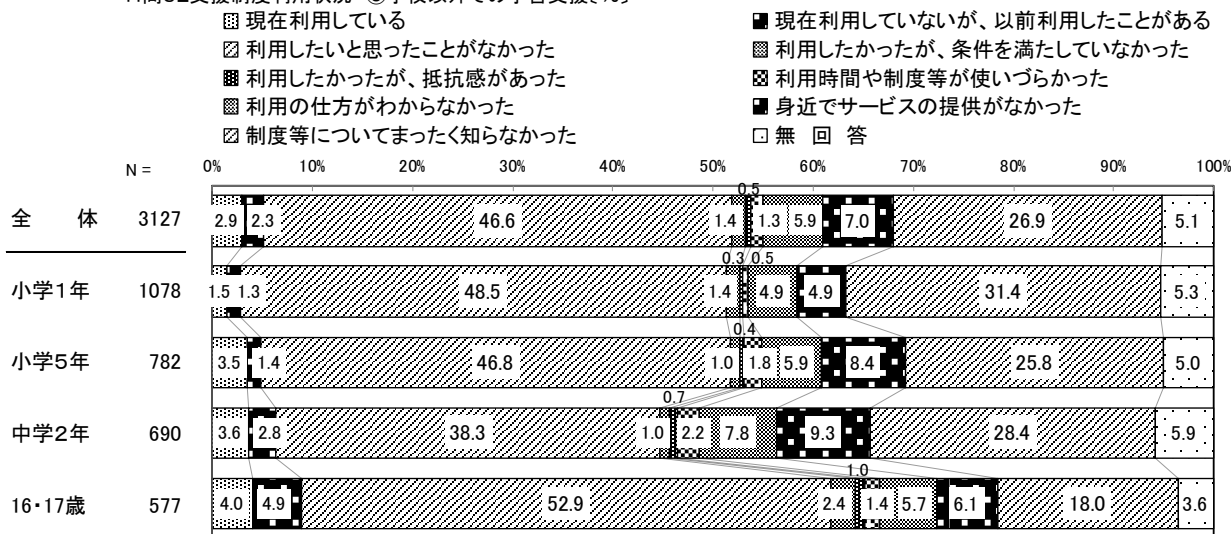
12) 学校以外が実施する学習支援

学校以外が実施する学習支援の利用状況は、『利用したことがある』が 5.2%、「利用したいと思ったことがなかった」が 46.6%、「制度等についてまったく知らなかった」が 26.9%などとなっている。

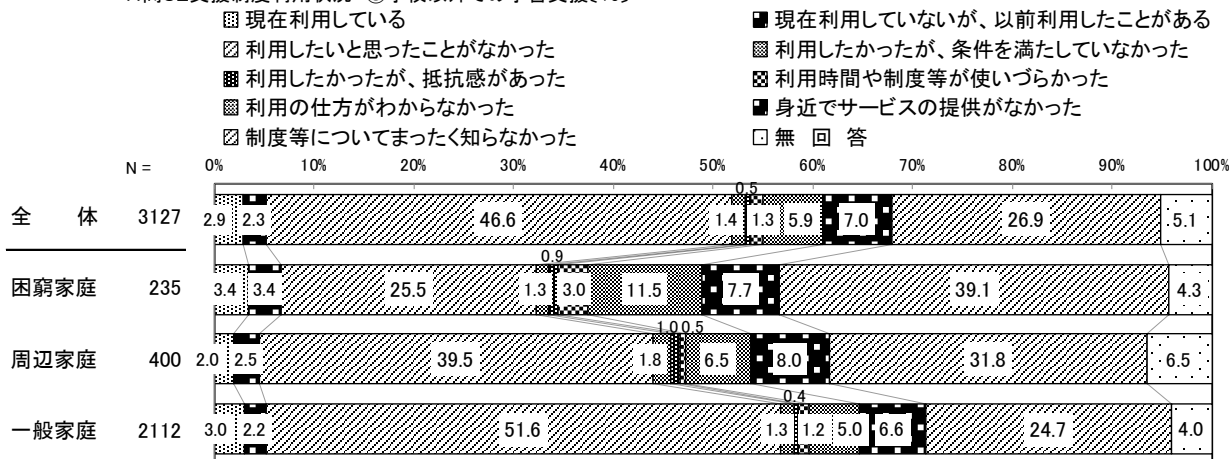
学年別では、16・17 歳で「利用したいと思ったことがなかった」が 52.9%と多く、「制度等についてまったく知らなかった」が 18.0%と少ない。

生活困窮度別では、「利用したいと思ったことがなかった」が困窮家庭で 25.5%と少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 39.1%と多い。

H問32支援制度利用状況 ⑧学校以外での学習支援 [%]

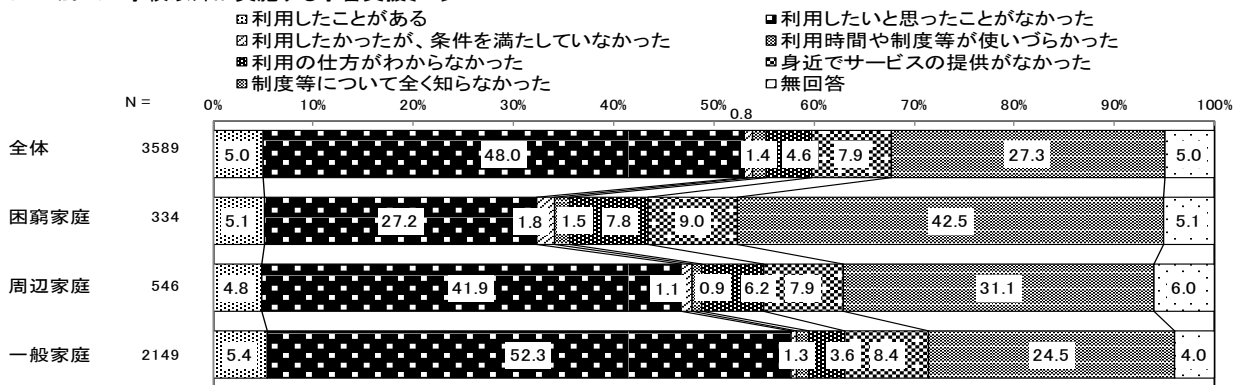


H問32支援制度利用状況 ⑧学校以外での学習支援 [%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 学校以外が実施する学習支援[%]



③支援サービスの利用希望

[希望する子育て支援サービス]

問 33 今後、充実を希望する子育て支援サービスは何ですか。

希望する子育て支援サービスについて、「子どもの就学に係る費用の軽減」が 52.6%と最も多く、次いで「子どもの医療費の軽減の充実」が 35.5%である。前回と比べて、「子どもの就学に係る費用の軽減」は多くなっている。

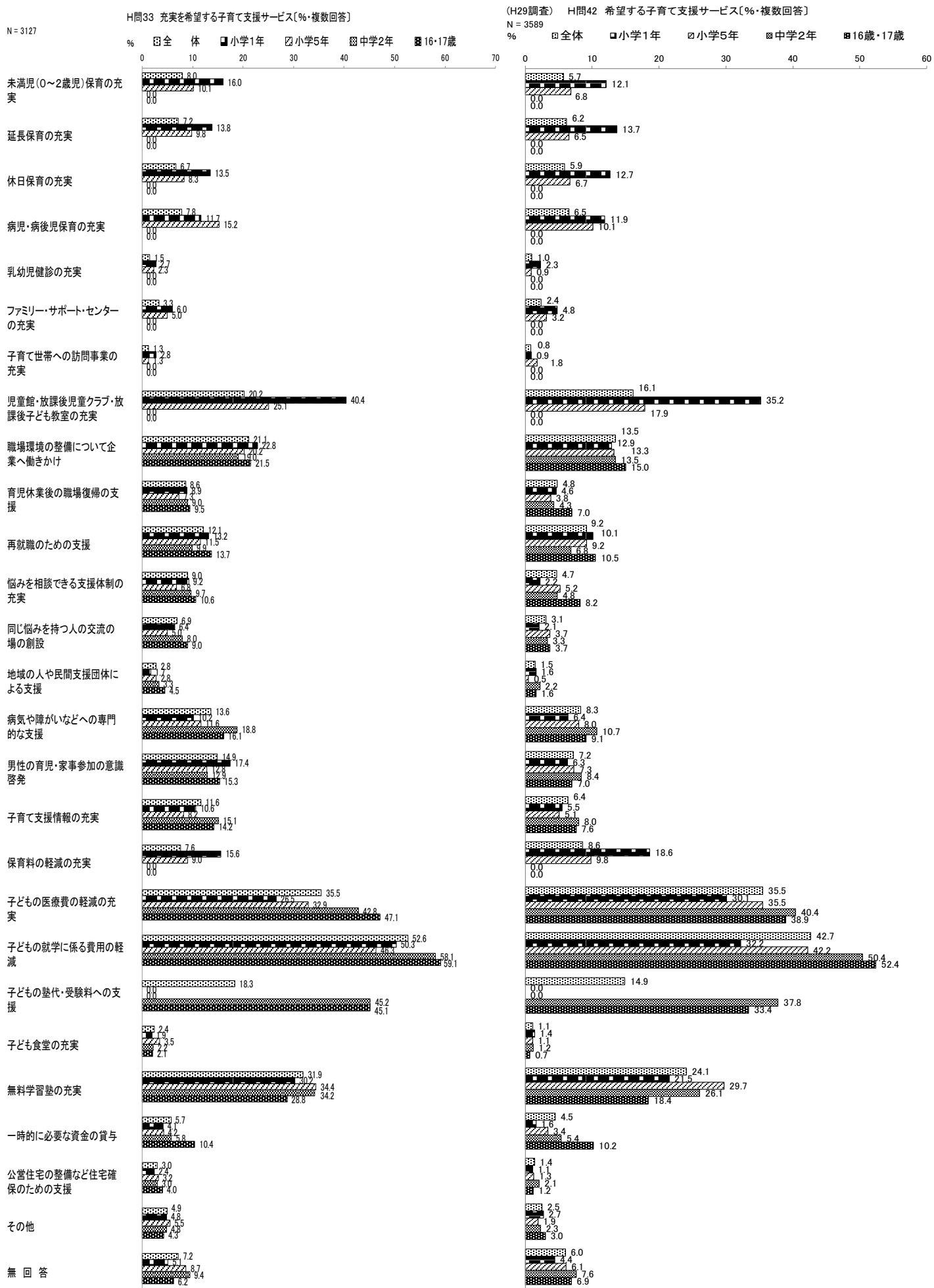
学年別では、各学年で「子どもの就学に係る費用の軽減」が最も多く、小学1年で「児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実」が 40.4%、中学2年と 16・17 歳で「子どもの塾代、受験料への支援」もそれぞれ 45%程度と多い。

生活困窮度別では、困窮家庭で「子どもの就学に係る費用の軽減」が 65.5%、「無料学習塾の充実」が 44.7%などとなっており、上位5位に挙げられた項目のうち「医療費の軽減」以外の項目について、前回よりも回答割合が多くなっている。

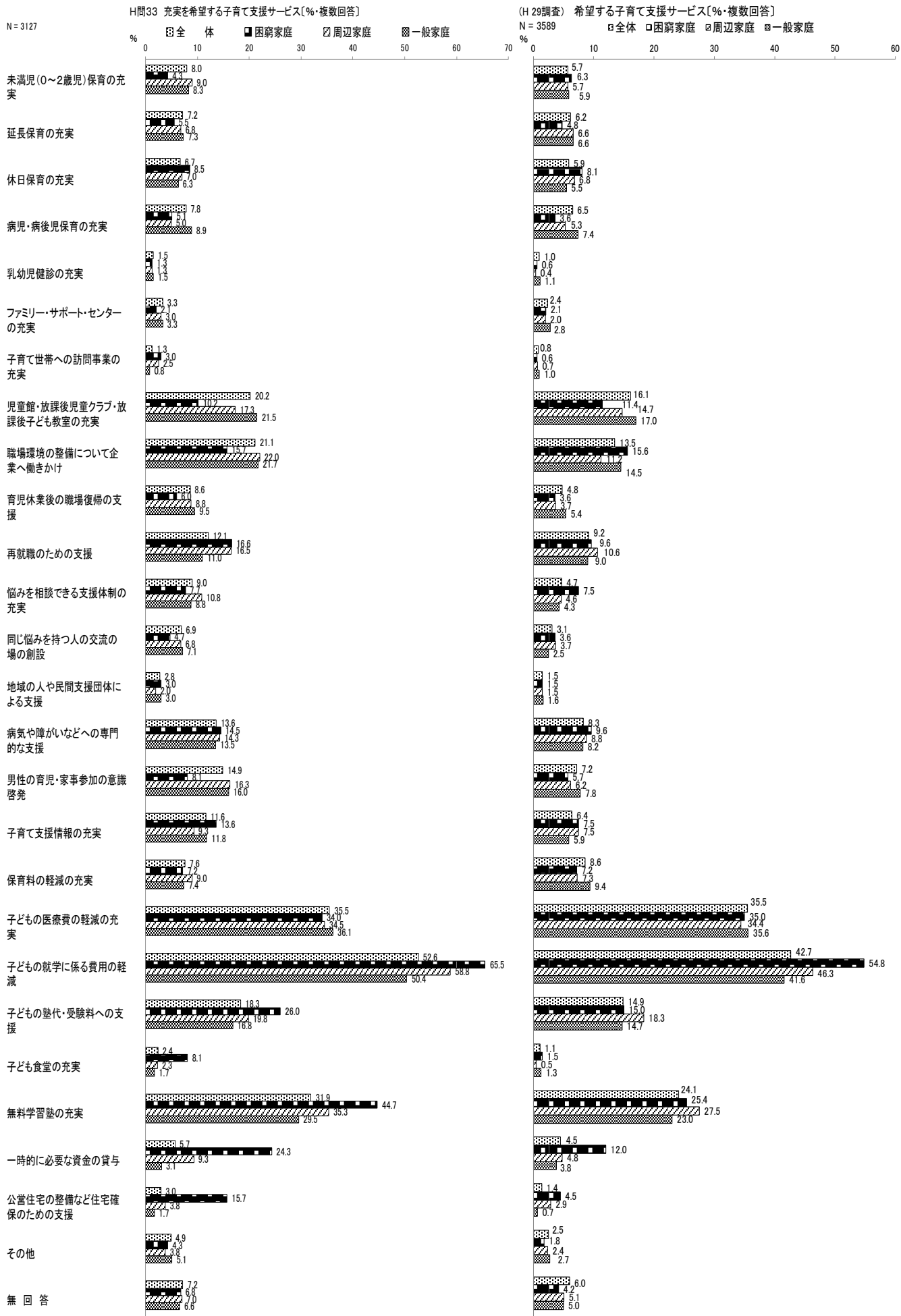
希望する子育て支援サービス(上位5位)

	1位	2位	3位	4位	5位		1位	2位	3位	4位	5位
全体	子どもの就学に係る費用の軽減 (52.6%)	子どもの医療費の軽減の充実 (35.5%)	無料学習塾の充実 (31.9%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (21.1%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (20.2%)	全体	子どもの就学に係る費用の軽減 (52.6%)	子どもの医療費の軽減の充実 (35.5%)	無料学習塾の充実 (31.9%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (21.1%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (20.2%)
小学1年	子どもの就学に係る費用の軽減 (50.3%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (40.4%)	無料学習塾の充実 (30.2%)	子どもの医療費の軽減の充実 (26.5%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (22.8%)	困窮家庭	子どもの就学に係る費用の軽減 (65.5%)	無料学習塾の充実 (44.7%)	子どもの医療費の軽減の充実 (34.0%)	子どもの塾代・受験料への支援 (26.0%)	一時的に必要な資金の貸与 (24.3%)
小学5年	子どもの就学に係る費用の軽減 (46.3%)	無料学習塾の充実 (34.4%)	子どもの医療費の軽減の充実 (32.9%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (25.1%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (20.2%)	周辺家庭	子どもの就学に係る費用の軽減 (58.8%)	無料学習塾の充実 (35.3%)	子どもの医療費の軽減の充実 (34.5%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (22.0%)	子どもの塾代・受験料への支援 (19.8%)
中学2年	子どもの就学に係る費用の軽減 (58.1%)	子どもの塾代・受験料への支援 (45.2%)	子どもの医療費の軽減の充実 (42.8%)	無料学習塾の充実 (34.2%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (19.0%)	一般家庭	子どもの就学に係る費用の軽減 (50.4%)	子どもの医療費の軽減の充実 (36.1%)	無料学習塾の充実 (29.5%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (21.7%)	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実 (21.5%)
16・17歳	子どもの就学に係る費用の軽減 (59.1%)	子どもの医療費の軽減の充実 (47.1%)	子どもの塾代・受験料への支援 (45.1%)	無料学習塾の充実 (28.8%)	職場環境の整備について企業へ働きかけ (21.5%)						

[参考: 前回調査結果]



[参考: 前回調査結果]



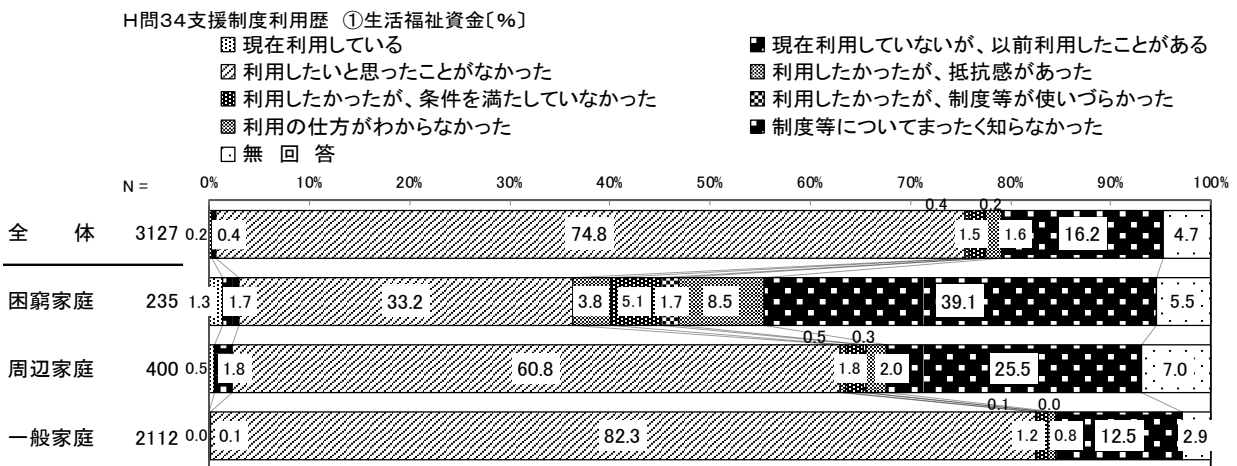
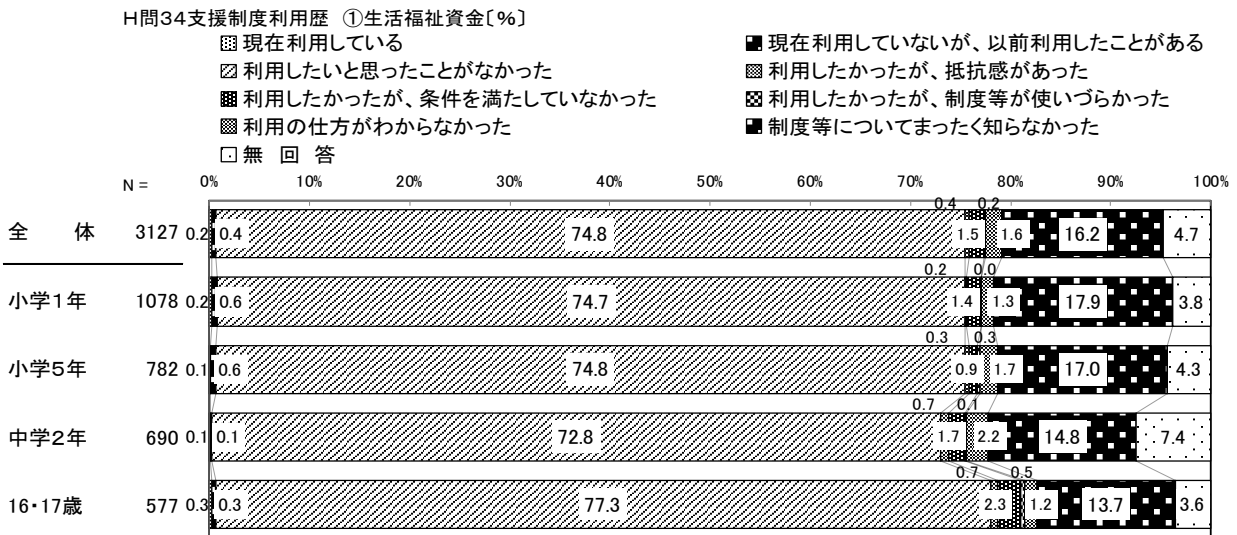
#### ④公的支援施策

問 34 あなたのご家庭では、以下の支援制度等を、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

##### 1) 生活福祉資金

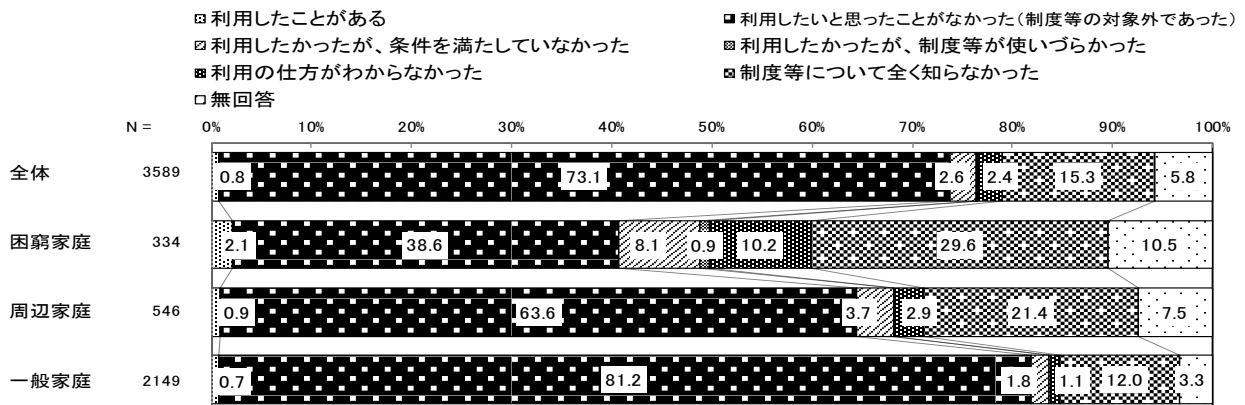
生活福祉資金の利用状況は、『利用したことがある』(現在利用していると現在利用していないが、以前利用したことがある)は0.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が74.8%、「制度等についてまったく知らなかった」が16.2%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が39.1%と最も多く、「利用の仕方がわからなかった」が8.5%回答されている。



#### [参考: 前回調査結果]

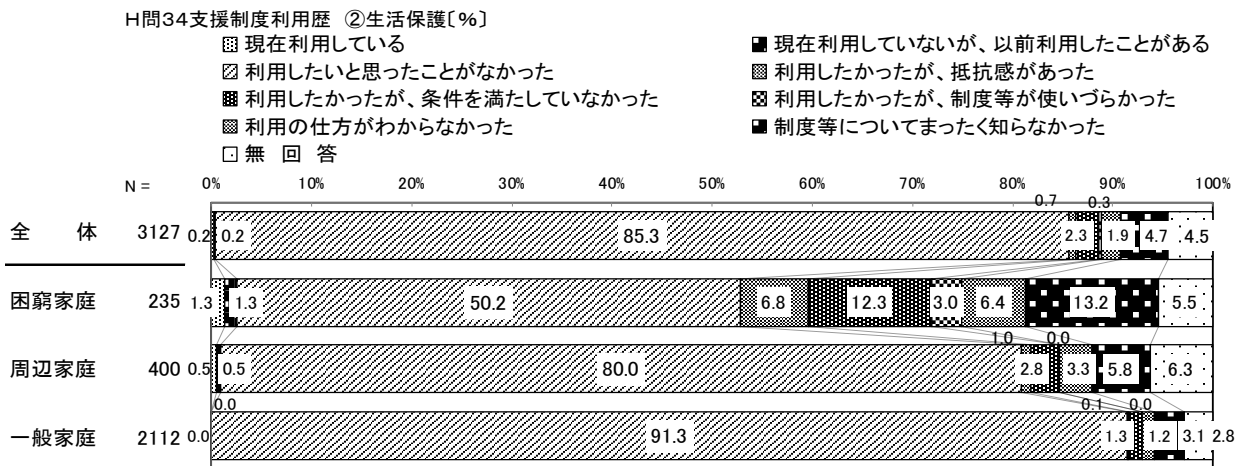
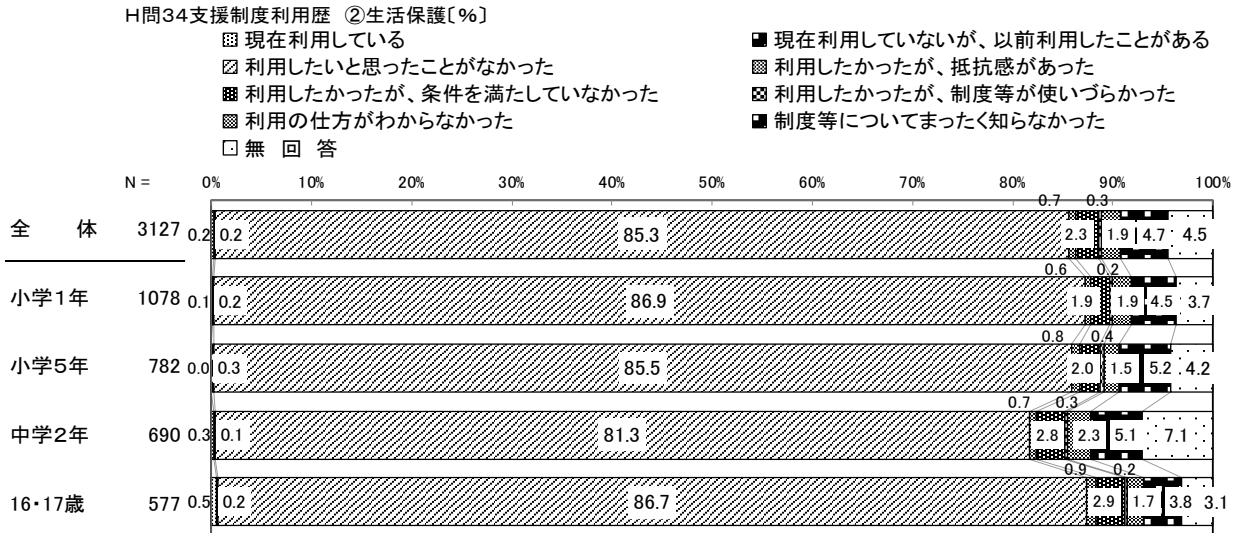
(H 29調査) 生活福祉資金[%]



## 2) 生活保護

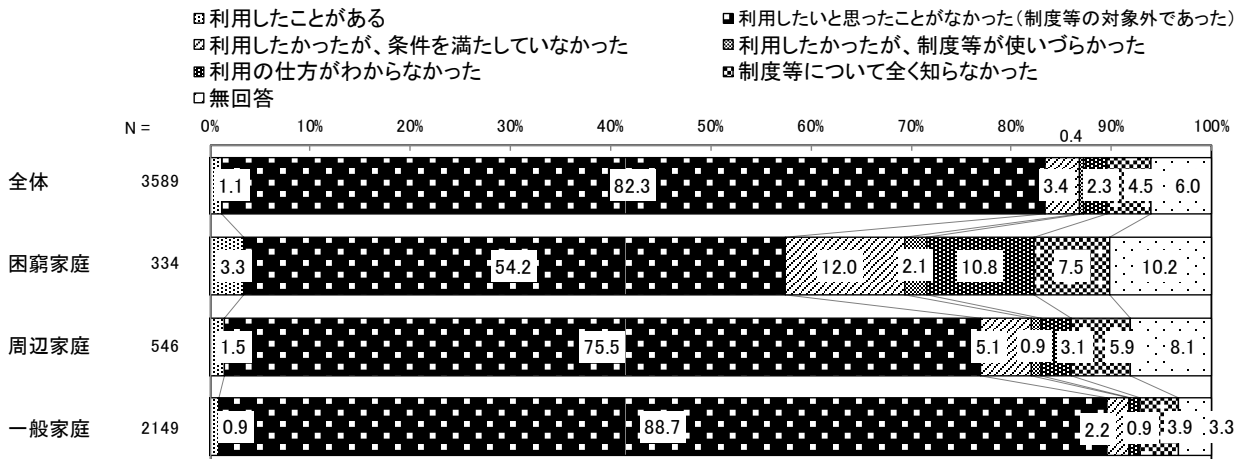
生活保護の利用状況は、『利用したことがある』は 0.4%、「利用したいと思ったことがなかった」は 85.3%、「制度等についてまったく知らなかった」が 4.7%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が 50.2%と他の区分に比べて少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 13.2%、「利用したかったが条件を満たしていなかった」が 12.3%回答されている。前回と比べて、「制度等についてまったく知らなかった」の回答割合は多くなっている。



### [参考: 前回調査結果]

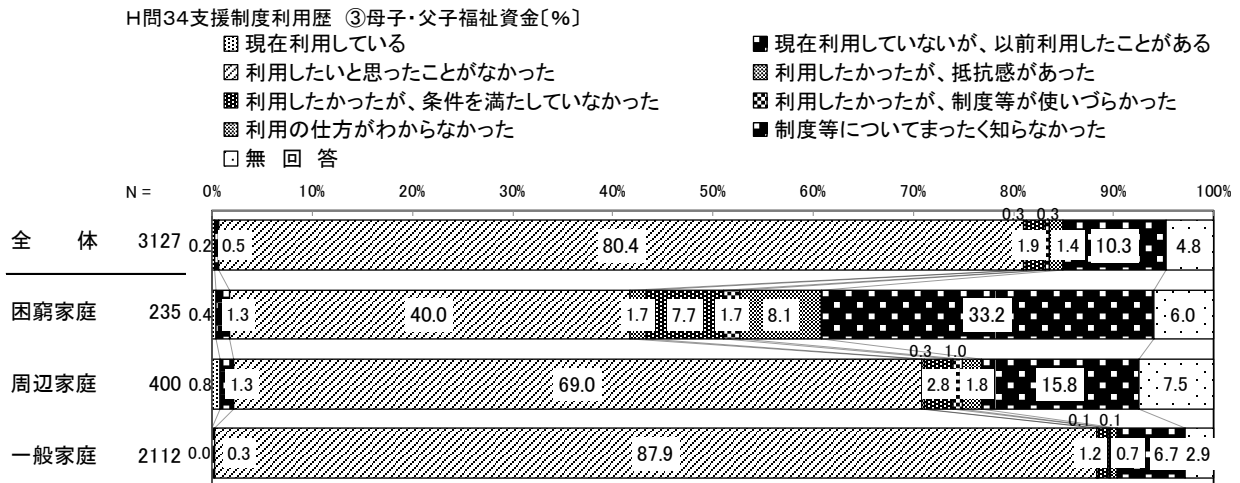
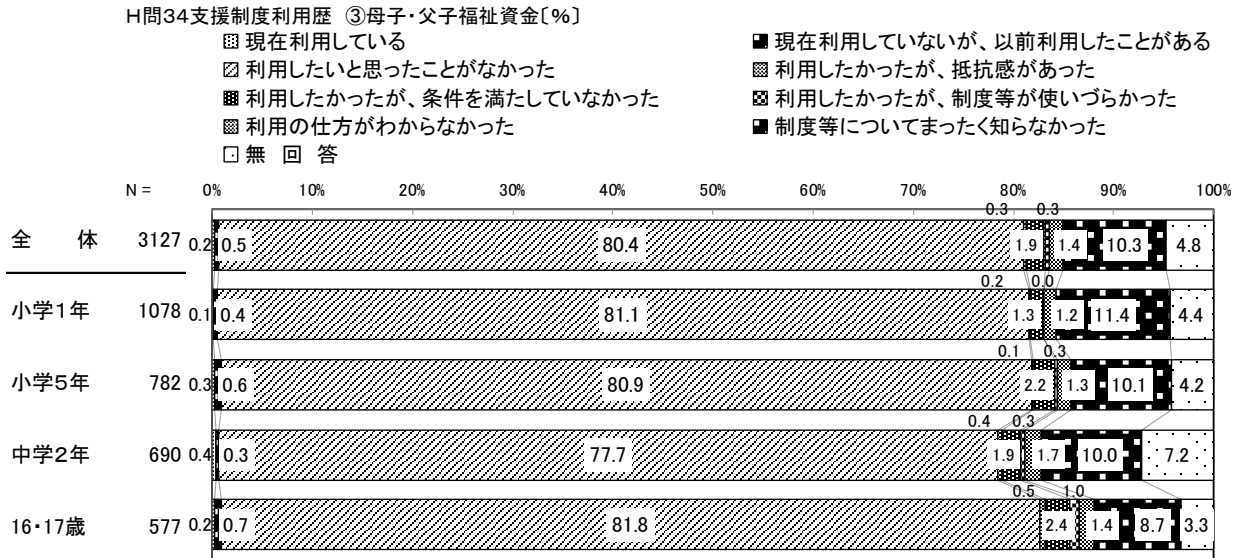
#### (H 29調査) 生活保護 [%]



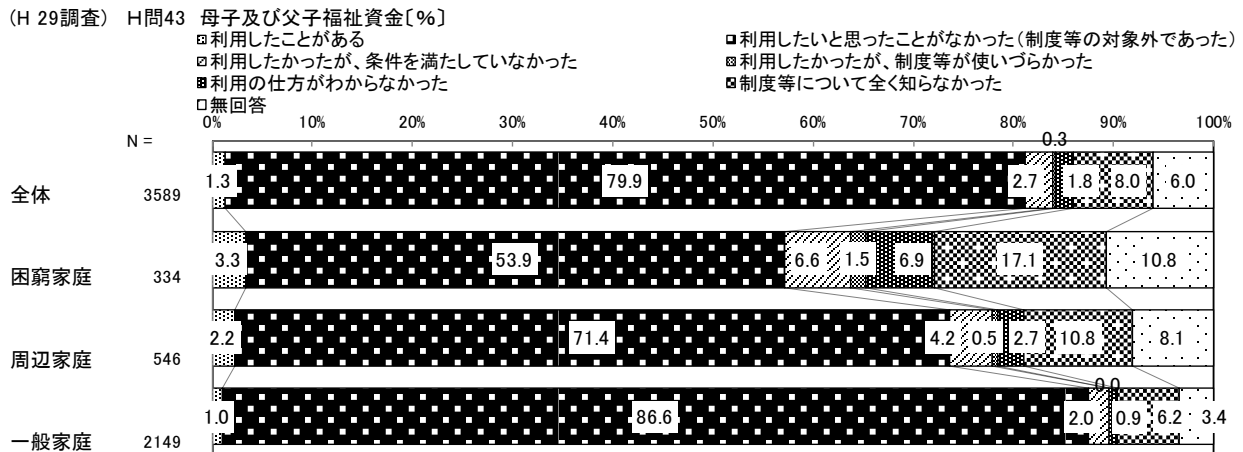
### 3) 母子及び父子福祉資金

母子及び父子福祉資金の利用状況は、『利用したことがある』が 0.7%、「利用したいと思ったことがなかった」は 80.4%、「制度等について全く知らなかった」は 10.3%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「利用したいと思ったことがなかった」が 40.0%と他の区分と比べて少なく、「制度等についてまったく知らなかった」が 33.2%と多い。



#### [参考: 前回調査結果]

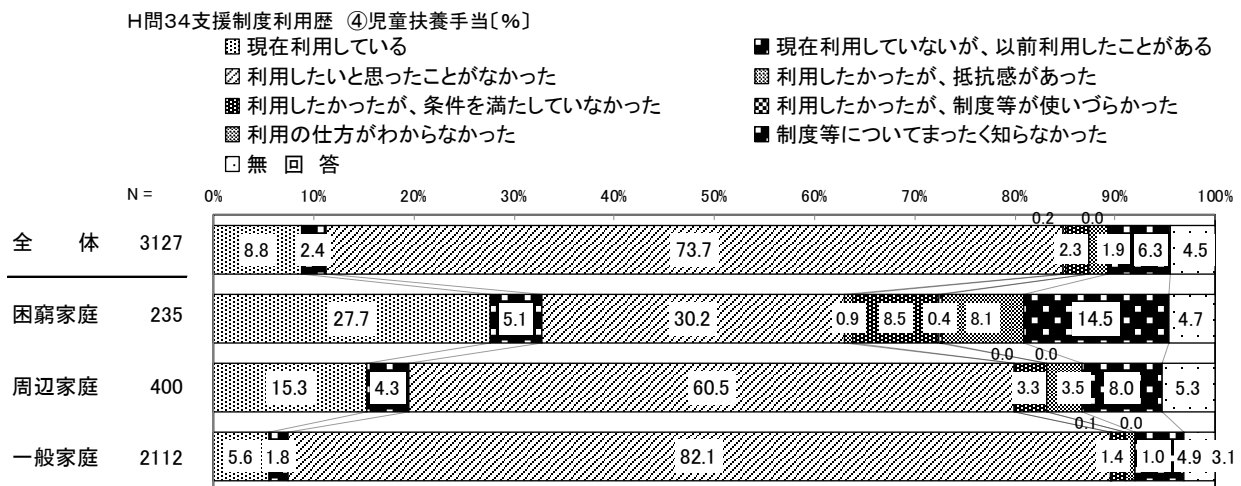
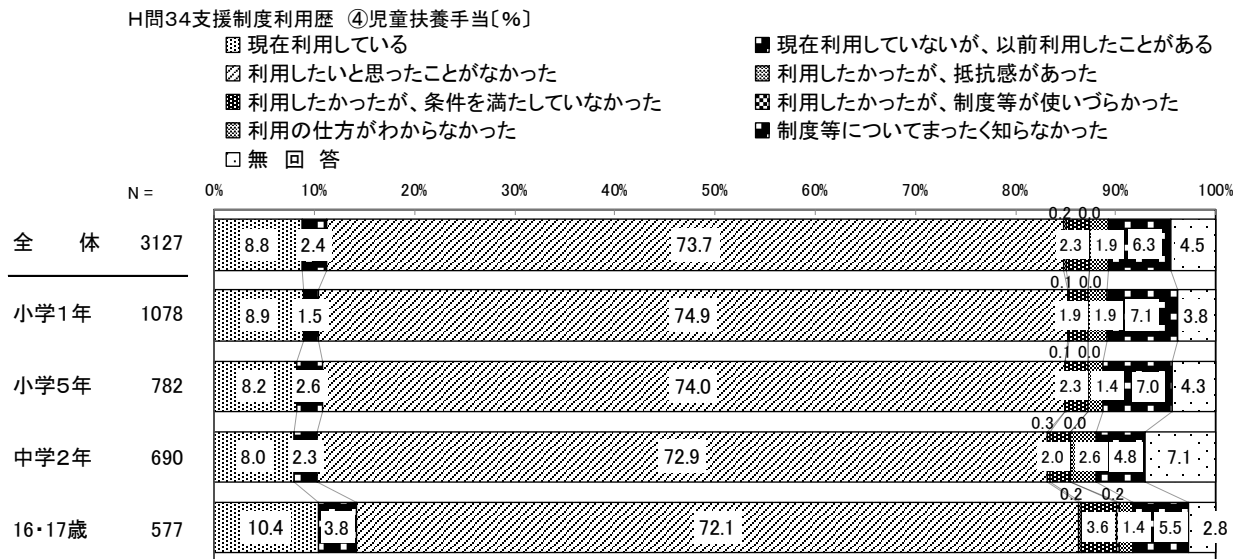




#### 4) 児童扶養手当

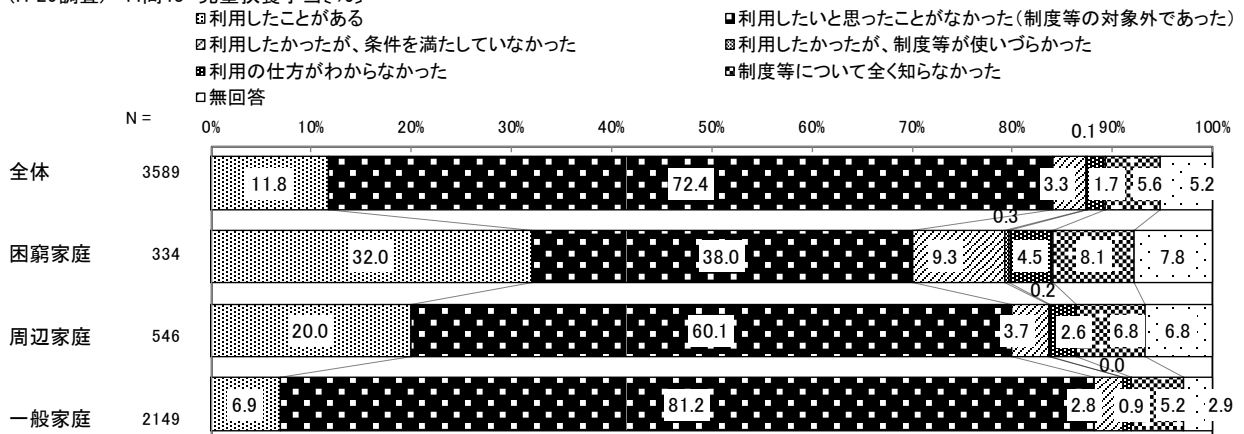
児童扶養手当の利用状況は、『利用したことがある』は 11.2%、「利用したいと思ったことがなかった」は 73.7%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『利用したことがある』が 32.8%、「制度等についてまったく知らなかった」が 14.5%と他の区分に比べて多い。



#### [参考: 前回調査結果]

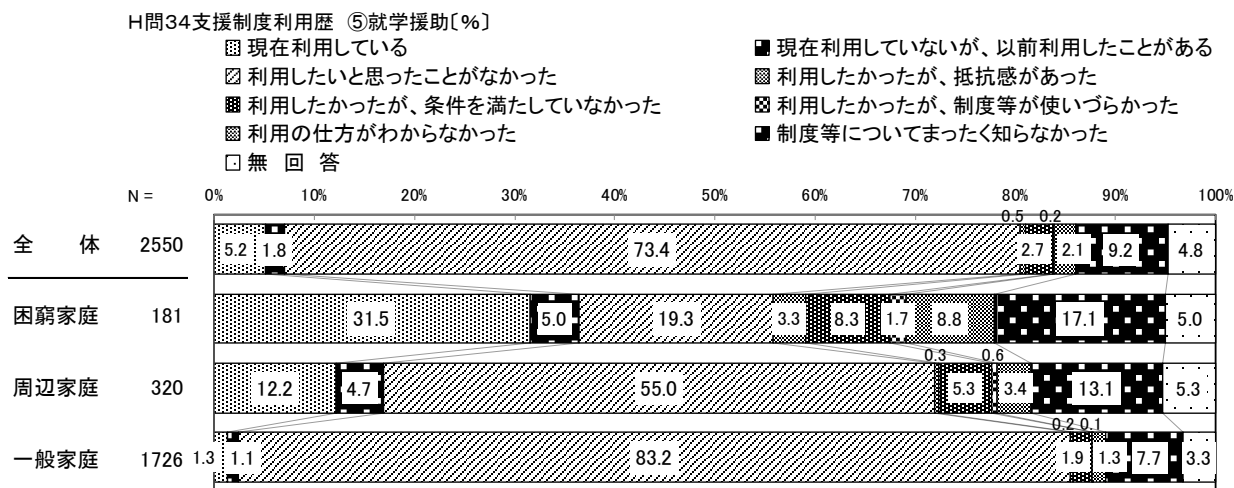
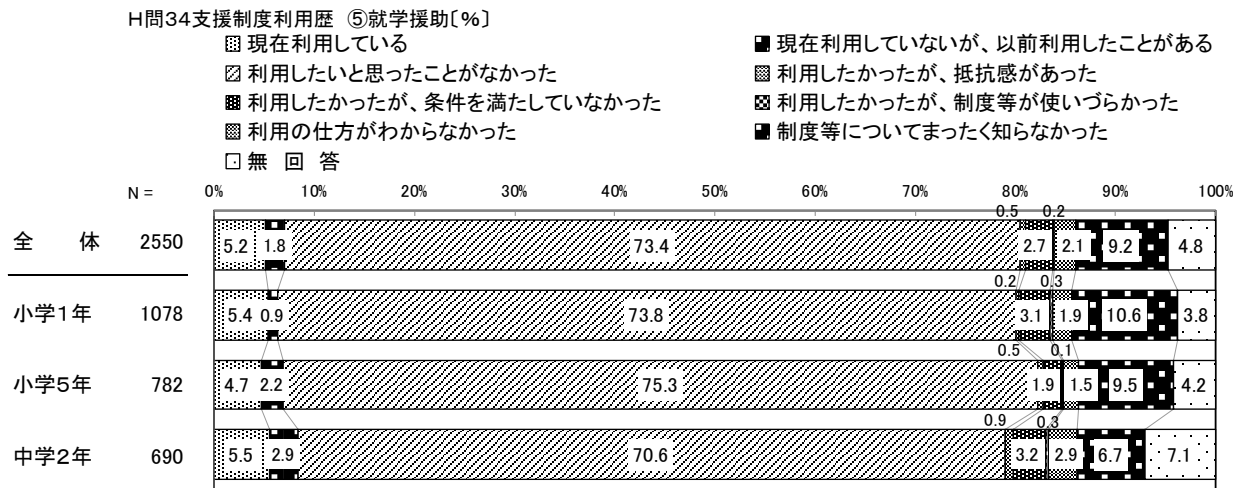
(H 29調査) H問43 児童扶養手当[%]



### 5) 就学援助（小学1年・5年・中学2年のみ）

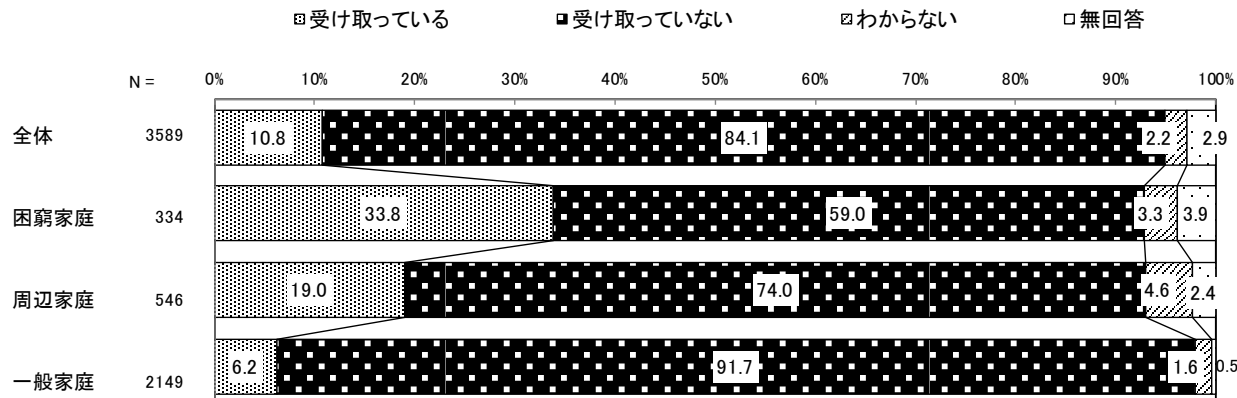
小学1年・小学5年・中学2年の就学援助の利用歴は、『利用したことがある』は7.0%、「利用したいと思っ  
たことがなかった」は73.4%、「制度等についてまったく知らなかった」は9.2%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で『利用したことがある』が36.5%、「制度等についてまったく知らなかつ  
た」は困窮家庭で17.1%、周辺家庭においても13.1%と一般家庭に比べて多い。



### [参考: 前回調査結果]

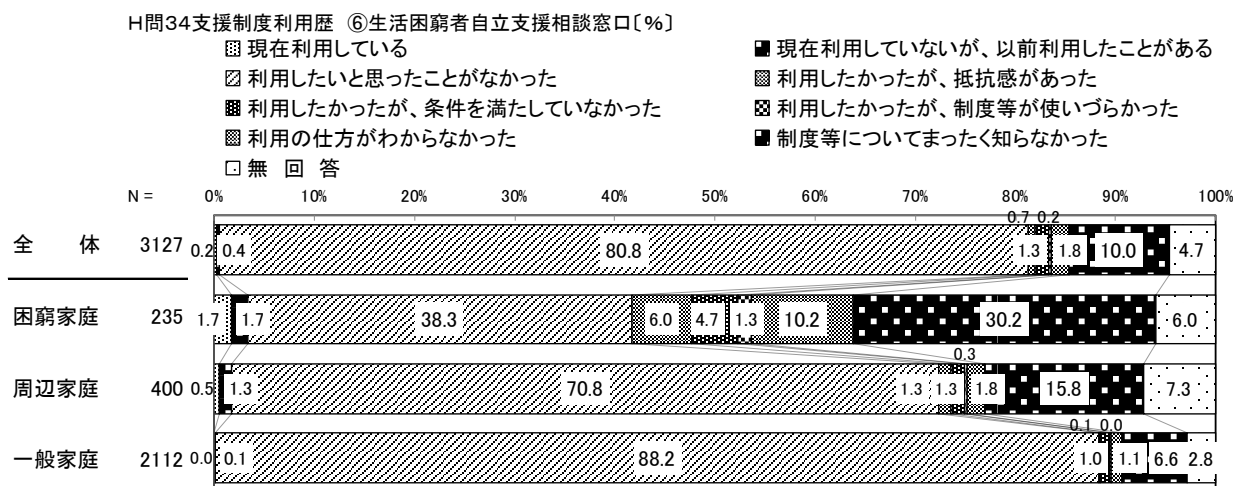
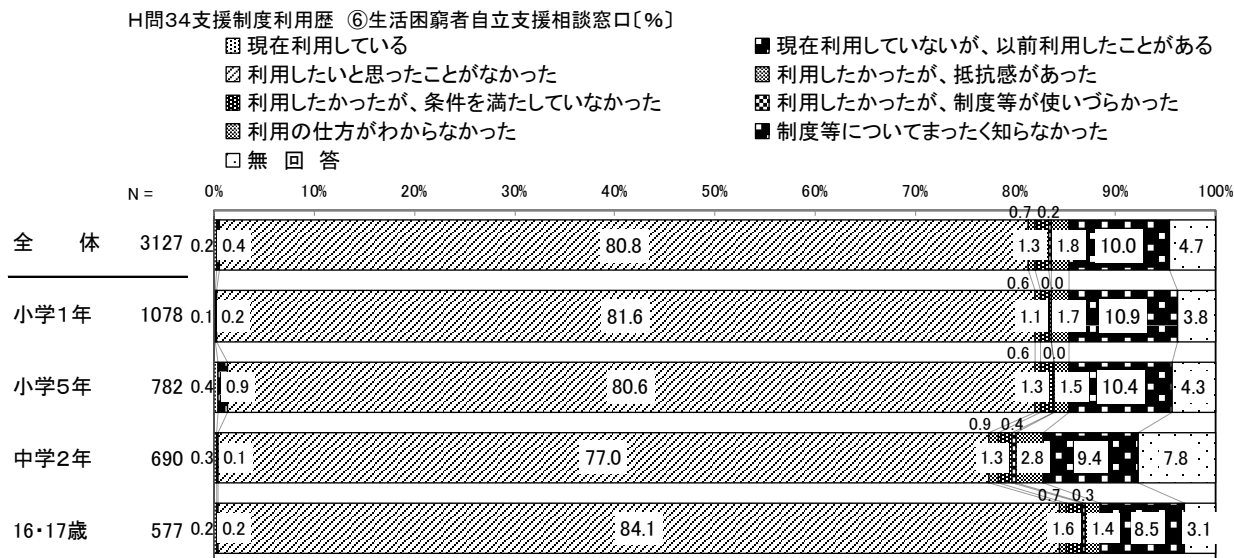
(H 29 調査) H問23 就学援助費・高校生等奨学給付金を受け取っているか[%]



## 6) 生活困窮者の自立支援相談窓口

生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況は、『利用したことがある』は 0.6%、「利用したいと思ったことがなかった」が 80.8%、「制度等についてまったく知らなかった」は 10.0%などとなっている。

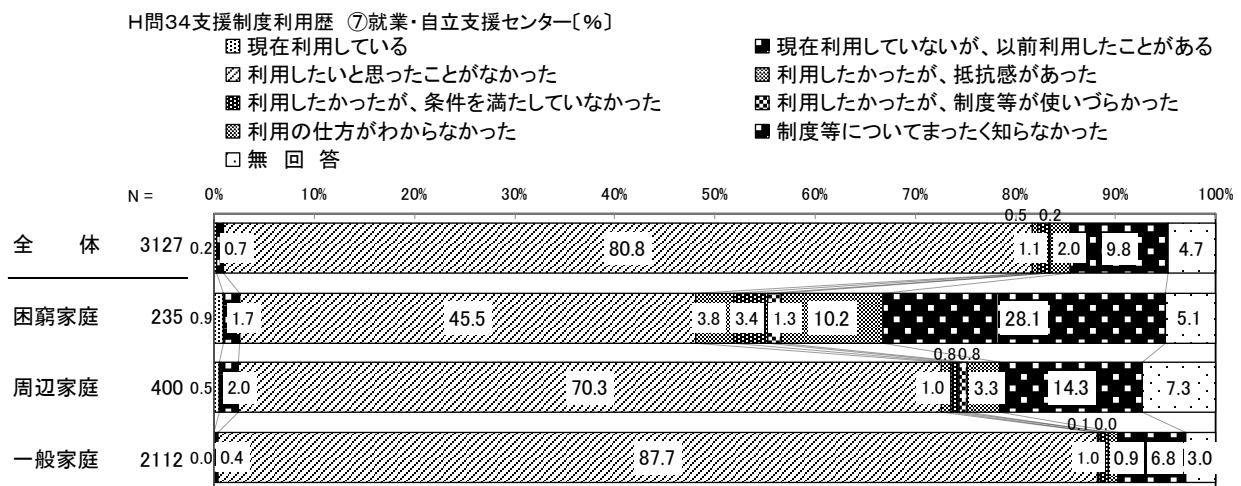
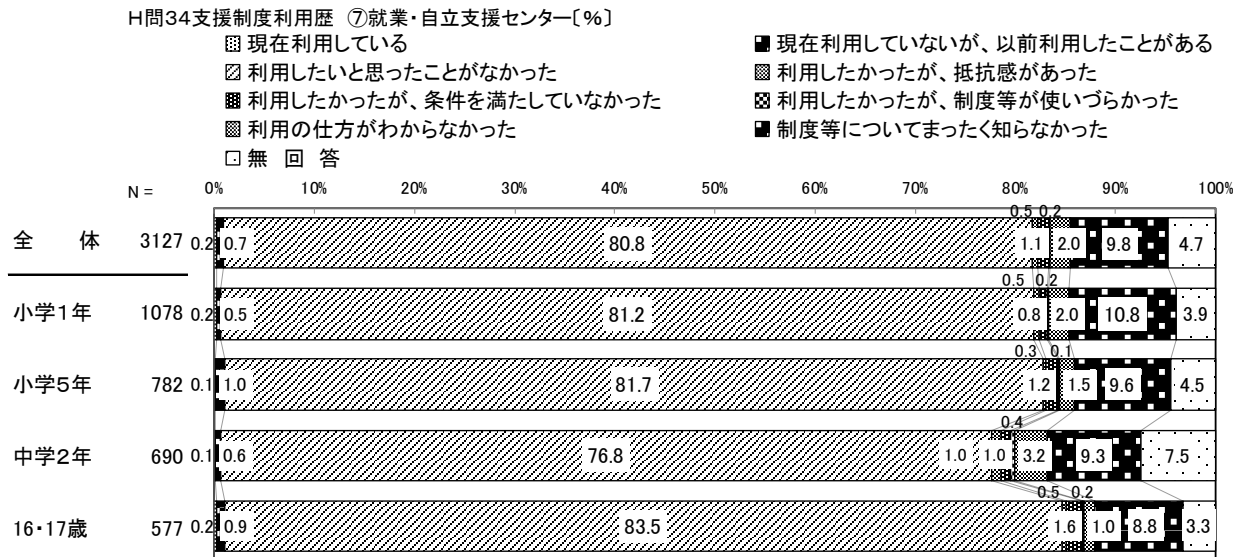
生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 30.2%と他の区分に比べて多く、『利用したことがある』は 3.4%である。



## 7) 母子家庭等就業・自立支援センター

母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況は、『利用したことがある』は 0.9%、「利用したいと思ったことがなかった」が 80.8%、「制度等についてまったく知らなかった」は 9.8%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「制度等についてまったく知らなかった」が 28.1%と他の区分に比べて多く、「利用したいと思ったことがなかった」は 45.5%と少ない。



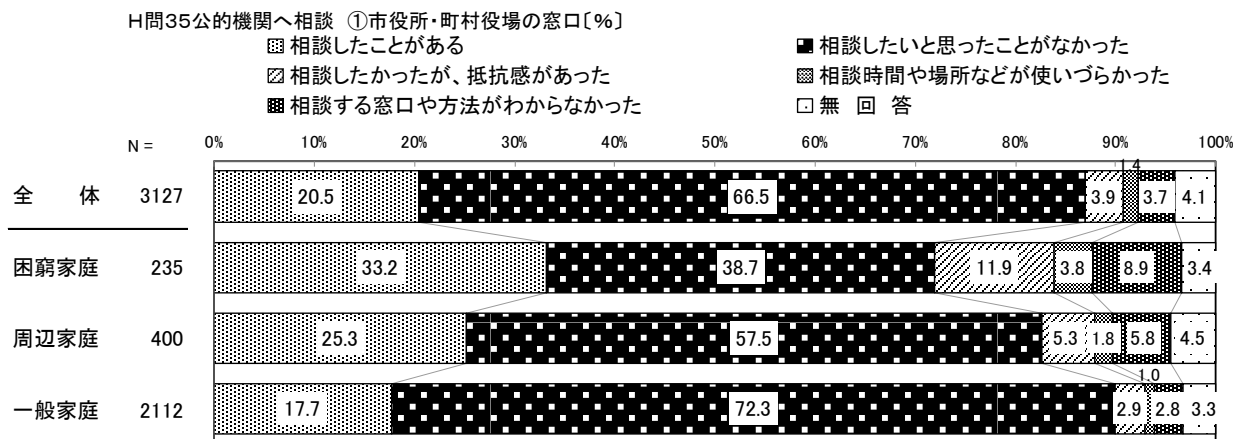
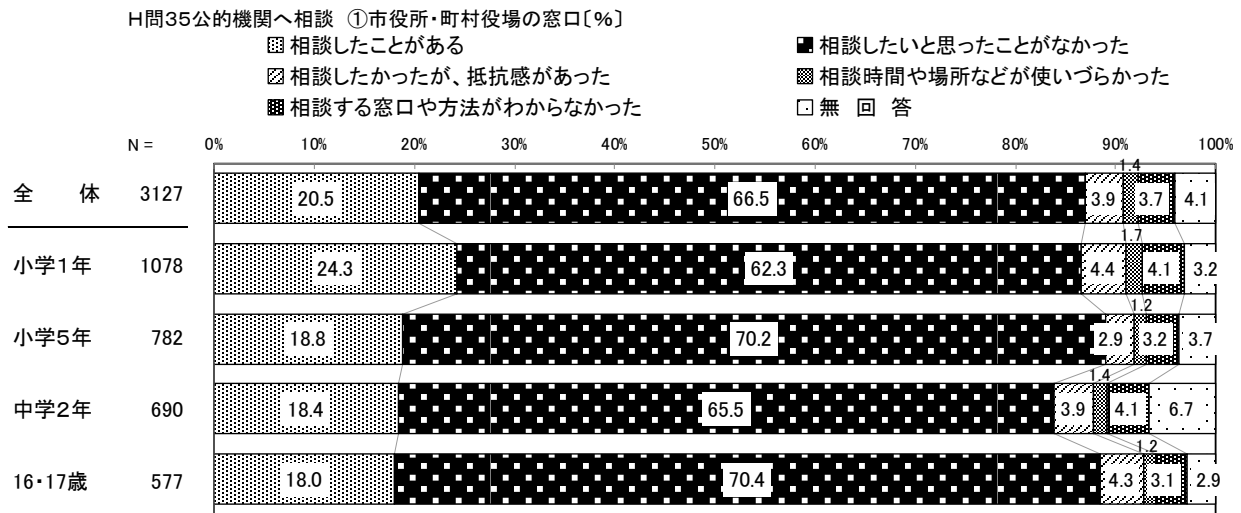
## ⑤相談窓口の利用状況

問 35 あなたは、これまでに困った時に以下の公的機関に相談したことがありますか。

### 1) 市役所・町村役場の窓口

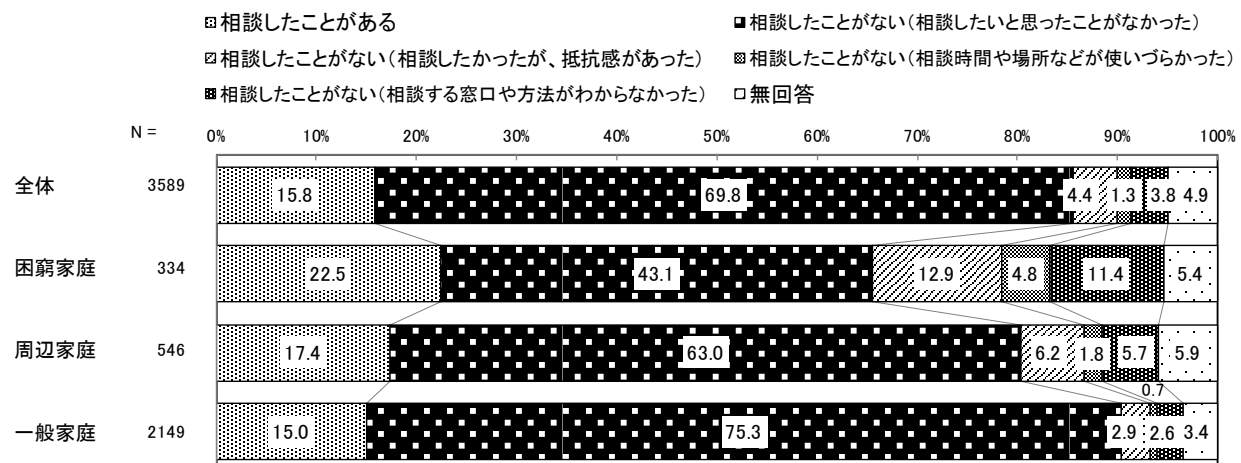
市役所・町村役場への相談状況は、「相談したことがある」は 20.5%、「相談したいと思ったことがなかった」が 66.5%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したことがある」が 33.2%、「相談したかったが、抵抗感があった」が 11.9%と他の区分に比べて多い。前回と比べて、各区分で『相談したことがある』と回答した割合が多くなっている



### [参考: 前回調査結果]

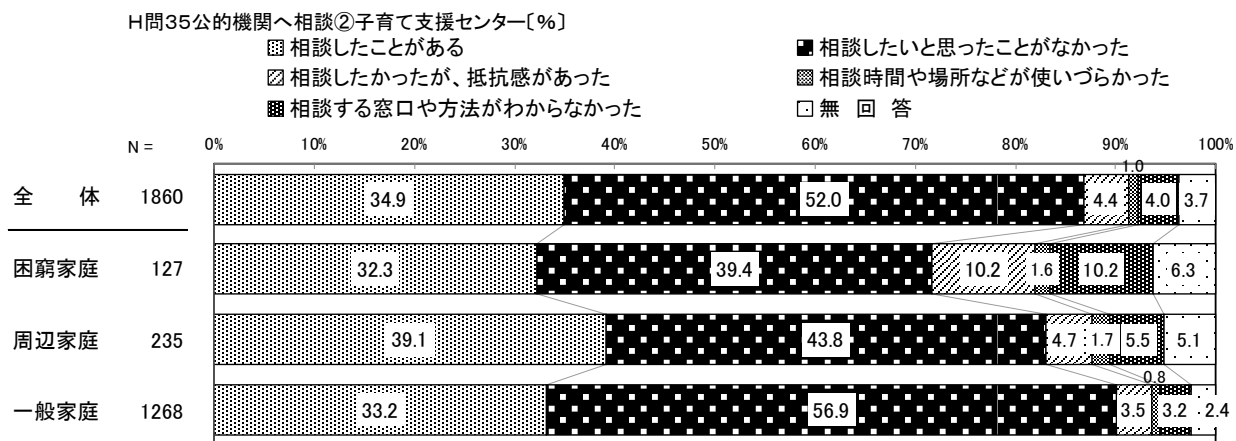
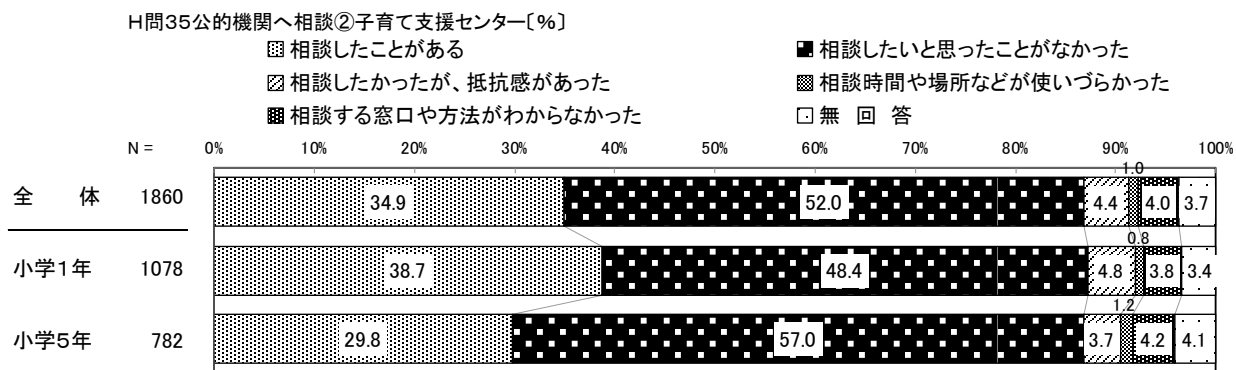
(H 29調査) 市役所・町村役場の窓口[%]



## 2) 子育て支援センター・つどいの広場（小学1年・5年のみ）

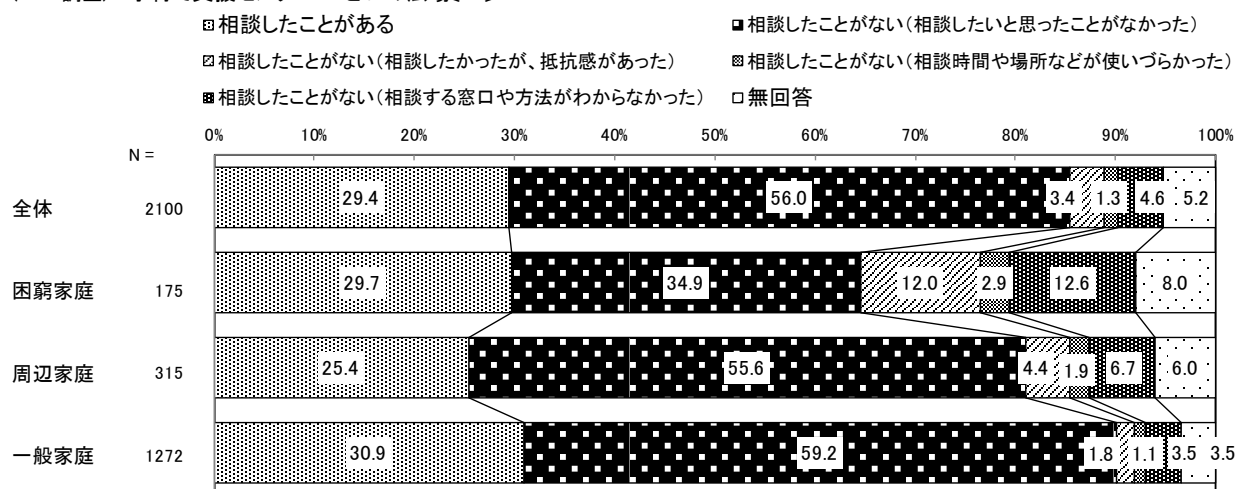
子育て支援センター・つどいの広場への相談状況は、「相談したことがある」は 34.9%、「相談したいと思ったことがなかった」は 52.0%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が 39.4%、周辺家庭においても 43.8%と、一般家庭に比べて少ない。困窮家庭で「相談したかったが、抵抗感があった」と「相談する窓口や方法がわからなかった」がともに 10.2%と他の区分に比べてやや多くなっている。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



### 【参考: 前回調査結果】

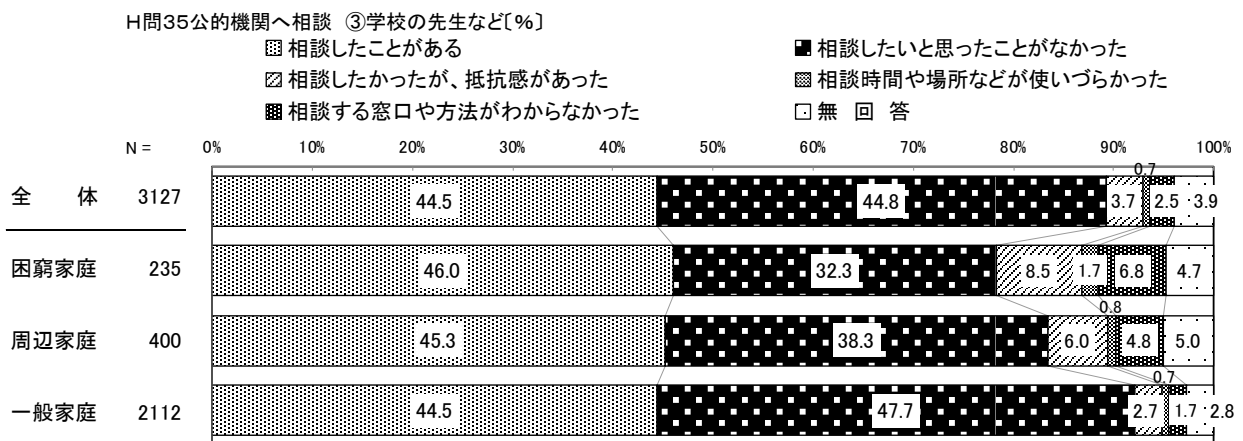
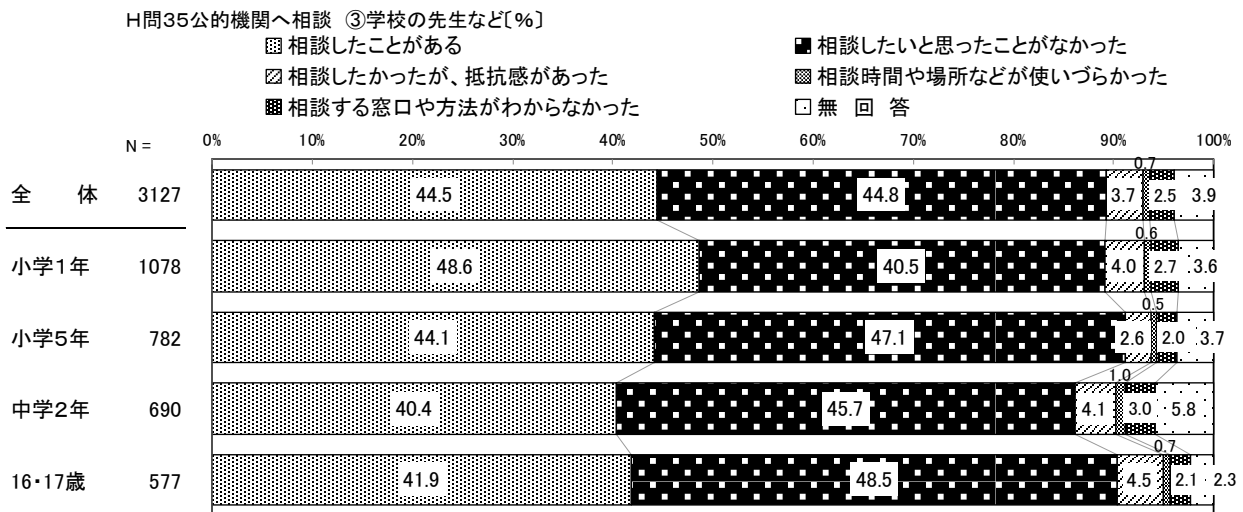
(H 29調査) 子育て支援センター・つどいの広場〔%〕



### 3) 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

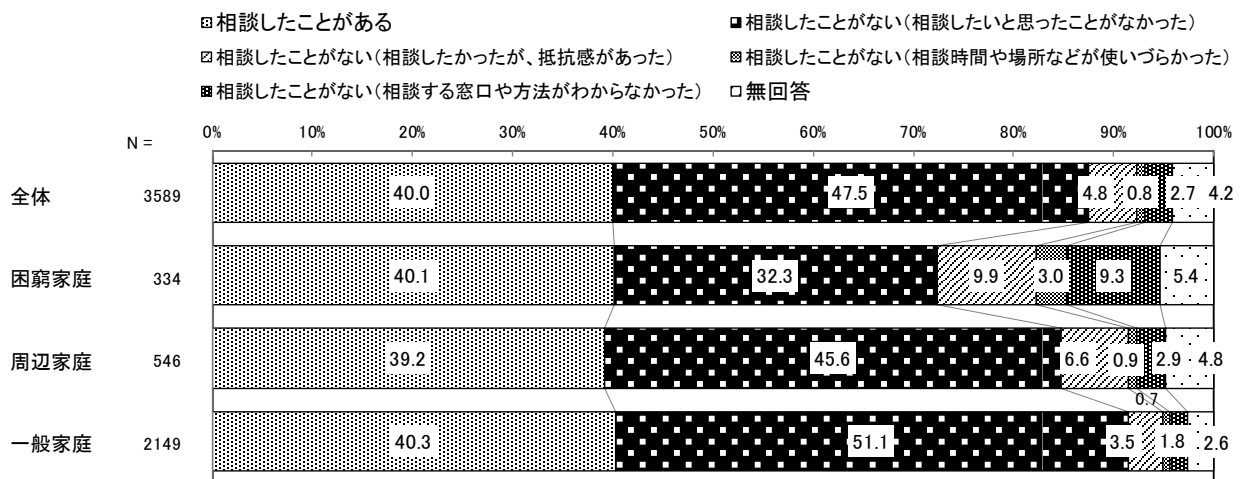
学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなどへの相談状況は、「相談したことがある」が44.5%、「相談したいと思ったことがなかった」が44.8%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が32.3%、周辺家庭においても38.3%と、一般家庭に比べて少ない。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

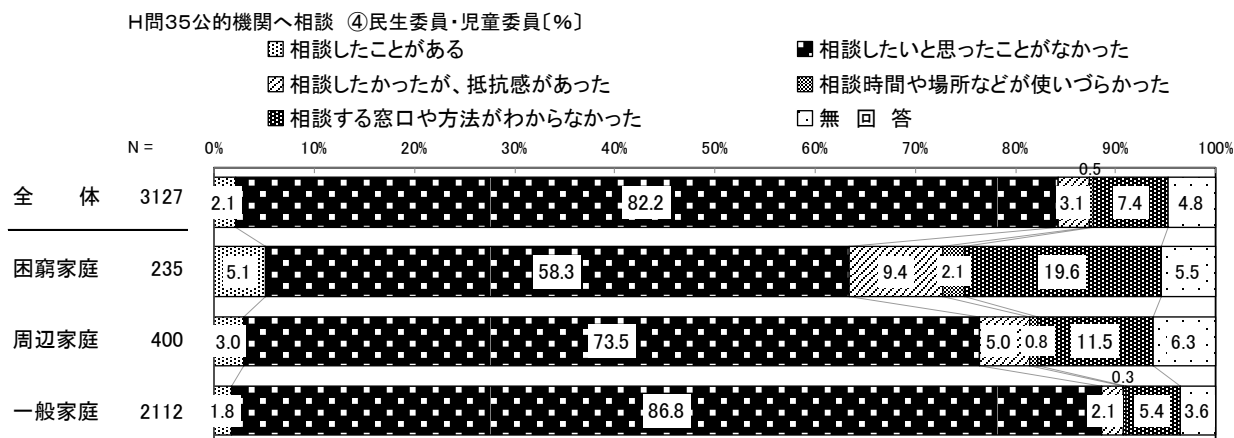
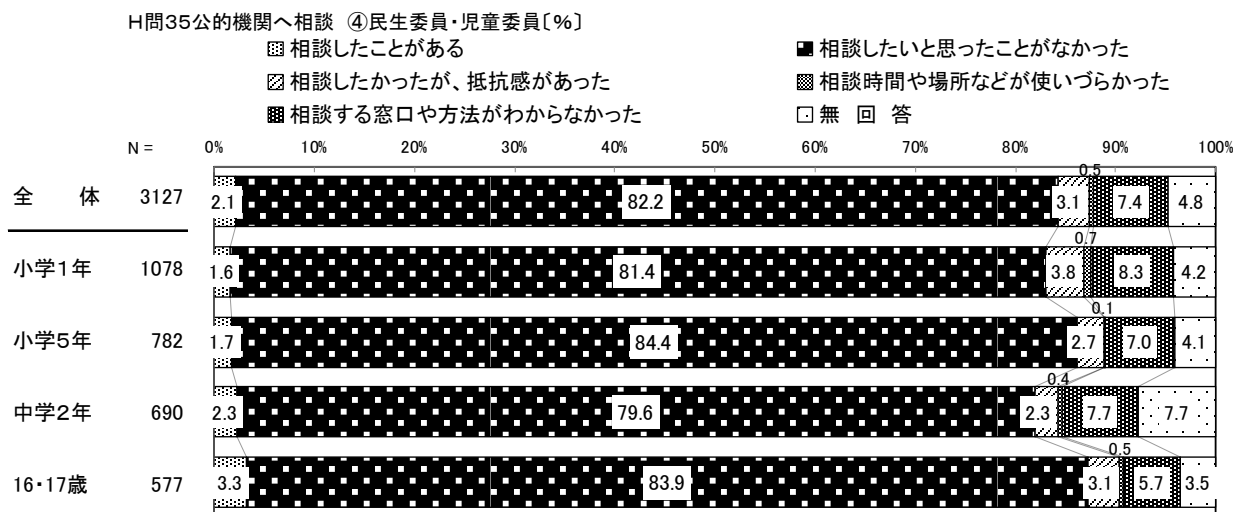
(H 29調査) 学校・保育所・幼稚園の先生など〔%〕



#### 4) 民生委員・児童委員

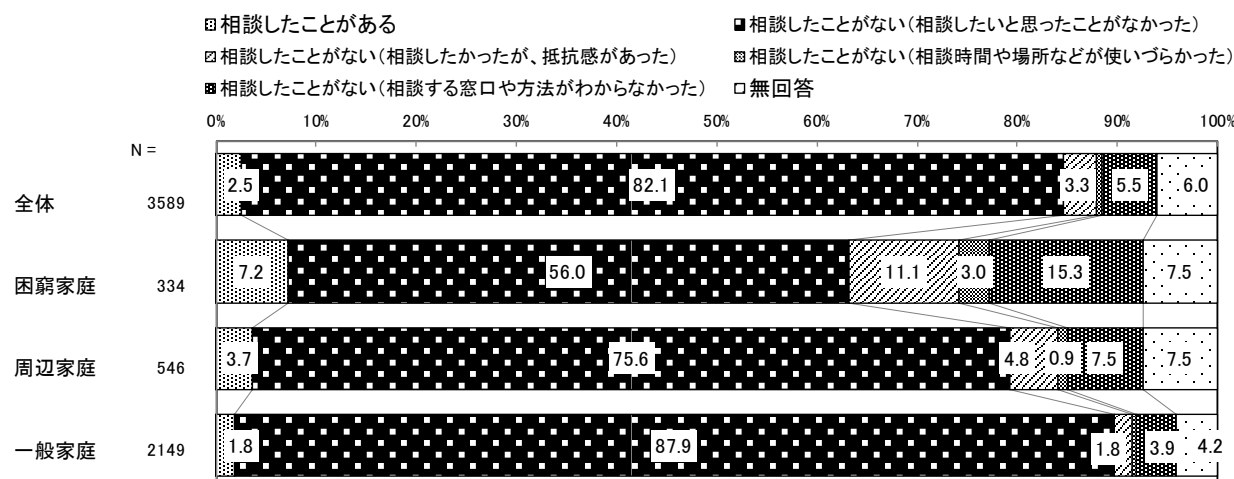
民生委員・児童委員への相談状況は、「相談したことがある」は 2.1%、「相談したいと思ったことがなかった」が 82.2%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が 58.3%、周辺家庭においても 73.5%と、一般家庭に比べて少なく、困窮家庭で「相談する窓口や方法がわからなかった」が 19.6%と多い。前回と比べて、各区分で「相談する窓口や方法がわからなかった」の回答割合が多くなっている。



#### [参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 民生委員・児童委員〔%〕

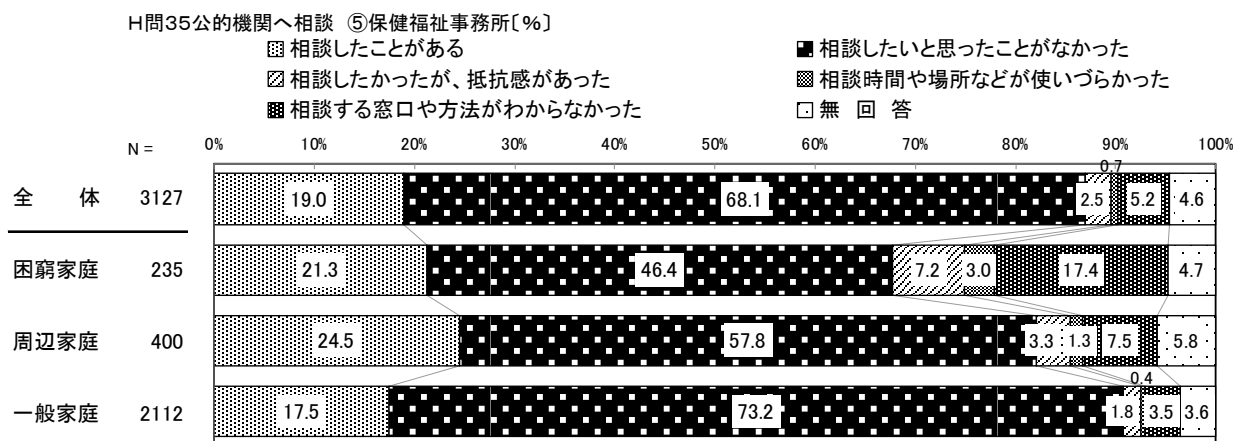
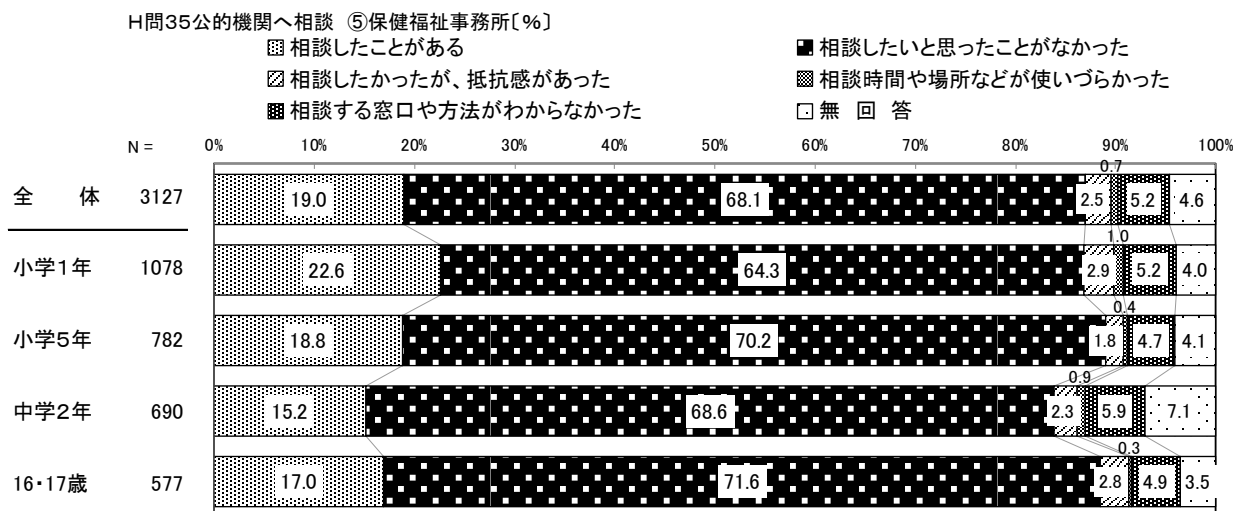




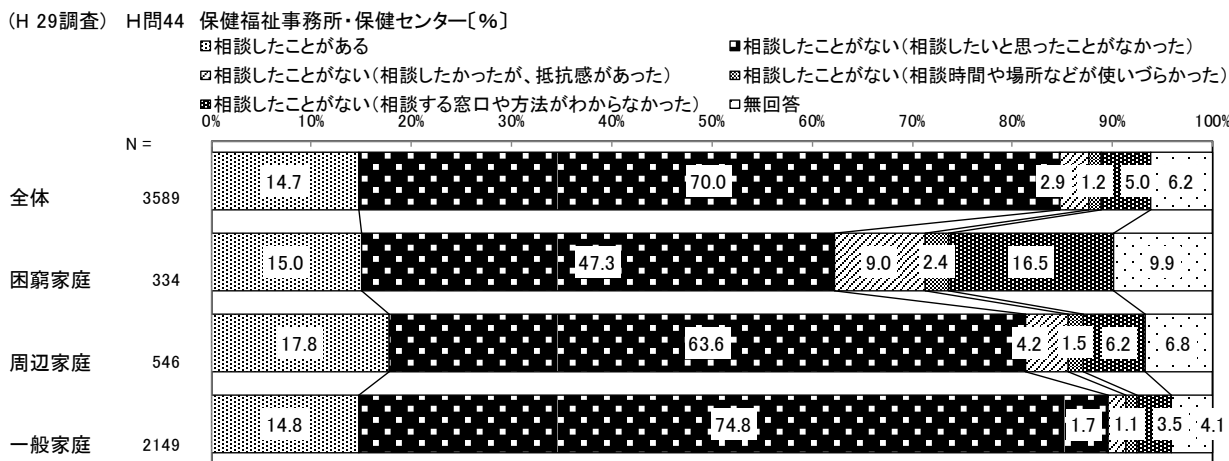
### 5) 保健福祉事務所・保健センター

保健福祉事務所・保健センターへの相談状況は、「相談したことがある」は 19.0%、「相談したいと思ったことがなかった」は 68.1%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したいと思ったことがなかった」が 46.4%、周辺家庭においても 57.8%と、一般家庭に比べて少なく、困窮家庭で「相談する窓口や方法がわからなかった」が 17.4%と多い。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



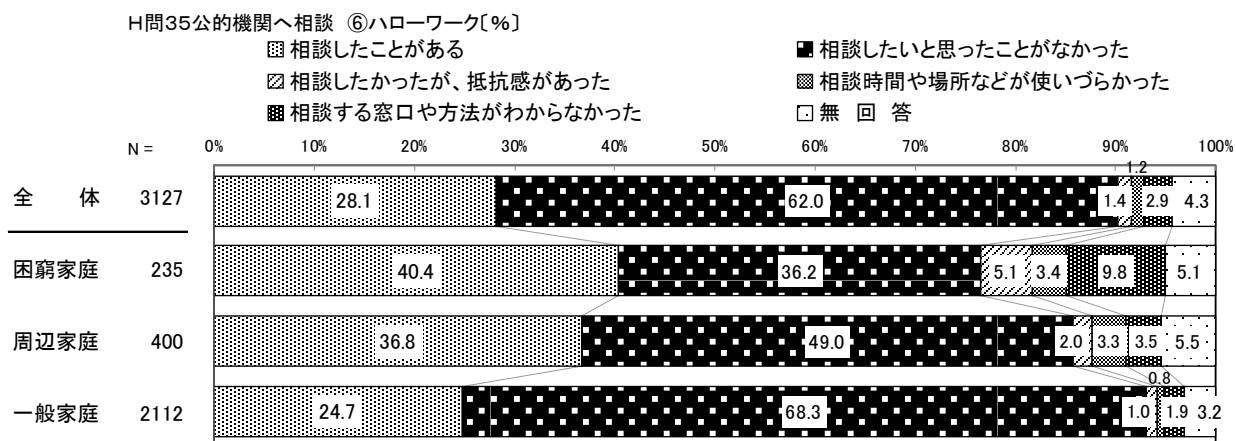
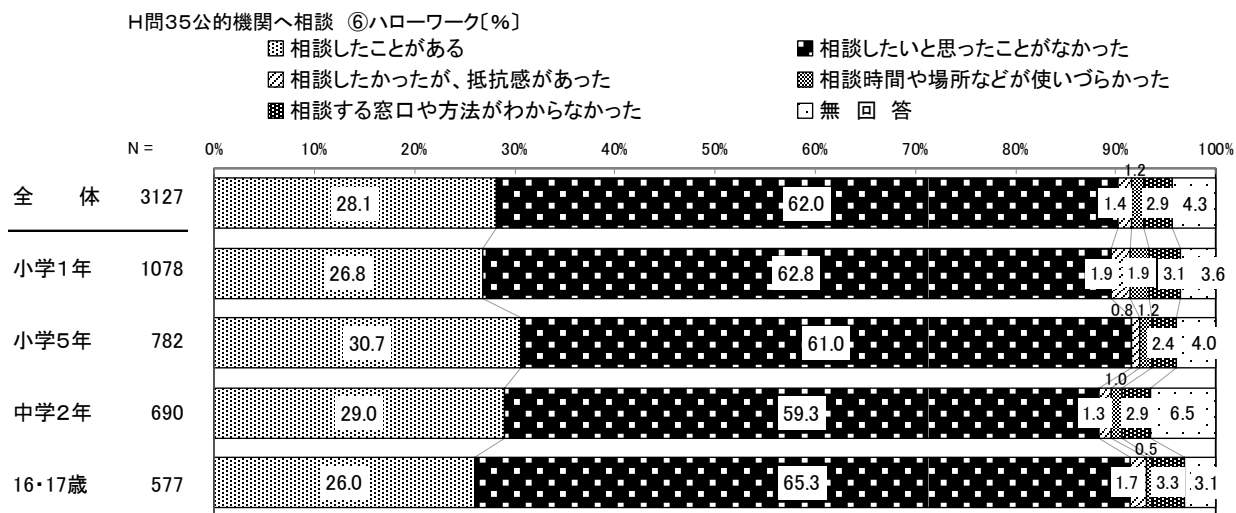
### [参考: 前回調査結果]



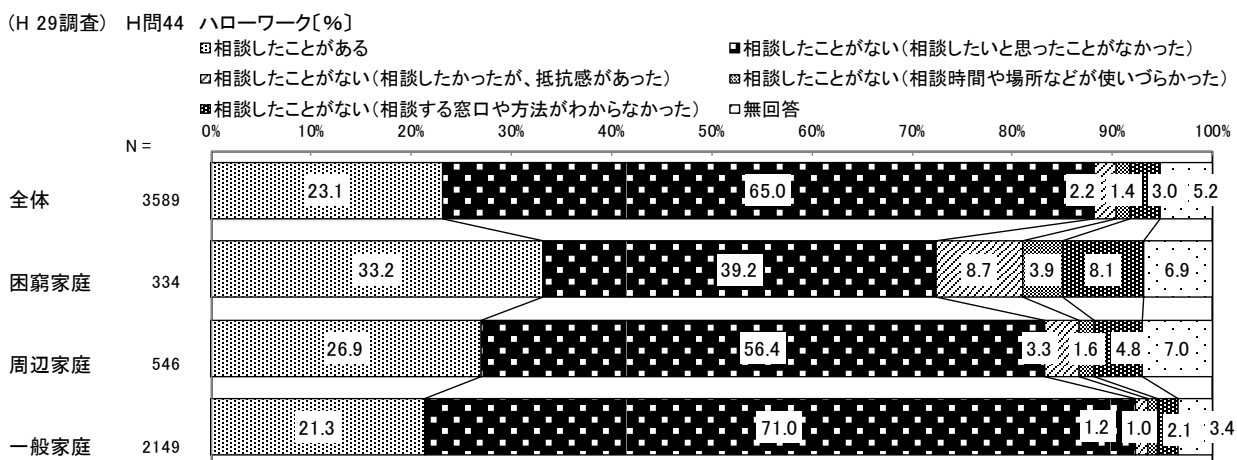
## 6) ハローワーク

ハローワークへの相談状況は、「相談したことがある」は 28.1%、「相談したいと思ったことがなかった」が 62.0%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「相談したことがある」が 40.4%、周辺家庭においても 36.8%と、一般家庭に比べて多い。前回と比べて、各区分で「相談したことがある」の回答割合が多くなっている。



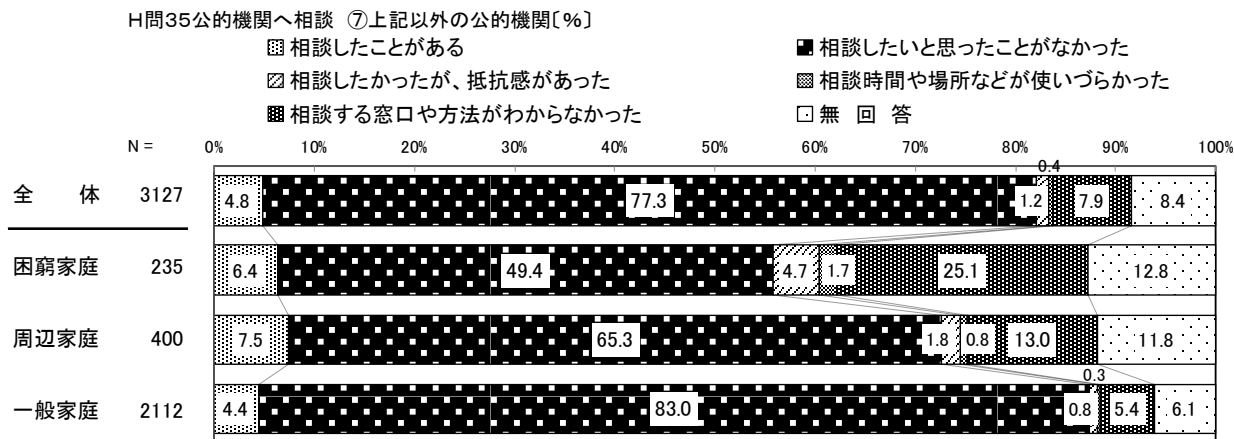
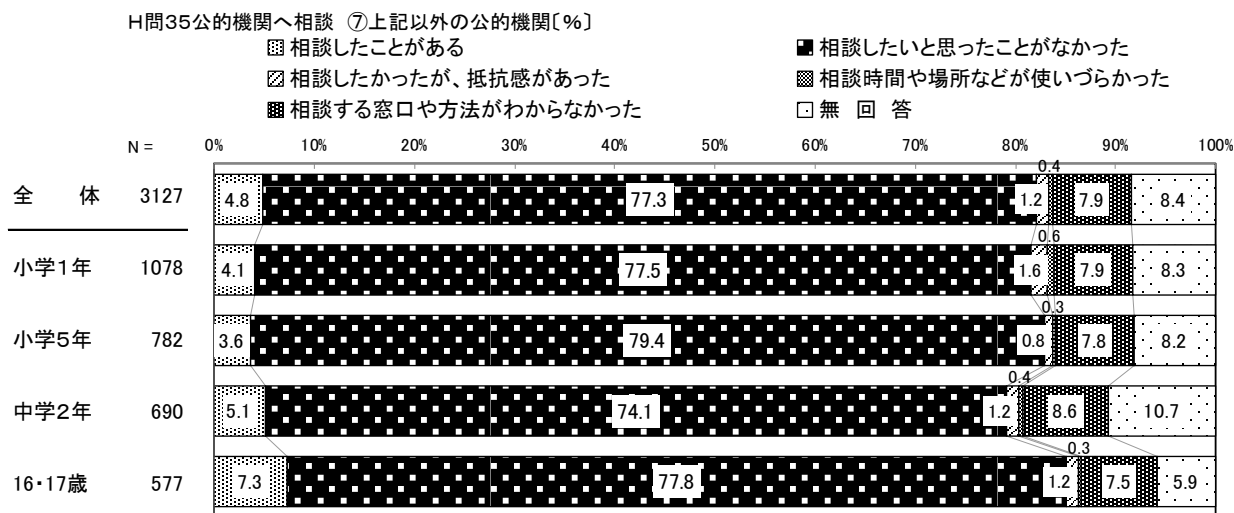
### [参考: 前回調査結果]



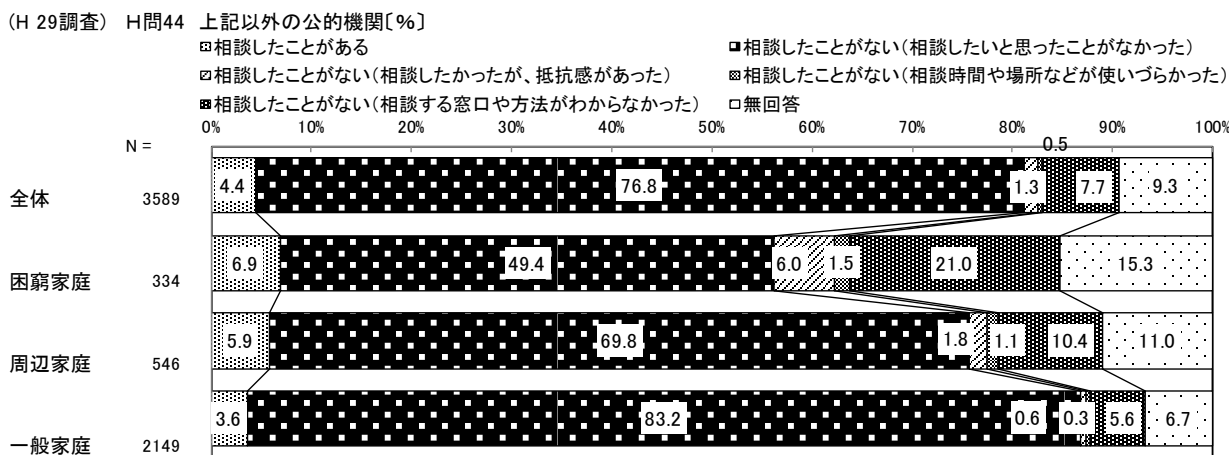
## 7) その他の公的機関

その他の公的機関への相談状況は、「相談したいと思ったことがなかった」が77.3%と最も多い。

生活困窮度別では、生活困窮家庭で「相談したことがある」が6~7%程度回答されており、「相談する窓口や方法がわからなかった」については、困窮家庭で25.1%となっている。



### [参考: 前回調査結果]



## (9)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響

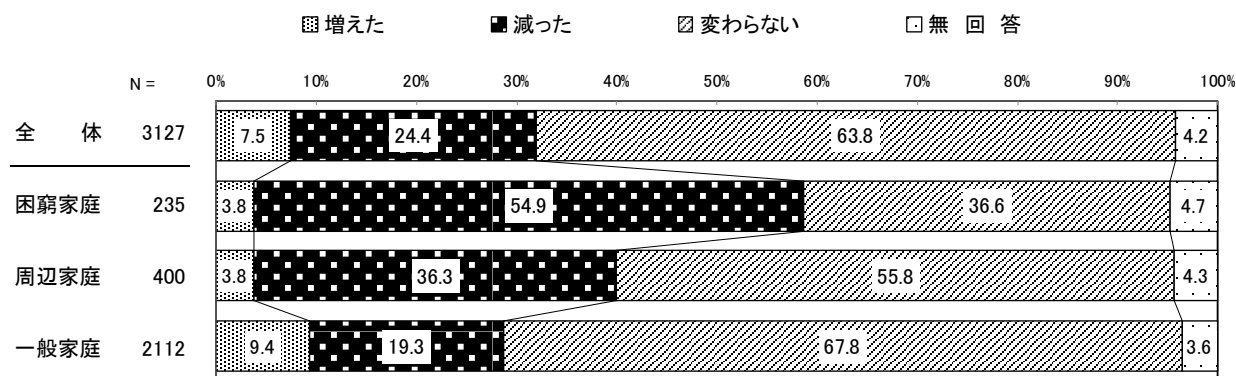
問 37 あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。

### 1) 世帯全体の収入の変化

世帯全体の収入の変化は、「増えた」が7.5%、「減った」が24.4%、「変わらない」が63.8%となっている。

生活困窮度別では、「減った」の割合は、一般家庭が19.3%に比べて、周辺家庭で36.3%、困窮家庭で54.9%と多くなっている。

H問37感染症による変化 ①世帯全体の収入の変化[%]

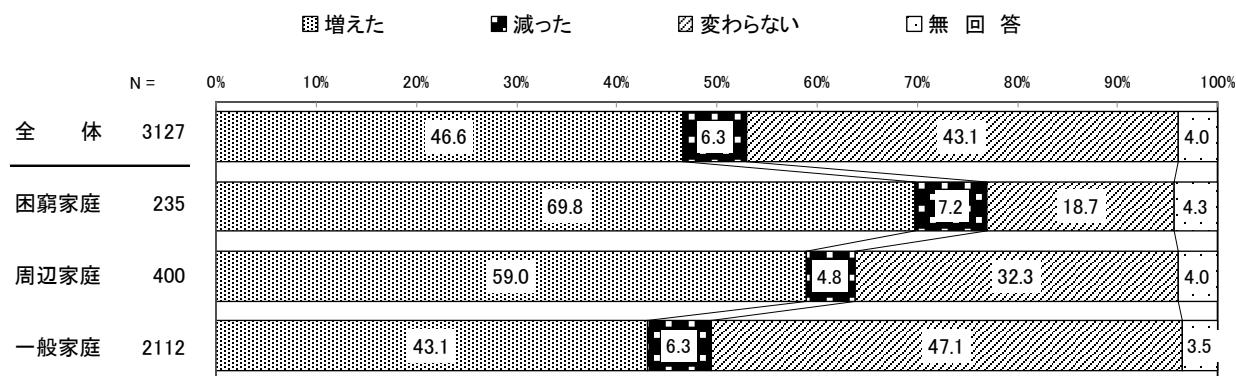


### 2) 生活に必要な支出の変化

生活に必要な支出が「増えた」が46.6%、「減った」が6.3%、「変わらない」が43.1%となっている。

生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の43.1%に比べて、困窮家庭で69.8%、周辺家庭で59.0%と多くなっている。

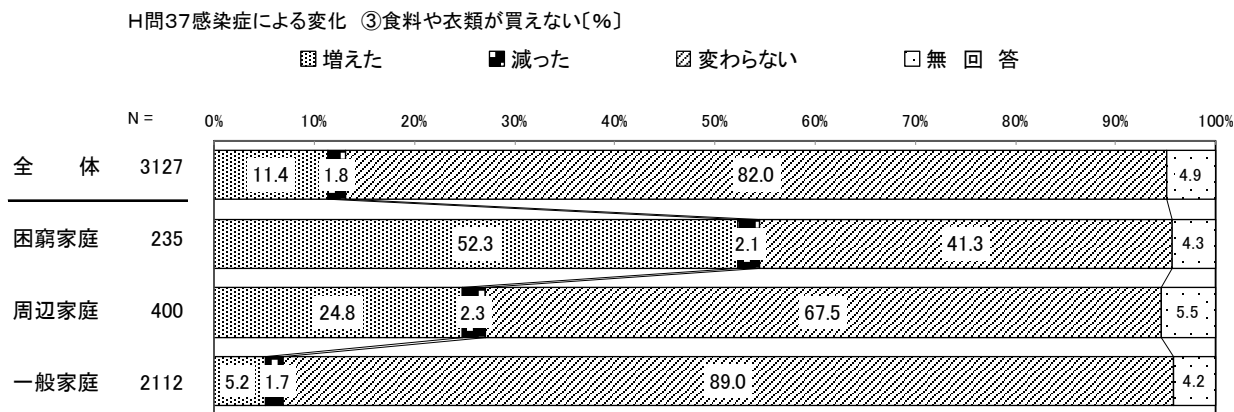
H問37感染症による変化 ②生活に必要な支出の変化[%]



### 3) お金が足りなくて、必要な食料や衣服が買えないこと

お金が足りなくて、必要な食料や衣服が買えないと回答した割合は、「増えた」が 11.4%、「減った」が 1.8%、「変わらない」が 82.0%となっている。

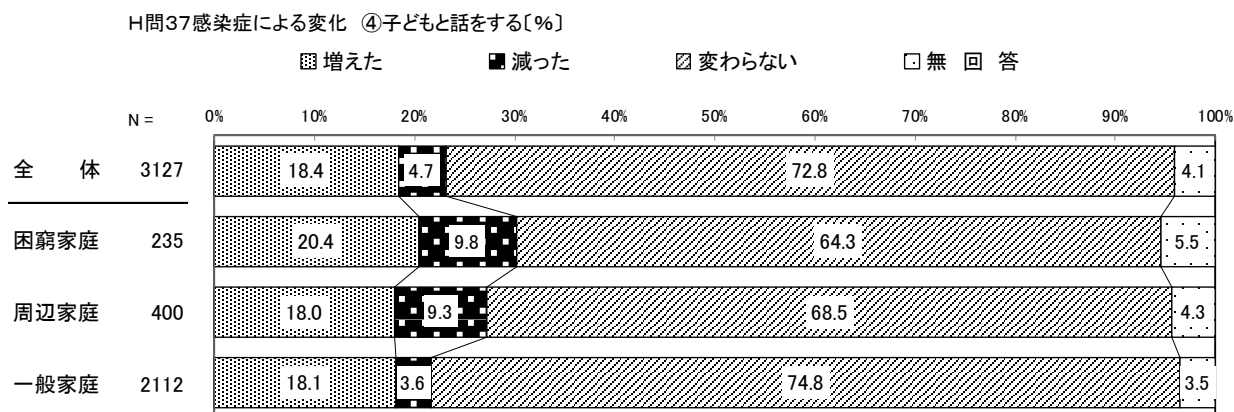
生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 5.2%に比べて、周辺家庭で 24.8%、困窮家庭で 52.3%と多くなっている。



### 4) お子さんと話をすること

子どもと話をすることは、「増えた」が 18.4%、「減った」が 4.7%、「変わらない」が 72.8%となっている。

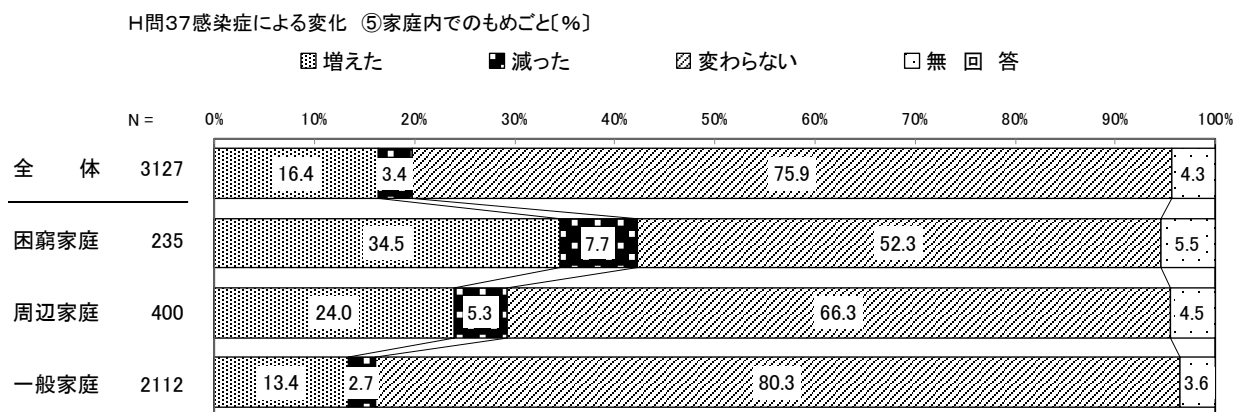
生活困窮度別では、「減った」の割合は、一般家庭の 3.6%に比べて、周辺家庭で 9.3%、困窮家庭で 9.8%と多くなっている。



### 5) 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

家庭内でのもめごとは、「増えた」が 16.4%、「減った」が 3.4%、「変わらない」が 75.9%となっている。

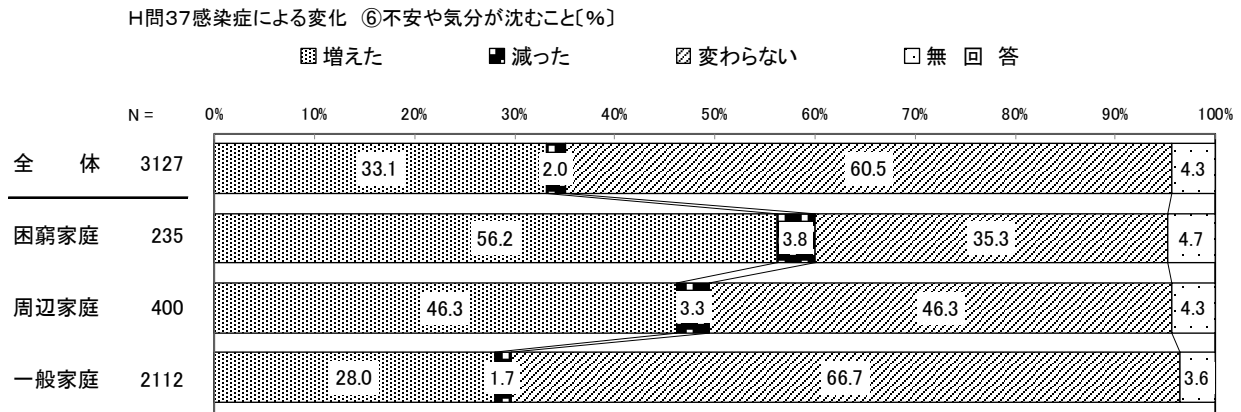
生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 13.4%に比べて、周辺家庭で 24.0%、困窮家庭で 34.5%と多くなっている。



6) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

不安や気分が沈むことは、「増えた」が 33.1%、「減った」が 2.0%、「変わらない」が 60.5%となっている。

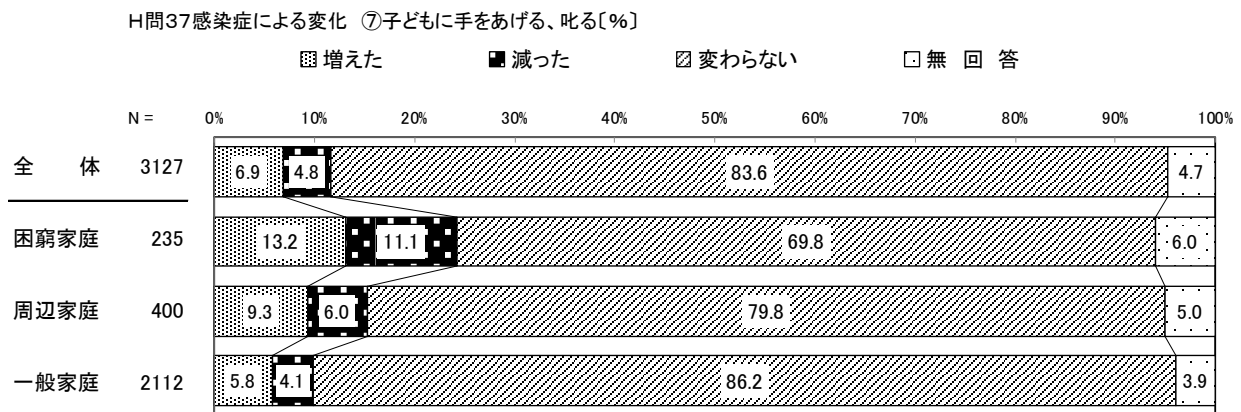
生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 28.0%に比べて、周辺家庭で 46.3%、困窮家庭で 56.2%と多くなっている。



7) お子さんに手を挙げたり、きつくしかったりした

お子さんに手を挙げたり、きつくしかったりしたことは、「増えた」が 6.9%、「減った」が 4.8%、「変わらない」が 83.6%となっている。

生活困窮度別では、「増えた」の割合は、一般家庭の 5.8%に比べて、周辺家庭で 9.3%、困窮家庭で 13.2%と多くなっている。

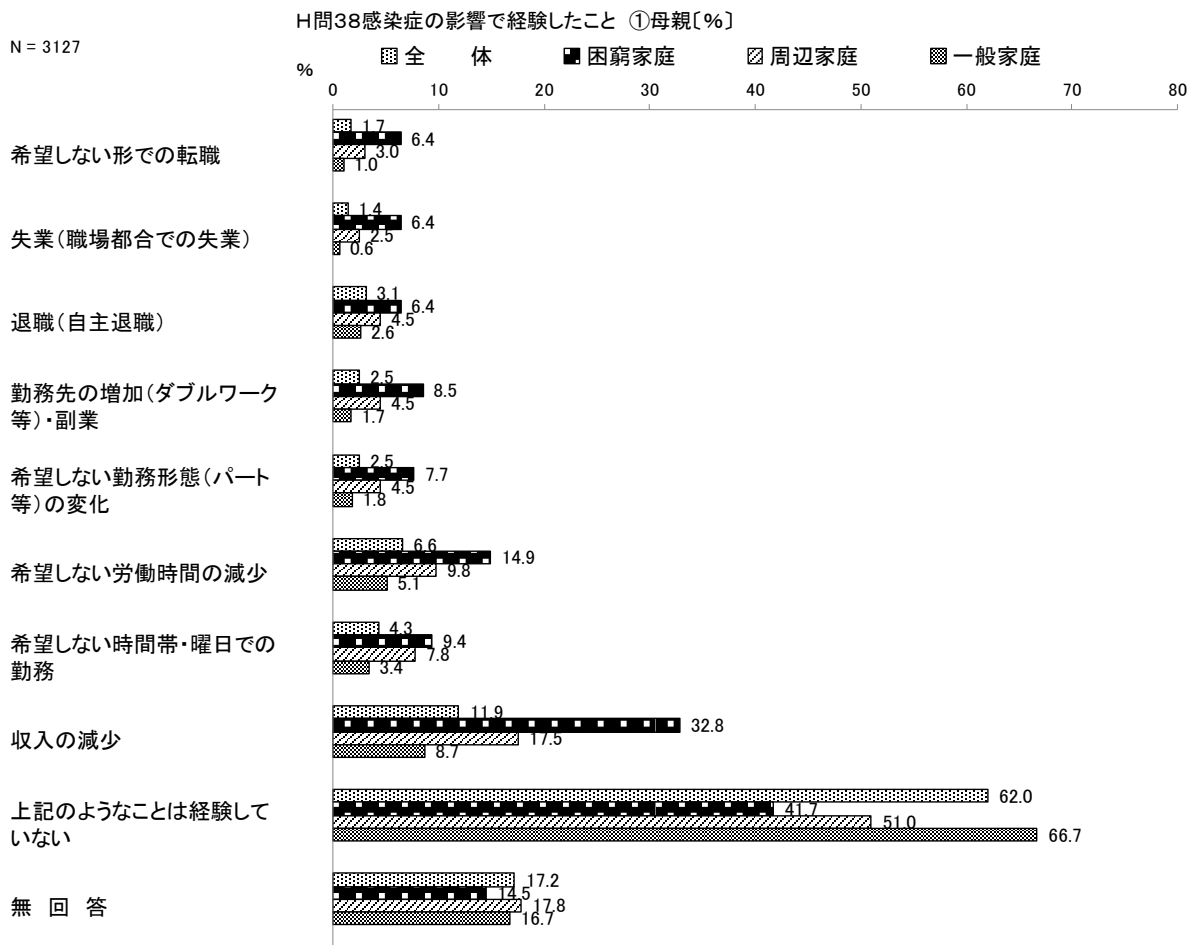
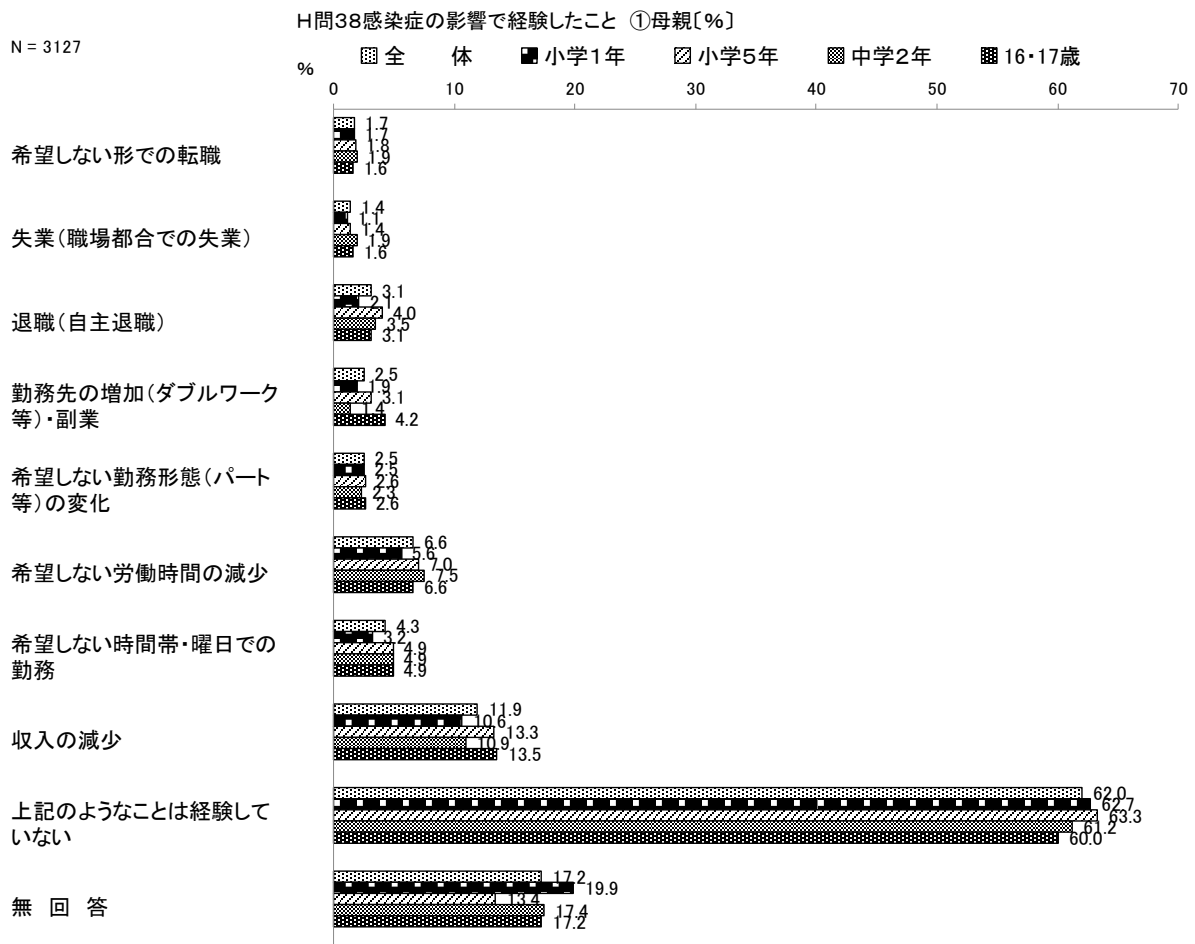


問 38 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、次のようなことを経験しましたか。

[母親]

母親が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経験したことは、「上記のようなことは経験していない」が 62.0%と最も多く、「収入の減少」が 11.9%、「希望しない労働時間の減少」が 6.6%、「希望しない時間帯・曜日での勤務」の 4.3%などとなっている。

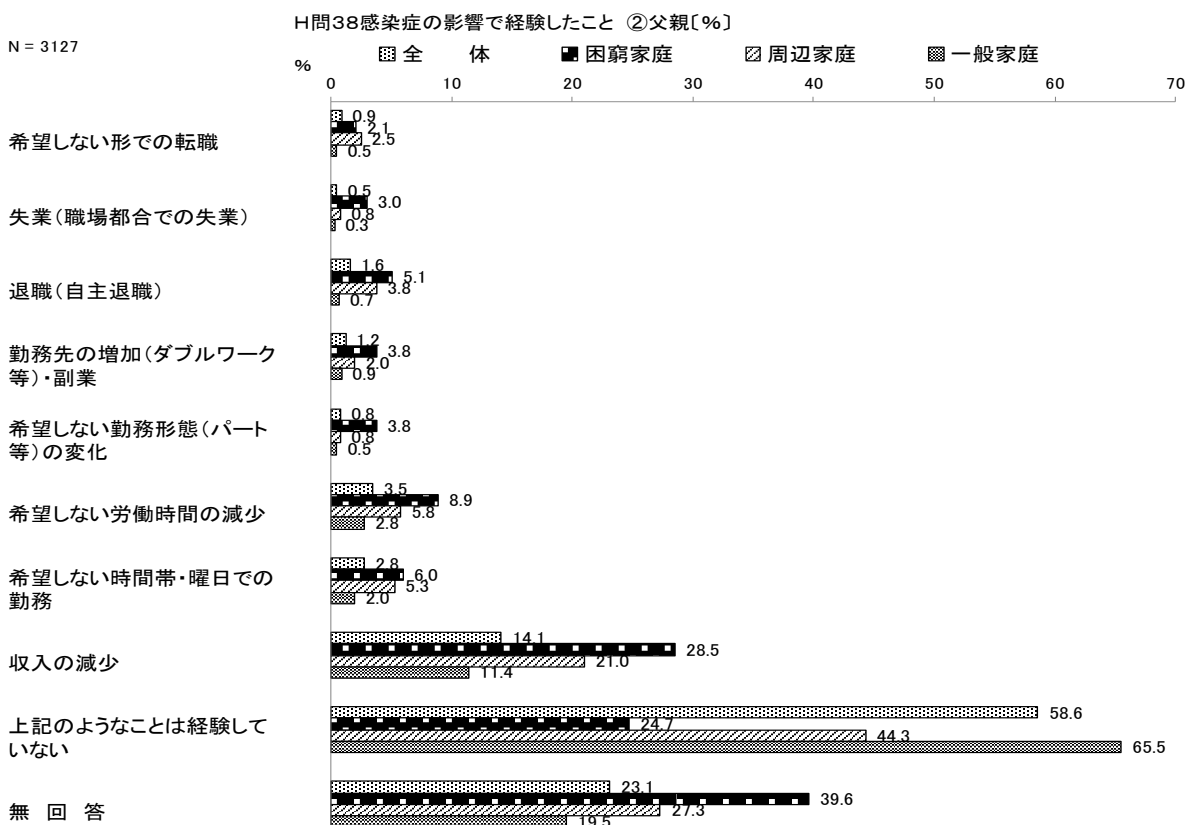
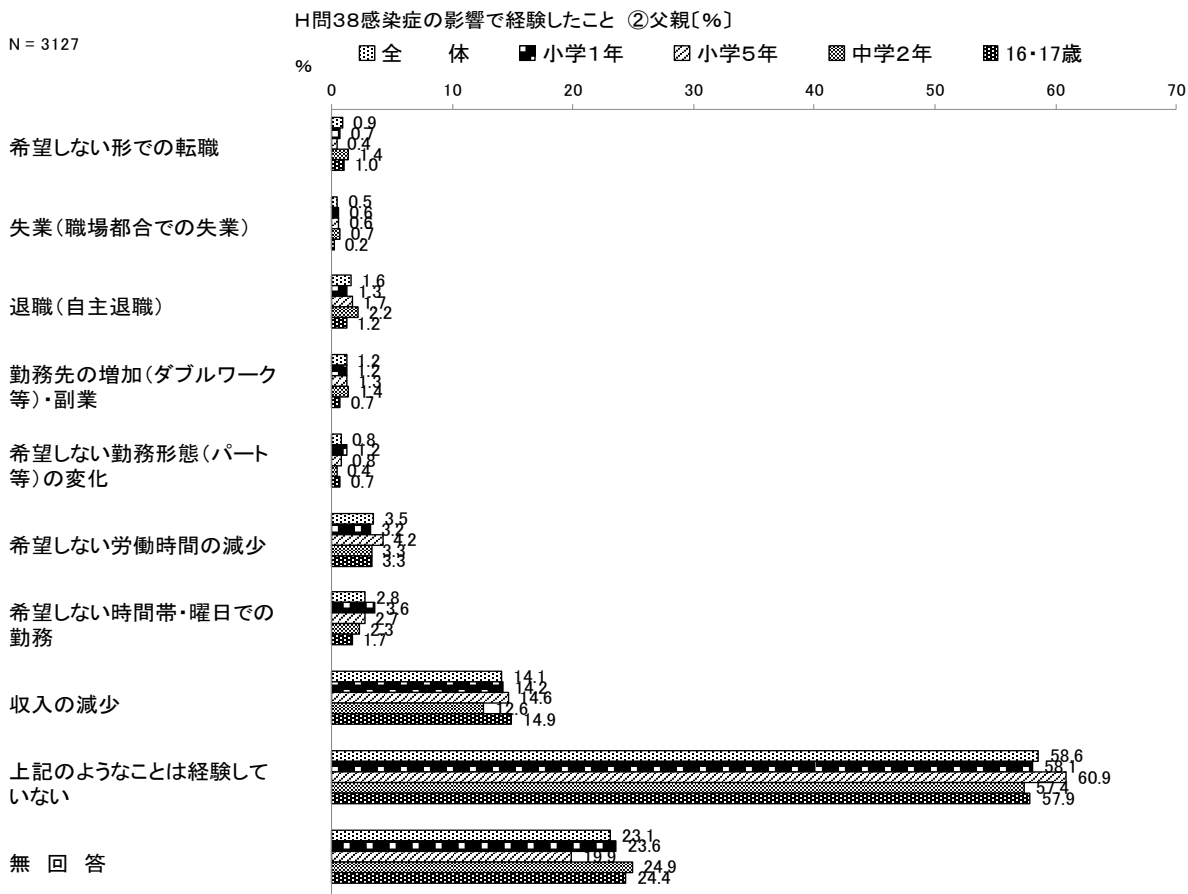
生活困窮度別では、困窮家庭で「収入の減少」が 32.8%、「希望しない労働時間の減少」が 14.9%などほとんどの項目で他の区分よりも回答割合が多くなっている。



[父親]

父親が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経験したことについては、「上記のようなことは経験していない」が58.6%と最も多く、「収入の減少」が14.1%などとなっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「収入の減少」の28.5%をはじめ、ほとんどの項目で他の区分よりも回答割合が多くなっている。

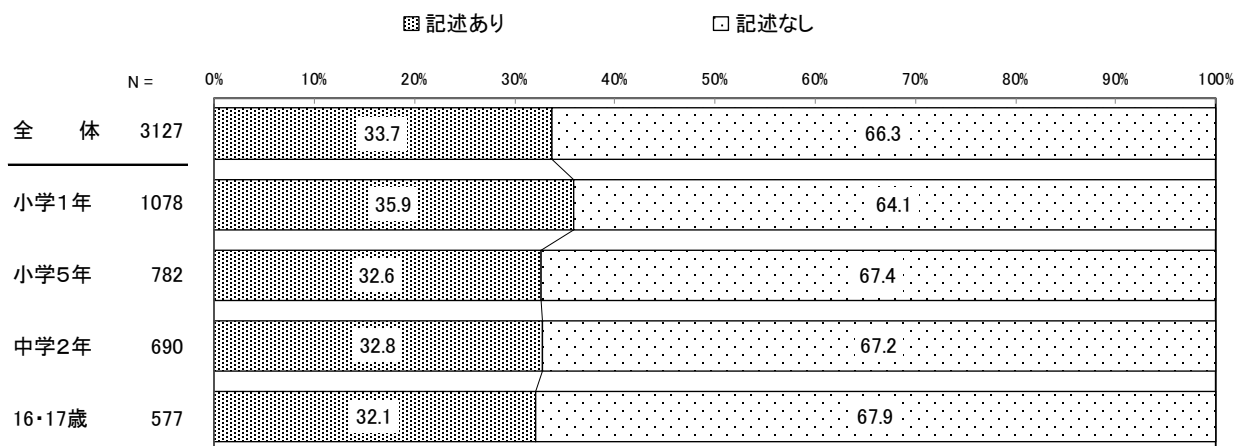




## (10)意見等

問 39 あなたが今、子育てで困っていることや悩みごと、子育てに関する意見がありましたら、ご自由にお書きください。

H問39 自由意見[%]



[自由意見のまとめ上位7項目 小学1年保護者]

順位	内容	件数
1位	学童保育や保育園、子どもを預ける場所に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>学童の時間(閉館)が、親の就労形態と合わないため、利用できない。</li> <li>学童が利用しにくい。</li> <li>夏休みの利用には、弁当が必要であるが、お金を負担してもいいので出してほしい。</li> <li>保育時間にもう少し幅があるとありがたいと感じる。</li> <li>児童センターの人数が多すぎて、安心して預けることができないため、毎日、祖父母に面倒を見てもらわなければならない、困っている。</li> <li>育休復帰しても、保育園以外預けるところがなく、病気などの場合、仕事を休むしかない。</li> </ul>	69件
	経済的な面で生活が苦しい・不安がある <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの教育資金などを今後支払う事ができるのかが不安である。</li> <li>子育てにかかるお金の工面に困っている。</li> <li>現在の収入では、生活が成り立たない。</li> <li>仕事での収入が減っているものの、物価高騰により支出が増えるばかりで家計への打撃が大きい。</li> <li>子どもが希望する習い事をやらせてあげたいが、金銭的、時間的(送迎等)に難しい。</li> <li>成長は嬉しいし、楽しみだが、進学費用が不安である。</li> </ul>	
2位	子育て支援(金銭面)に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の未来のため、教育に関する費用は無料にしてほしい。</li> <li>最優先は給食費の無償化で、次は高校の授業料の無償化である。</li> <li>児童手当が少ない、何かとお金がかかるので、増やしてほしい。</li> <li>未満児の保育料の減額や無償化を希望する。</li> <li>負担になっている医療費や給食費を無料にしてほしい。</li> </ul>	55件
	仕事や職場環境に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがいても短時間で働ける仕事をもっと増えてほしい。</li> <li>子育てしやすいような配慮がある会社等が増えてほしい(リモートワーク等の充実など)。</li> <li>育休復帰しても保育園以外預けるところがなく、病気などの場合、仕事を休むしかない。</li> <li>現在の職場で時短を取れないため、フルタイム復帰しか選択肢がない。</li> <li>正規でも、子育て世帯の働き方が柔軟に選択できるようになってほしい。</li> </ul>	
3位	子どもへの悩みに関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが小学生になり、学校での様子、友達との関係、登下校中の事故などの心配事が増えた。</li> <li>大らかに見守ることは案外難しい。</li> <li>イライラが常にあり、子ども達にきつく当たってしまう。</li> <li>言い出したら止まらなくなってしまう。</li> <li>余裕がない時がある。</li> <li>長女が中1で反抗期になって、接するのが難しい。</li> <li>子ども達が学校で友達とのトラブルがあった時に解決するのが難しい。</li> <li>子どもが多く、それぞれにかけられる時間が少ない。</li> </ul>	各45件
	新型コロナウイルス感染症の影響に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもにもっと色々な事を経験させたいが、新型コロナウイルス感染症を気にして、行動を制限してしまっている。</li> <li>コロナの影響でスキーやプールに行く機会が失われ、幼少期にさせてあげられなかったことが残念である。</li> <li>学校の行事がコロナで縮小され、参観できない。もっと子どもの行事に参加したい。</li> <li>家族や兄弟がコロナを発症していなくても、自宅待機になったり休みをとらないといけないことがあり、仕事が進まず、支障をきたす事が多い。</li> </ul>	
4位	子育ての環境や支援に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てしている時に無料の電話相談があるといいなと思った。</li> <li>子どもや自分自身のことで相談(カウンセリング)してもらったり、話をしたいと思うが、窓口がどこかわからない。</li> <li>子育ては、母親がするものという考え方がほとんどの人にあるため、父親の育児はやりづらい。</li> <li>毎日が忙しく、子どもとなかなか向き合えない。</li> <li>仕事と家事、子育てに追われる日々で、どうしてこんな人生になってしまったのかと後悔してしまう。</li> </ul>	44件
	5位	

[自由意見のまとめ上位7項目 小学5年保護者]

順位	内容	件数
1位	教育環境(教員、授業、設備)、給食、PTA等学校生活に関すること	33件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮の必要なお子さんが多くなり、その対応で教職員の方の負担が年々増えているように感じる。</li> <li>子どもに関する悩みごとを学校の担任の先生に相談したいが、とても忙しそうで相談できない。</li> <li>小学校・中学校の給食費が無料になればいいと思う。</li> <li>食物アレルギーへの対応。PTA活動をなくしてほしい。</li> </ul>	
2位	教育にかかる費用に関すること	29件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの進学、学習塾の費用が高額で困っている。</li> <li>高校の授業料無償化や、大学の奨学金など、親の所得により受けられないというのはおかしいと思う。</li> <li>所得制限の上限金額を高くして平等に制度が受けられるようにしてほしい。</li> <li>子育てに関する社会制度(児童手当、就学支援、給付費など)を「所得制限」という観点のみで排除しないでほしい。</li> </ul>	
3位	行政への要望	21件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てにおいてやること、取組みが遅いと感じる。</li> <li>子育て支援の手厚い県市町村の政策をもっと参考にして取り入れれば良いと思う。</li> <li>市町村によって福祉医療費受給者の年齢に違いがある。しっかりと受診できるように一律に高校卒業する年齢まで統一してほしい。</li> </ul>	
4位	子どもの居場所(放課後施設、公園、スポーツ施設等)に関すること	20件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと過ごす公園や無料で遊びのび遊べる所が少ないのが困る。</li> <li>学校のプラザなど無償になったらありがたい。</li> <li>学校以外で勉強をきちんとみてもらえる所がほしい。</li> <li>子どもが休みでも大人は仕事があるので、子ども達だけでも過ごせる場所がほしい。</li> </ul>	
5位	家庭環境(家計、家族の関係)に関すること	各17件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金が足りなくて、食品、服(子ども服も)なども買えないこと。</li> <li>父親の子育てへの不参加。</li> <li>子育てに関して自分の考え方の違いが多い。</li> <li>母子、父子家庭で同じ悩みや不安を語り合える場や機会がほしい。</li> </ul>	
7位	コロナの子ども達への影響に関すること	13件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの影響で学校の行事や地区のイベント等が減ってしまったため、子どもが人と接する機会が減ってしまった。</li> <li>子ども達(小中学生)の学校でのマスクは外させてあげてほしい。</li> <li>コロナ禍でなのか、子どもが悲観的になったり、気持ちの浮き沈みが大きくなった。</li> </ul>	
7位	家での子どもの様子	13件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活のIT化(タブレット1人1台の使用等)やコロナ禍のせいで、より家の中でゲームをすることが多くなり、子ども達の視力低下が問題となっている。</li> <li>家で遊ぶ時間の増加で動画、ゲームの時間が多くなり、勉強よりもそちらの方を優先しているようなことが多くなった。</li> <li>気に入らないことがあるとふてくされたり、舌うちをしたり、自分の部屋に閉じこもることが多くなり、どう接していいかわからない。</li> </ul>	

[自由意見のまとめ上位7項目 中学2年保護者]

順位	内容	件数
1位	教育費など子どもにかかる費用に関すること	56件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校、大学進学にかかる費用が心配である。</li> <li>教育費がとにかくかかり大変である。</li> <li>子どもの多い家庭への大学費用などもっと増やしてほしい。</li> <li>医療費を高校生まで無料にしてほしい。</li> <li>子どもは高校になってからお金がかかるのに児童手当が中学でなくなるのはどうかと思う。</li> </ul>	
2位	学習面や学校に関すること	46件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力に関する悩みがある。</li> <li>どうやったら勉強を効率よくできるかなどである。</li> <li>中学校は、制服や学校指定の購入が多く、お金がかかる。</li> <li>もっと柔軟にしてほしい。</li> <li>担任により、相談できるできないが分かれる。</li> <li>教師の質にばらつきがあり、担任や校長が変わることで良くも悪くも変わってしまう。</li> </ul>	
3位	子育てや子どもに対する悩みに関すること	24件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもは将来について、夢や希望がなく、この先の進路について心配である。</li> <li>思春期真っただ中で反抗期である。</li> <li>大きな声を出し、イラつく子どもを見ていて怖い。</li> <li>子どもの思いと自分の思いがぶつかってしまう事が増えた。</li> <li>父親と母親の子育てについての価値観が違う。</li> </ul>	
4位	不登校に関すること	18件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の子どもとの接し方に悩んでいる。</li> <li>子どもが学校に行かず(不登校)学力の遅れ、対人関係、社会への自立ができるか心配である。</li> <li>子どもはいじめにより、2年前から不登校になった。</li> <li>中間教室などには行けない。・フリースクールは高額である。</li> <li>全ての子どもたちに平等に与えられているはずの学ぶ権利を、平等に実現するために必要な公的支援を適用してほしい。</li> </ul>	
5位	部活動や社会体育などに関すること	各15件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の送迎が大変である。</li> <li>中学の社会体育で活動を行っているが、保護者の負担が大きい。</li> <li>部活が以前ほどと言わないまでも、もう少し活発になればいいと思っている。</li> <li>コロナ禍の影響なのか、部活に入る子ども達が減っているように感じる。</li> <li>週末の指導を外部移行することだが、指導者の確保に困難を伴うことが予想される。</li> <li>週末だけの指導となると、子どもの習熟レベルが維持可能か疑問を感じる。</li> </ul>	
7位	障がいに関すること	13件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障がいの子どもへの教育の理解、充実した学校生活、教員の確保が必要だ。</li> <li>学習に困難を抱える子どもにとって高校入試に関しての配慮があまりされていないことに不安がある。</li> <li>重い障がいを持つ人への支援も大切だが、制度の狭間で支援が受けられない人への支援も考えてもらいたい。</li> <li>高校生になったら全く支援が受けられないのでは、と不安である。</li> </ul>	
7位	新型コロナウイルス感染症の影響に関すること	13件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナで子ども達の行動が制限され、ストレスが多くなるのが気がかりだ。</li> <li>過剰なコロナ自粛の政策により子どもが通常の教育を受けさせてもらえないことに不満がある。</li> <li>コロナにより、子どもが学校を休むことのハードルが低くなった(健康観察にチェックが1つでもあると休みと言われているため)が、欠席した場合のフォローや、欠席が多くなった時の成績への評価の配慮があまりない。</li> </ul>	

[自由意見のまとめ上位7項目 16・17歳保護者]

順位	内容	件数
1位	子育て支援に関して行政に望むこと	50件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費と教育費を無償にしてほしい。</li> <li>・児童手当はせめて高校を卒業するまで支給してほしい。</li> <li>・子育て世帯に対しての費用や制度はもっと負担を減らしてほしいと思う。</li> <li>・将来子ども達もこの長野県で子育てしたいと思えるような、子育てのしやすい県であってほしい。</li> </ul>	
2位	教育費(学費や進学にかかる費用)に関すること	47件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学のための経済的負担が大きいため、無償化してほしい。</li> <li>・大学進学を勧めたいが、教育費、生活費等が高くて考えてしまう。</li> <li>・奨学金を借りたとしても、その後の返済が大変だと思う。</li> <li>・子どもは進学したいが、資金がない。</li> <li>・高校進学後、学費でお金がかかるため、少し補助等が出る制度をつくってほしい。</li> </ul>	
3位	家庭環境(家計や生活)に関すること	34件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、色々値上がりしているのが大変だ。</li> <li>・これから夏休みに入ったりするとさらに大変になる。</li> <li>・少しでも生活しやすくなってほしい。</li> <li>・過疎地域で暮らしているが、バス代(交通費)が毎月高額で困る。</li> <li>・自転車や電車で通える地域がうらやましい。</li> </ul>	
4位	子どもの様子に関すること	28件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものネット依存がひどい。</li> <li>・携帯やタブレットを使った勉強時間が増え、ゲームやYouTubeとともに画面を見続ける時間が増えた。</li> <li>・子どもが話をしない(反抗期)こともあり、将来に対する考えがわからない。</li> <li>・昨年、子どもが不登校になって、ひきこもり傾向になった。心療内科に通院しているが、この先の不安が大きい。</li> </ul>	
5位	学校や教育環境に関すること	26件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の時に行くことができなかった修学旅行に、高校では行かせてあげてほしい。</li> <li>・発達障がいに対する支援が必要である。</li> <li>・まだまだ脳が発達途上にある子どもたちに、タブレットやスマホを使用している授業が本当に必要なのか、十分検討して頂きたいと思う。</li> </ul>	
6位	進路や将来に関すること	19件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の進路が心配である。</li> <li>・進路の相談を専門の人や、その経験者に相談したい。</li> <li>・子どもに合う仕事が見つかってほしい。</li> <li>・子どもに合った仕事が見つけれられるか心配である。</li> </ul>	
7位	収入や職場環境に関すること	16件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が増えない。</li> <li>・仕事を休むことに気を遣う。</li> <li>・仕事が残っていて帰れないため、家族との時間を大切にしたいのに、そんなことさえできない。</li> <li>・女性にも働きやすく、子育てにもっと時間配分できる社会になることを望む。</li> </ul>	